

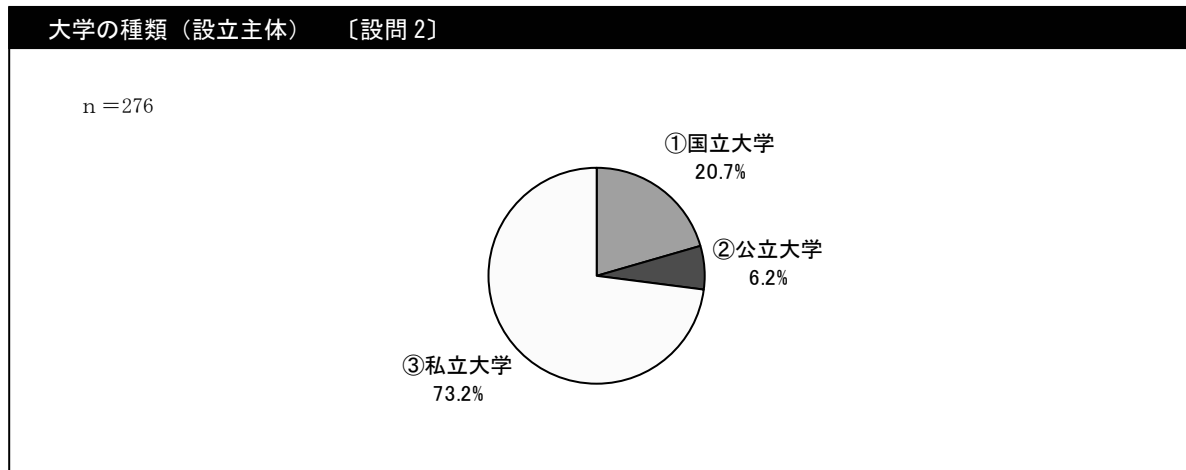
第2章 調査結果の集計と分析 <データ編>

第2章 調査結果の集計と分析 <データ編>

n(サンプル数)について: 各設問項目における回答件数。ただし、単数選択の設問において複数を選択している場合など、誤答と見なされる回答については、無効として集計対象から除いている。

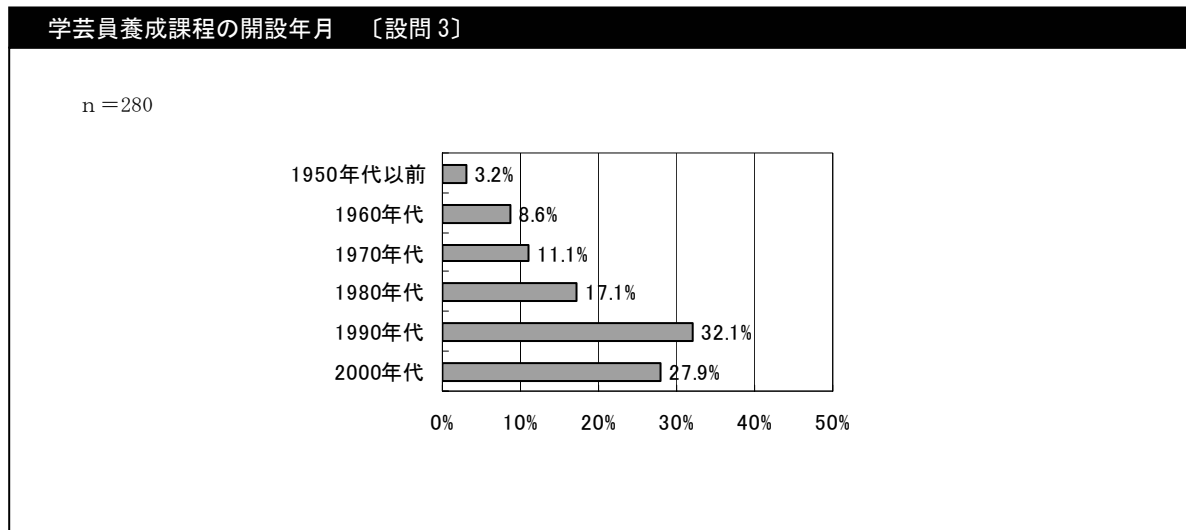
1. 調査A 大学教員を対象にした調査

(1) 大学に関する事項



●大学の種類 (設立主体) [設問 2]

- ・ 回答大学を設立主体別に見ると、およそ4校に3校が私立大学である。



●学芸員養成課程の開設年月 [設問 3]

- ・ 回答の分布状況を見ると、1980年代以降が全体の4分の3以上を占める。特に1990年代以降が多く、全体の6割を占めている。なお、分野が異なる学部や通信教育部など、複数の学部で開講している大学からの回答も含まれているため、本設問の n 値は回答大学数 (276校) より多くなっている。

(2) 学芸員養成課程の担当教員に関する事項

n = 296

回答者の専門分野 [設問 5-1]

考古学 / 日本考古学 / 東洋考古学 / 西アジア考古学 / 歴史考古学(陶磁史) / 仏教考古学 / 先史考古学 / 産業考古学 / エジプト学(古代エジプト史) / オリエンツ学 / インダス文明 / 日本史学 / 日本史 / 日本古代史 / 日本中世史 / 日本近世史 / 近代日本史 / 国史学 / 歴史学 / 古代史 / 近世史 / 仏教史 / 近世真宗史 / 医学史 / 民俗学 / 日本民俗学 / 民具学 / 文化資源学 / 物質文化研究 / 比較文化論 / 英語文化論 / 日仏比較文化 / 表象文化論 / 文化政策学 / 社会学 / 近世日本経済史 / 文化人類学 / 社会人類学 / 南アジア地域研究 / 美学 / 美学美術史学 / 美術史学 / 美術史(日本・東洋) / 美術史(工芸) / 現代美術史 / 日本美術史 / 日本美術史(日本彫刻史) / 日本美術史(近世絵画史) / 日本美術史(染織史・服飾史) / 日本近代美術史 / 近代日本美術史 / 日本絵画史 / 日本絵画史(中・近世) / 日本書道史 / 日本工芸史 / 日本東洋美術史 / 東洋美術史 / アジア美術史 / 仏教美術史 / 西洋美術史学 / 西洋美術史 / 西洋中世美術史 / 西欧近代美術史 / 文化史学 / 日本文化史 / 中国文化史 / ギリシア文化史 / 東西文化交流史 / 生活美術 / デザイン(ビジュアル・デザイン) / コンピュータグラフィックス / 美術工芸 / テキスタイル(染色工芸) / 芸術学 / 現代芸術学 / 芸術社会学 / 芸術論(映像論・デザイン史) / アート・マネジメント / 近世・近代美術 / 近現代美術 / 現代美術 / 現代美術(日本、アジア、欧米) / 美術作学 / 絵画の技法・材料研究 / 絵画 / 現代絵画の創作と研究 / 演劇史 / 漫画史 / フランス文芸学 / 教育学 / 社会教育学 / 生涯学習学 / 生涯学習論 / 生涯学習基盤経営論 / 教育哲学 / 美術科教育法 / 鑑賞教育 / 文化財科学 / 文化財科学(染織品保存修復) / 文化財保存学 / 保存科学 / 文化財学 / 書跡文化財学 / 文化財保護 / 染織史 / 染織文化史 / 服装史 / 服飾文化 / 比較文学 / 西洋古典 / 日本文学 / 日本文学(歌謡) / 日本語日本文学 / 博物館学 / 美術館学 / ミュージアム・スタディーズ / 展示学 / 博物館教育論(ハンズオン、アウトリーチ、ワークショップスキル) / 博物館概論 / 博物館実習(古文書) / 博物館情報学 / 図書館情報学 / コミュニケーション論 / 文化情報 / 情報科指導法 / 史料学 / 記録史料学 / 楽器学 / 神道学 / 心理学 / 文化地理学 / 生物学 / 古生物学 / 進化古代生物学 / 層位・古生物学 / 地質・古生物 / 保全生物学 / 自然人類学 / 植物学 / 植物生態学 / 植物形態学 / 植物分類学 / 比較形態学 / 生態学 / 動物学(生態、形態) / 動物分類学 / 系統動物学 / 動物行動学 / 昆虫学 / 応用昆虫学 / 昆虫生態学 / 野生動物医学 / 水産学 / 地学(地質学) / 古環境学 / エコロジカルデザイン / 環境農学 / 農業技術史 / 繊維材料科学 / 材料研究 / 景観工学 / 土木史 / 都市史学 / 都市計画(史) / 日本建築史 / 建築意匠・歴史 / 民俗建築学 / ランドスケープデザイン / 地質学 / 地理学 / 雪氷リモートセンシング / 農学 / 科学教育学 / 環境教育学

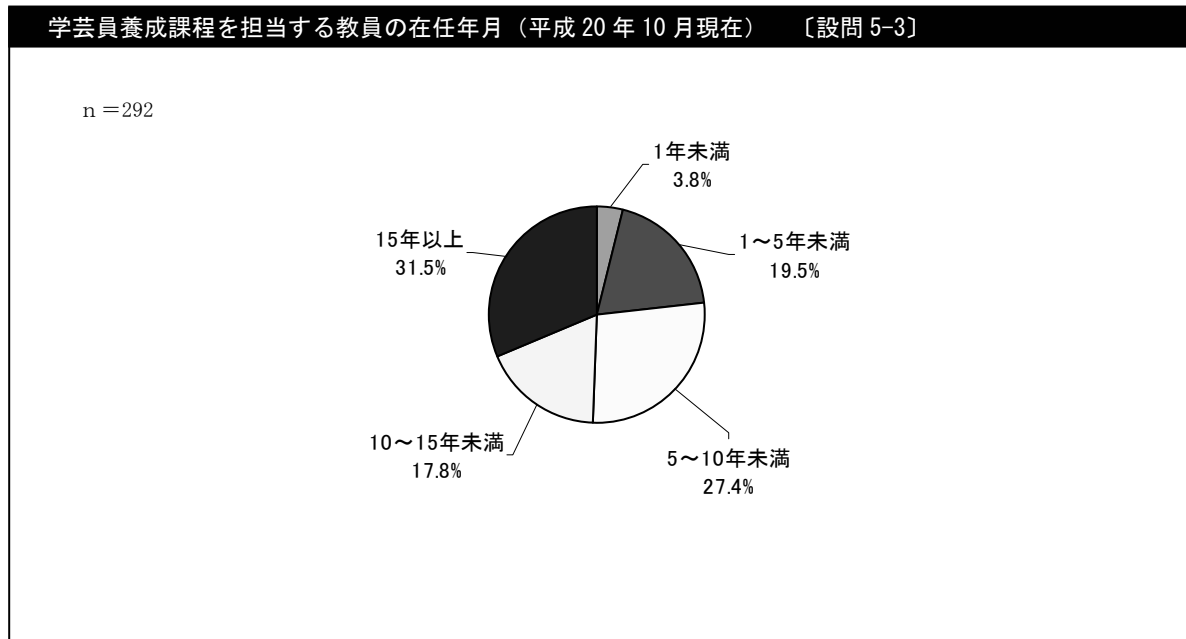
n = 147

回答者の所属する学会名 [設問 5-2]

全日本博物館学会 / 全国大学博物館学講座協議会 / 全国大学博物館学協議会西日本部会 / 大学博物館等協議会 / 日本展示学会 / 日本ミュージアム・マネジメント学会 / 財団法人 日本博物館協会 / ICOM(国際博物館会議) / 博物館問題研究会 / 歴史学と博物館のあり方を考える会 / 博物館保存科学研究会 / 日本エコミュージアム研究会 / 西日本人文系学芸員研究会 / 北海道博物館協会 / 沖縄県博物館協会 / 日本文化財科学会 / 文化財保存修復学会 / 文化財保存全国協議会 / 特定非営利活動法人 工芸文化研究所 文化財と技術の研究会 / 日本文化人類学会 / 有限責任中間法人 日本考古学協会 / 社団法人 日本オリエンツ学会 / 美学会 / 日本アートマネジメント学会 / 明治美術学会 / 美術史学会 / 日仏美術学会 / 国際美術評論家連盟 / 美術評論家連盟 / 意匠学会 / アート・ドキュメンテーション学会 / 日本美術教育学会 / 民族芸術学会 / 日本民俗学会 / 沖縄民俗学会 / 日本史学会 / 日本史研究会 / 大阪歴史学会 / 歴史学研究会 / 財団法人 史学会 / 日本民具学会 / 近畿民具学会 / 社団法人 日本解剖学会 / 社団法人 日本動物学会 / 社団法人 日本獣医学会 / 日本野生動物医学会 / 日本動物分類学会 / 日本古生物学会 / 日本昆虫学会 / 日本庭園学会 / 日本社会教育学会 / 日本生涯教育学会 / 文化経済学会<日本> / 日本文化政策学会 / 福岡大学 歴史学科 福岡金属遺物談話会 / 日本第四紀学会 / 日本印度学仏教学会 / 書学書道史学会 / 服飾美学会 / 国際服飾学会 / 国際浮世絵学会 / 一般社団法人 日本地質学会 / 社団法人 日本アミュージメントマシン工業協会 / IIC(The International Institute of Conservation of Historic and Artistic Works, UK) / Icon(The Institute of Conservation, UK)

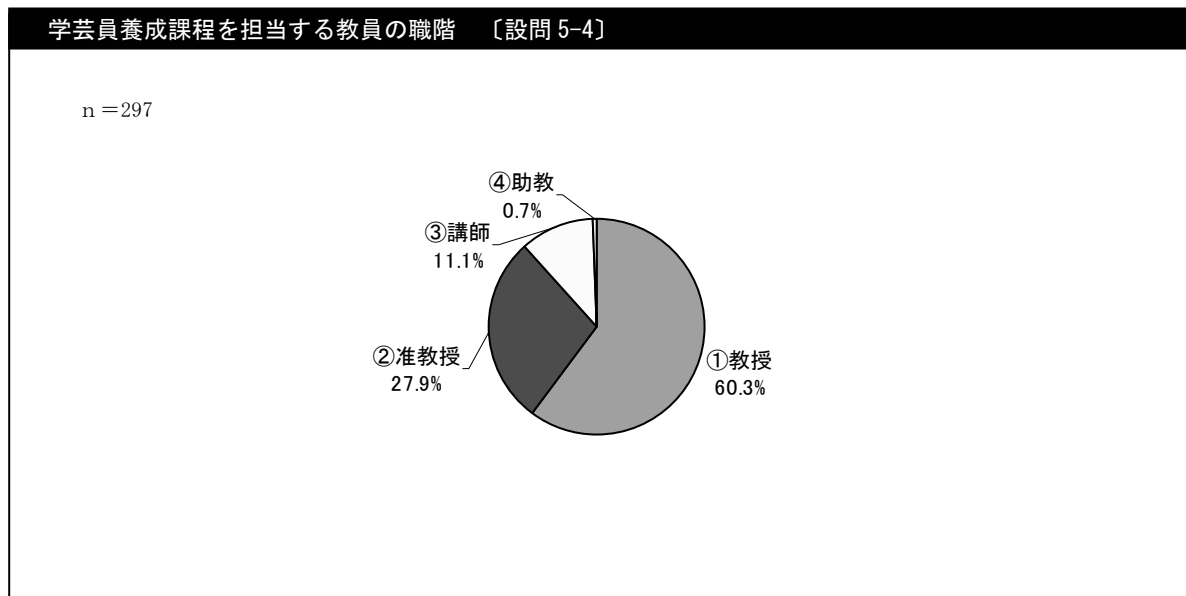
●回答者の専門分野・所属学会 [設問 5-1, 2]

- ・回答者の専門分野を概観すると、人文系の方が自然系よりも多く、特に歴史や美術史などに関する分野を専門とする教員が多い。また、博物館学や博物館教育論、展示学など、博物館に関する分野や、文化財学、文化財保護、保存科学など、文化財に関する分野を専門としている教員から回答が寄せられていることがわかる。一方、自然系の分野では、古生物学や地質学、植物学、動物学などを専門としている教員から回答が寄せられている。
- ・回答者が所属する学会(研究会や協会、協議会などを含む)に関する回答は、博物館・博物館学関連以外にも、美術・美術史関連、歴史関連、動物・動物学関連の学会が多く見られた。



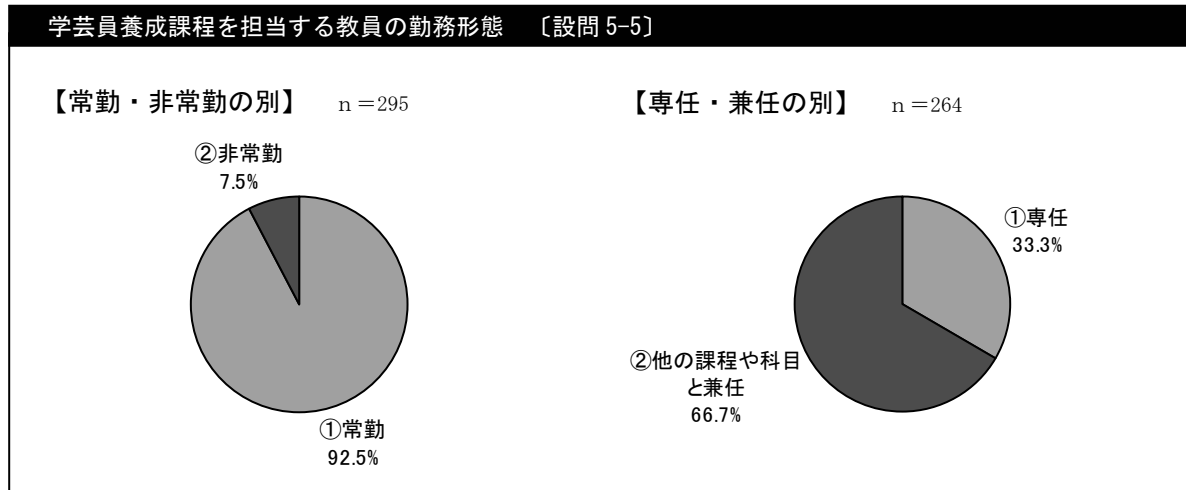
●学芸員養成課程を担当する教員の在任年月（平成20年10月現在） 【設問5-3】

- ・ 回答者が勤務する大学における在任年月を単純集計すると、最大値は40年、最小値は1カ月、平均値は11.4年、中央値は9年である。
- ・ 回答の分布状況を見ると、15年以上が最も多く、全体の3割以上を占めている。この数値と10～15年未満の数値を合わせると全体の約5割を占めることから、回答者の約半数が10年以上在任していることになる。



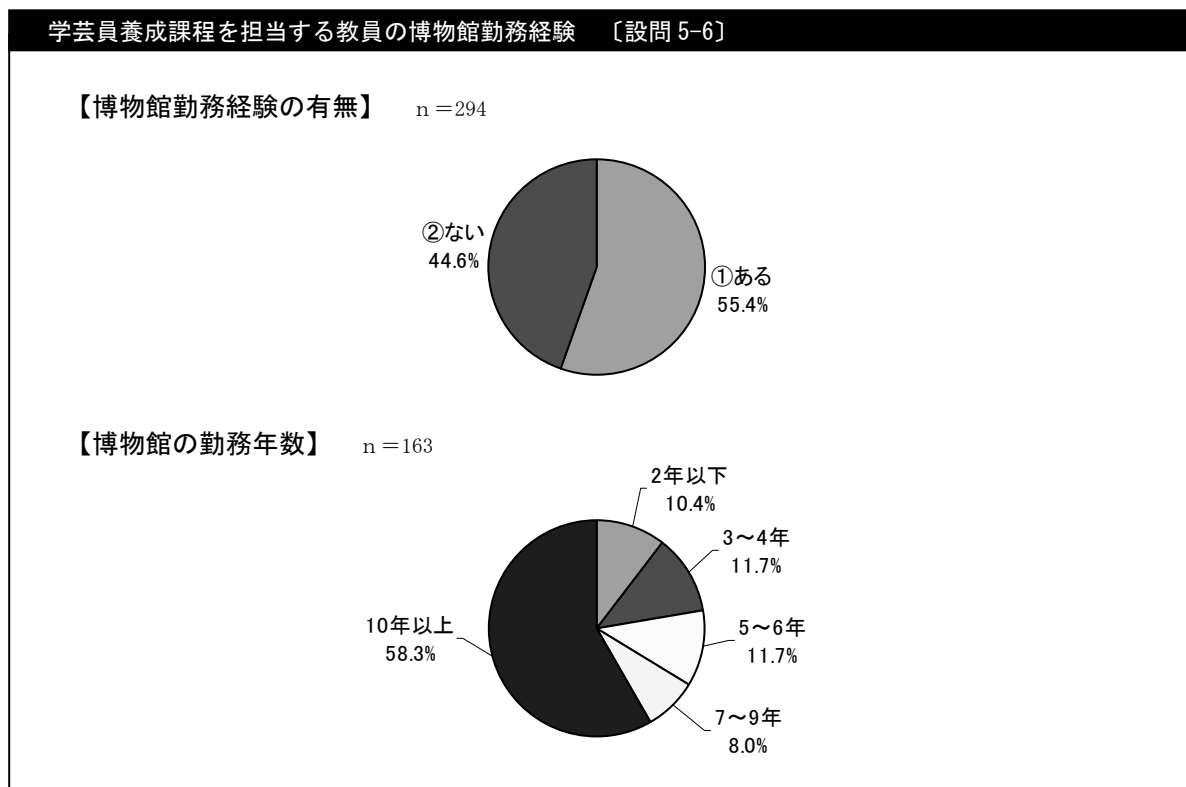
●学芸員養成課程を担当する教員の職階 【設問5-4】

- ・ 回答者の職階は、教授が60.3%、准教授が27.9%、講師が11.1%、助教が0.7%で、教授が全体の約6割を占めている。



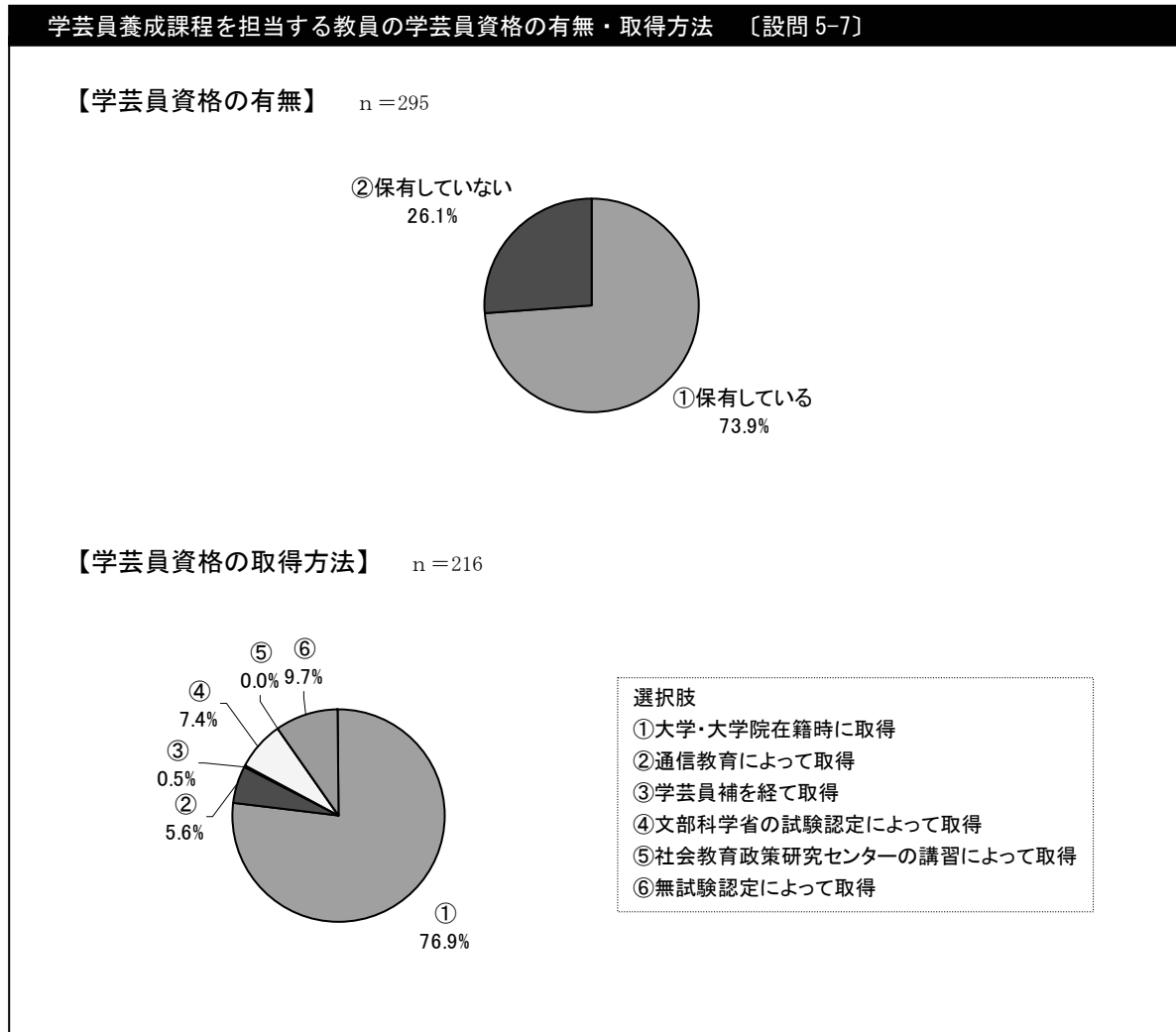
●学芸員養成課程を担当する教員の勤務形態 [設問 5-5]

- ・ 回答者の勤務形態は、常勤が全体の9割以上を占めている。また常勤と回答した教員に専任か兼任かを尋ねたところ、兼任が全体の7割近くを占めていることがわかる。
- ・ なお、本調査では回答者の選定にあたって、常勤職員を優先してもらうように促した。また、常勤教員が在籍していない場合は非常勤教員や兼任教員に回答を依頼している。



●学芸員養成課程を担当する教員の博物館勤務経験 [設問 5-6]

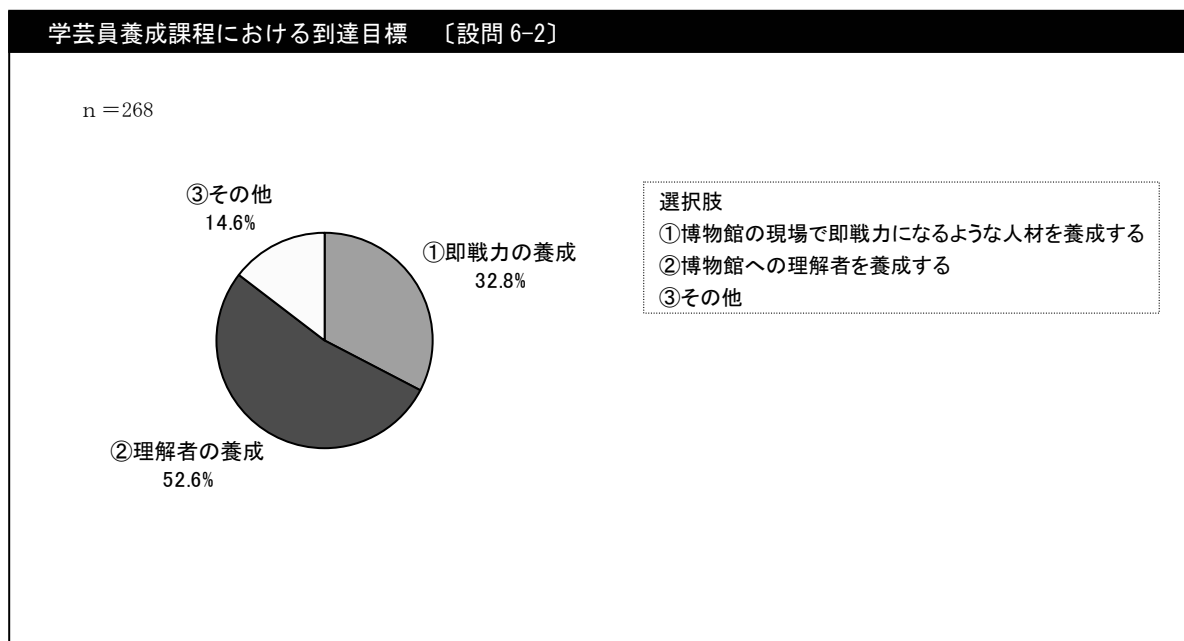
- ・ 回答者の半数以上が博物館に勤務したことがある実務家教員である。この結果は、調査にあたって、実務家教員を優先して回答してもらうように依頼したことと関連していると考えられる。
- ・ 博物館に勤務した経験があると回答した教員を対象に、博物館での延べ勤務年数を尋ねた。その結果を単純集計すると、最大値は40年、最小値は2カ月、平均値は12.9年、中央値は12年である。また、回答の分布状況を見ると、10年以上が最も多く、全体の6割近くを占めている。この結果を参考にすると、学芸員として十分なキャリアを積んだ上で、大学で学芸員養成課程を担当している回答者が多いことがわかる。



●学芸員養成課程を担当する教員の学芸員資格の有無・取得方法 [設問 5-7]

- ・学芸員資格を持っている回答者は全体の約4分の3に該当したが、一方、全体の約4分の1の教員が学芸員資格を持っていないと回答したことに注目すべきではないかと考える。
- ・なお、学芸員資格を持っていると回答した教員を対象に、学芸員資格の取得方法を尋ねたところ、最も多かったのは「大学・大学院在籍時に取得」という回答で、全体の4分の3以上を占めている。次いで、「無試験認定によって取得」と回答した教員が約1割を数えた。

(3) 学芸員養成課程に関する事項



●学芸員養成課程における到達目標 【設問 6-2】

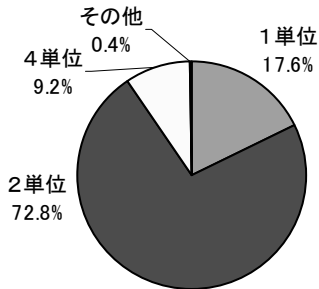
- ・学芸員養成課程の到達目標について尋ねたところ、「博物館への理解者を養成する」という回答が全体の半数以上を占め、「博物館の現場で即戦力になるような人材を養成する」という回答を約20ポイント上回っている。
- ・なお、「その他」の回答は、次のように分類することができる。①即戦力となる人材の養成に近い回答（「理工・工学のわかる学芸員の輩出」、「普及事業に携わる学芸員、博物館観光の理解者を育成する」、「到達目標は即戦力となる人材の養成を念頭に置いている。資格者を養成する課程なのだから最初から理解者を養成することを目標とするのは本来あるべき姿ではない」など）、②即戦力となる人材の養成と理解者の養成の中間に位置する回答（「即戦力となる人材の養成は無理である。学芸員としてスタートが切れるレベルの人材の養成を目標としている」、「博物館についての基礎的知識を有し、将来チャンスがあれば学芸員として活動できるような人材の養成」、「できるだけ博物館での戦力となることを心掛けつつ、広く一般に通用する知識や方法（ノウハウ）を学び、かつ、自分で考えて行動できるように心掛けている」など）、③理解者の養成に近い回答（「博物館だけでなく、社会教育や文化財保存などの市民活動を担う人材を広く養成する」、「文化の専門家として地域貢献できる人材の養成」、「生涯教育及び学校教育の場を支える人材を育成する」、「地域文化コミュニケーター教員の養成」など）が見られた。

学芸員養成課程の履修科目【単位数】 【設問 7-1】

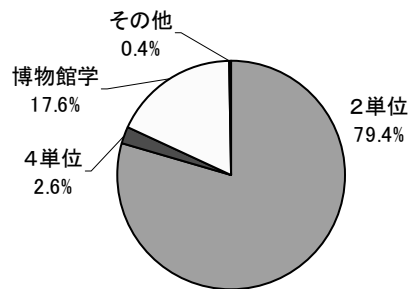
■ 科目の統合と単位数について

- ・博物館概論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学の単位(6単位以上)をもって替えることができる。
- ・博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学各論の単位(4単位以上)をもって替えることができる。
- ・博物館実習の単位数は、大学における博物館実習に係る事前及び事後の1単位を含むものとする。

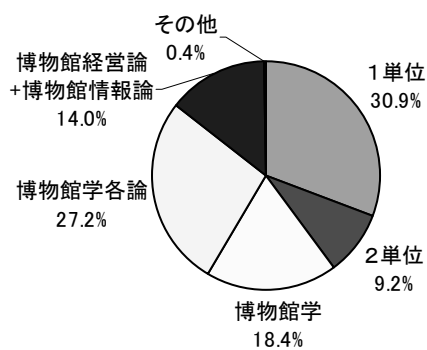
【生涯学習概論】 n = 272



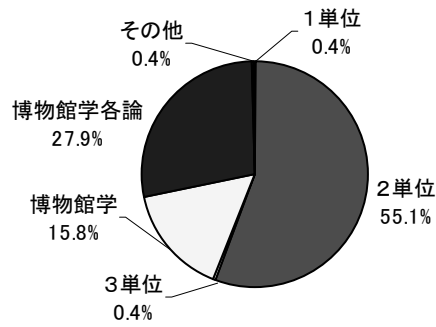
【博物館概論】 n = 272



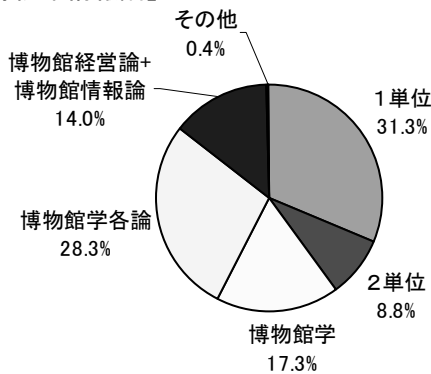
【博物館経営論】 n = 272



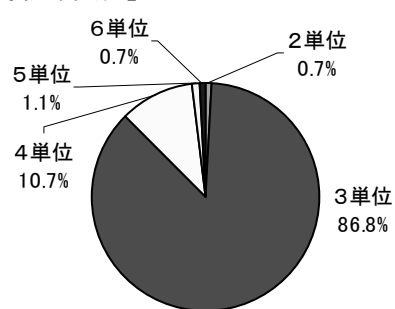
【博物館資料論】 n = 272



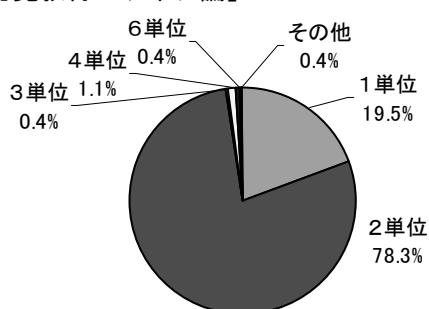
【博物館情報論】 n = 272



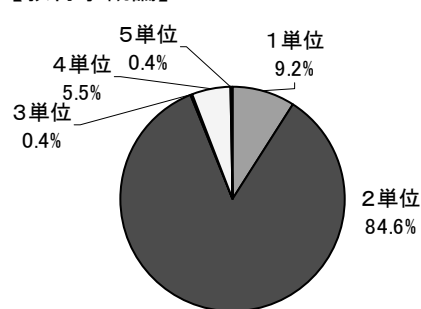
【博物館実習】 n = 272



【視聴覚教育メディア論】 n = 272

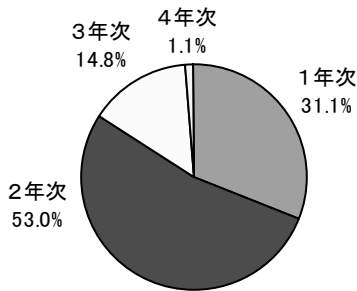


【教育学概論】 n = 272

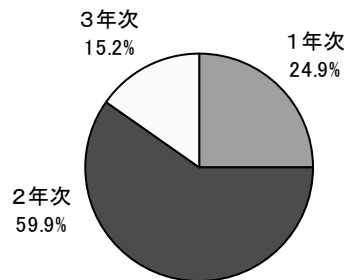


学芸員養成課程の履修科目【履修開始年次】 [設問 7-2]

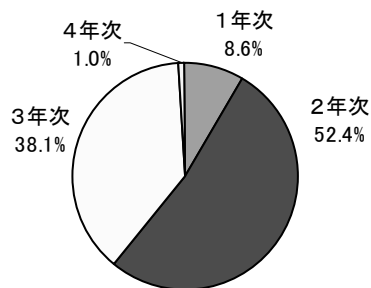
【生涯学習概論】 n = 264



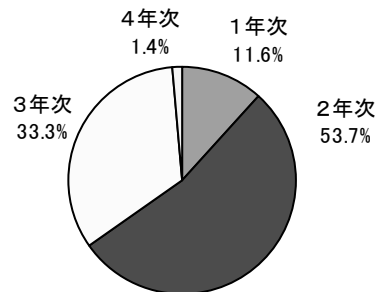
【博物館概論】 n = 217



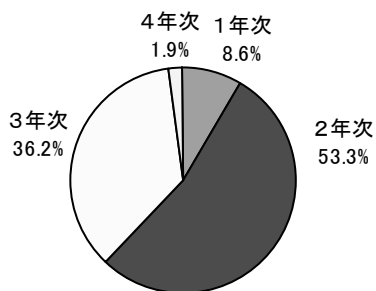
【博物館経営論】 n = 105



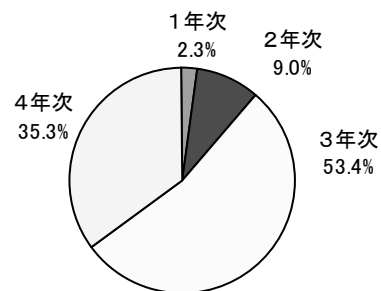
【博物館資料論】 n = 147



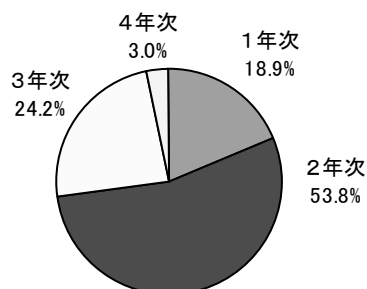
【博物館情報論】 n = 105



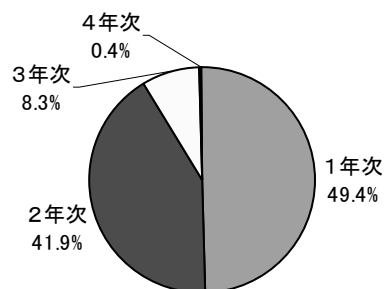
【博物館実習】 n = 266



【視聴覚教育メディア論】 n = 264

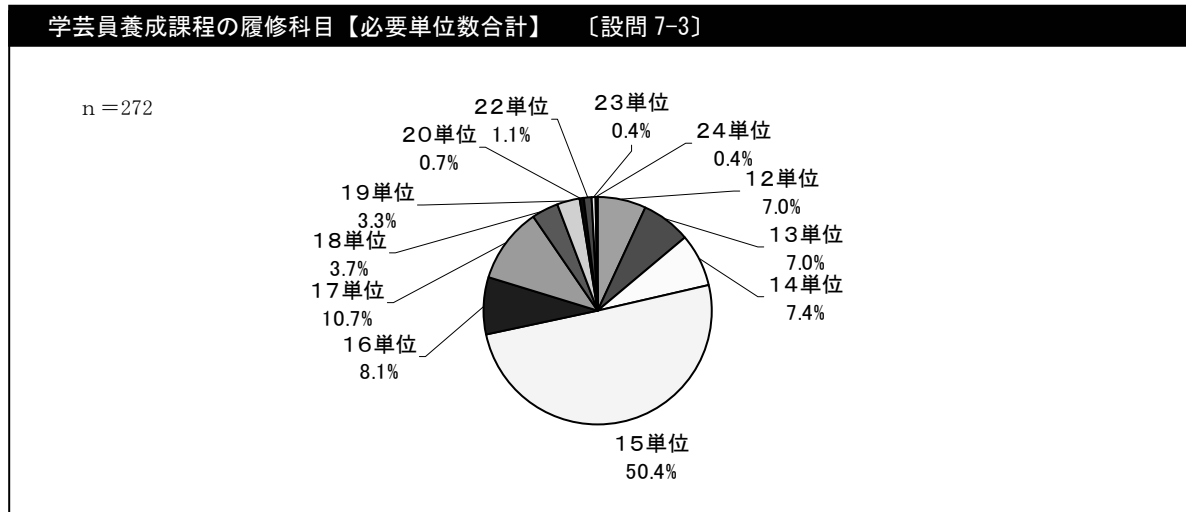


【教育学概論】 n = 265



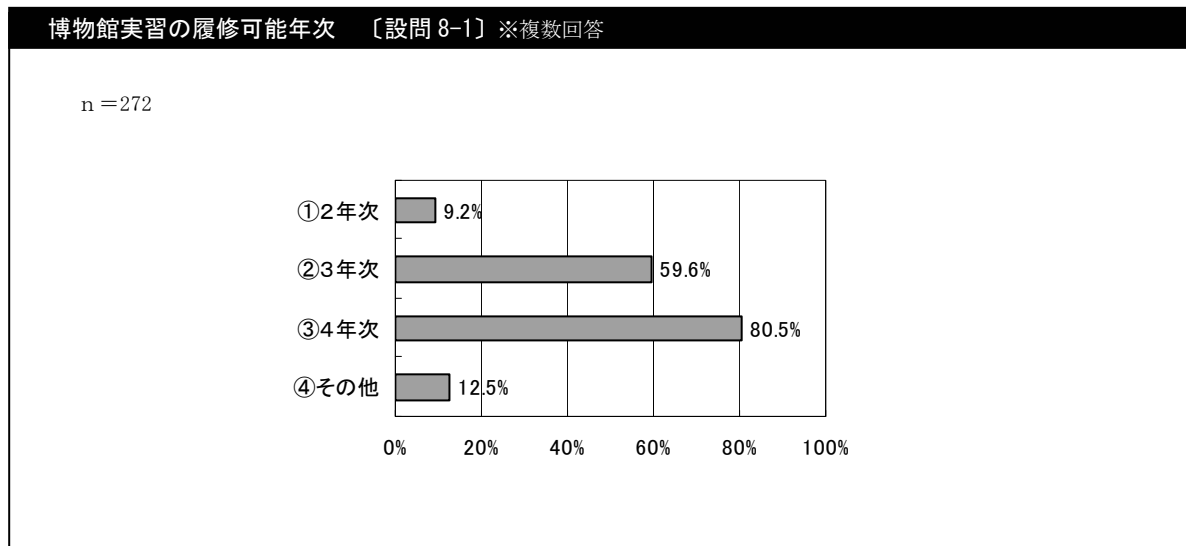
●学芸員養成課程の履修科目【単位数・履修開始年次】〔設問 7-1, 2〕

- ・平成9年4月1日に施行された改正博物館法施行規則(以下、改正博物館法施行規則と表記)によると、「生涯学習概論」は1単位とされている。しかし、今回の調査結果では2単位が最も多く、回答全体の7割以上を占めている。一方、「生涯学習概論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「博物館概論」は2単位とされている。今回の調査結果でも、2単位が最も多く、回答全体の約8割を占めている。なお、統合科目である「博物館学」の単位で対応しているとする回答は全体の約2割に該当した。一方、「博物館概論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の約6割を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「博物館経営論」は1単位とされている。今回の調査結果でも、1単位が最も多く、回答全体の約3割を占めている。しかし、「博物館経営論」は単独科目としてではなく、統合科目として対応しているケースが回答全体の半数以上を占めている。なお、「博物館経営論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「博物館資料論」は2単位とされている。今回の調査結果でも、2単位が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。一方、「博物館資料論」を統合科目で対応しているケースは回答全体の4割以上を占めている。なお、「博物館資料論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「博物館情報論」は1単位とされている。今回の調査結果でも、1単位が最も多く、回答全体の約3割を占めている。しかし、「博物館情報論」は単独科目としてではなく、統合科目として対応しているケースが回答全体の約6割を占めている。なお、「博物館情報論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「博物館実習」は3単位とされている。今回の調査結果でも、3単位が最も多く、回答全体の8割以上を占めている。ただし、中には2単位と回答したケースがわずかに見られた。なお、「博物館実習」の履修開始年次は3年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。一方、4年次から履修開始と回答したケースも全体の3割以上を数えた。また、1年次から履修開始と回答したケースもわずかに見られた。
- ・改正博物館法施行規則によると、「視聴覚教育メディア論」は1単位とされている。しかし、今回の調査結果では2単位が最も多く、回答全体の約8割を占めている。一方、「視聴覚教育メディア論」の履修開始年次は2年次が最も多く、回答全体の半数以上を占めている。
- ・改正博物館法施行規則によると、「教育学概論」は1単位とされている。しかし、今回の調査結果では2単位が最も多く、回答全体の8割以上を占めている。一方、「教育学概論」の履修開始年次は1年次が最も多く、回答全体の約半数を占めているが、2年次とする回答も全体の4割以上を数えた。
- ・グラフ中の博物館経営論+博物館情報論については、統合していると回答があったものと、データクリーニングの際に統合したものです。



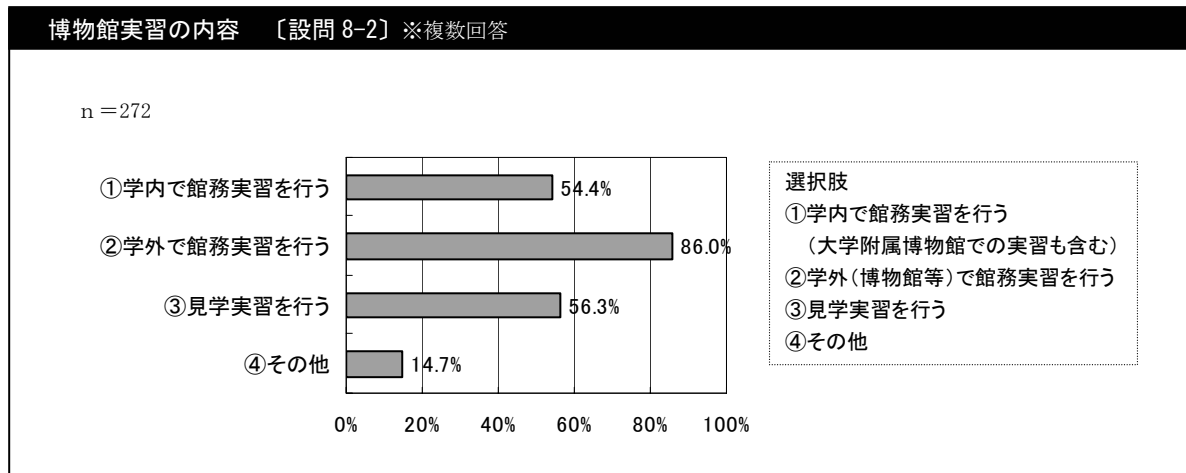
●学芸員養成課程の履修科目【必要単位数合計】〔設問 7-3〕

- ・学芸員養成課程における「大学において修得すべき博物館に関する科目」の必要単位数を尋ねたところ、15単位が最も多く、全体の5割以上を占めている。
- ・学芸員資格を取得するために必要な現行の法定単位数は12単位であるが、12単位という回答は7.0%に過ぎない。つまり、大多数の大学が規定を上回る単位数を資格取得の条件としていることになる。
- ・「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」の第2次報告書において、必要単位数を12単位から19単位に増やすことが言及されている。この回答結果において、19単位以上とする回答を合わせた数値が5.9%であることから、大多数の大学は、今後単位数の増加に向けた対策を講じる必要があるということになる。



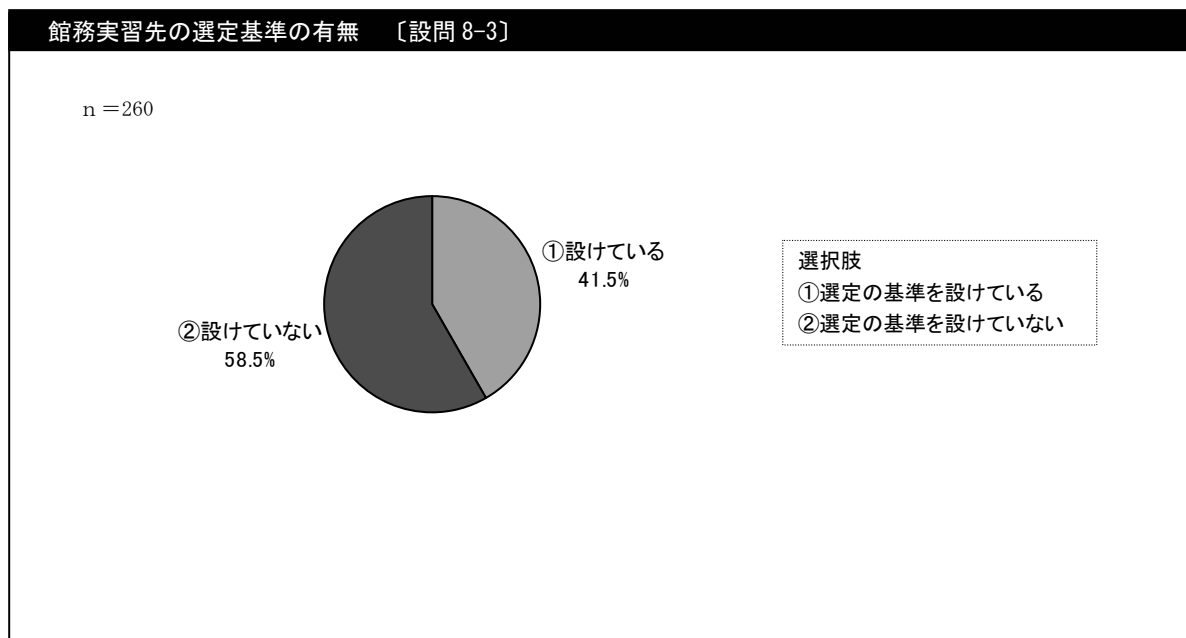
●博物館実習の履修可能年次〔設問 8-1〕

- ・博物館実習の履修可能年次は「4年次」が最も多く、全体の約8割を占めている。「3年次」という回答は約6割である。
- ・「その他」には、「大学院」、「科目等履修生」、「学内実習は3年次より、学外実習は4年次」、「事前実習は1年次より履修可能」、「学科により異なる」などの回答が見られた。



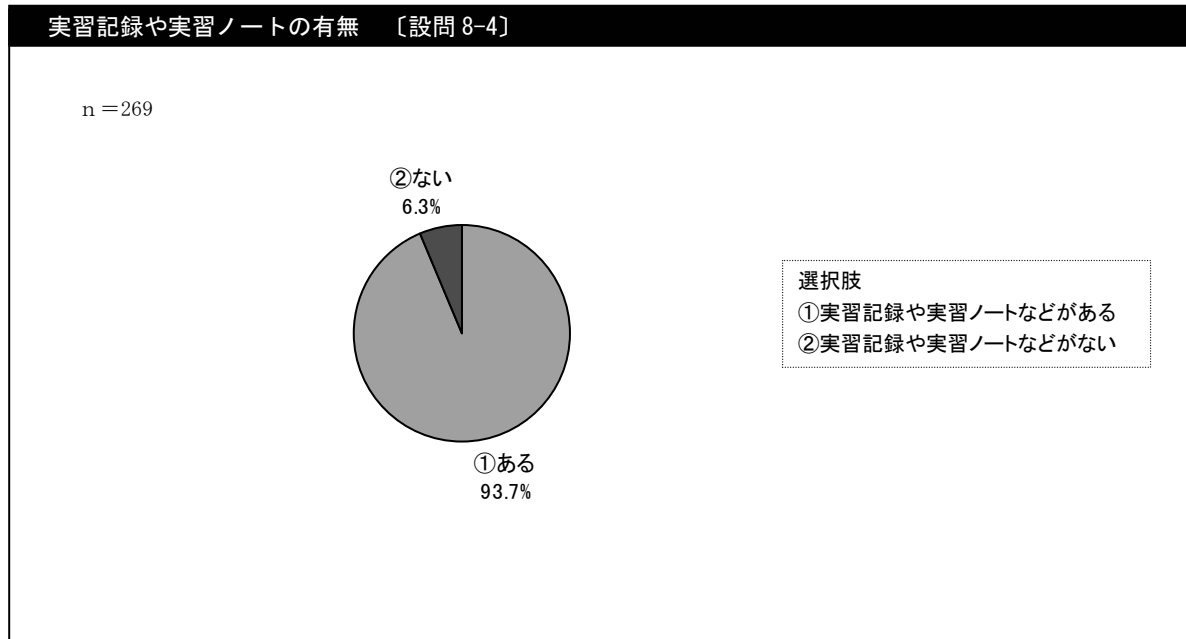
●博物館実習の内容 【設問 8-2】

- 博物館実習として、86.0%の大学が博物館等学外で館務実習を実施する一方、大学附属博物館における実習を含む学内での館務実習を行っている大学は54.4%を数えた。この結果から、学内と学外の両方で実習を行っている大学もあるが、学内での実習を行わずに学外での実習のみとする、つまり、博物館等に実習を依存しているようなケースも少なからず見られると推測することができる。
- 「その他」には、「見学実習以外に、学生による博物館訪問調査を実施」、「1年かけて展示制作をする」、「学内ギャラリーで企画展を実施」、「学外実習として調査・採集実習を実施」、「発掘、測量などの野外調査実習を行う」、「希望者には他館での実習・インターンシップを認める」、「アドビ描写ソフトの習得」、「古文書実習・考古学実習・国文資料実習(本学科目読替)、博物館実習講義」、「1単位分を必須科目で読み替える」、「それぞれのゼミの時間を利用して、学外で実習をこなす教員もいる」などの回答が見られた。



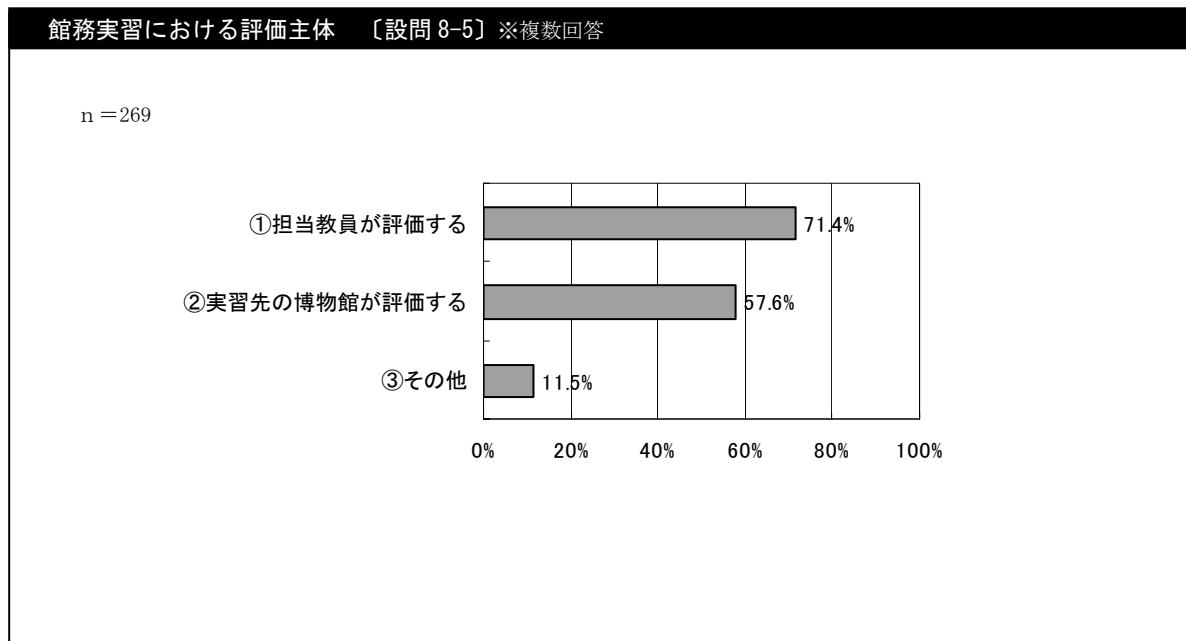
●館務実習先の選定基準の有無 【設問 8-3】

- 博物館で博物館実習を行う場合、実習先について、登録博物館に限定するなどの選定基準を設けているかを尋ねたところ、「設けている」と回答したのは41.5%で、選択基準を設けていないケースの方が多い。



●実習記録や実習ノートの有無 [設問 8-4]

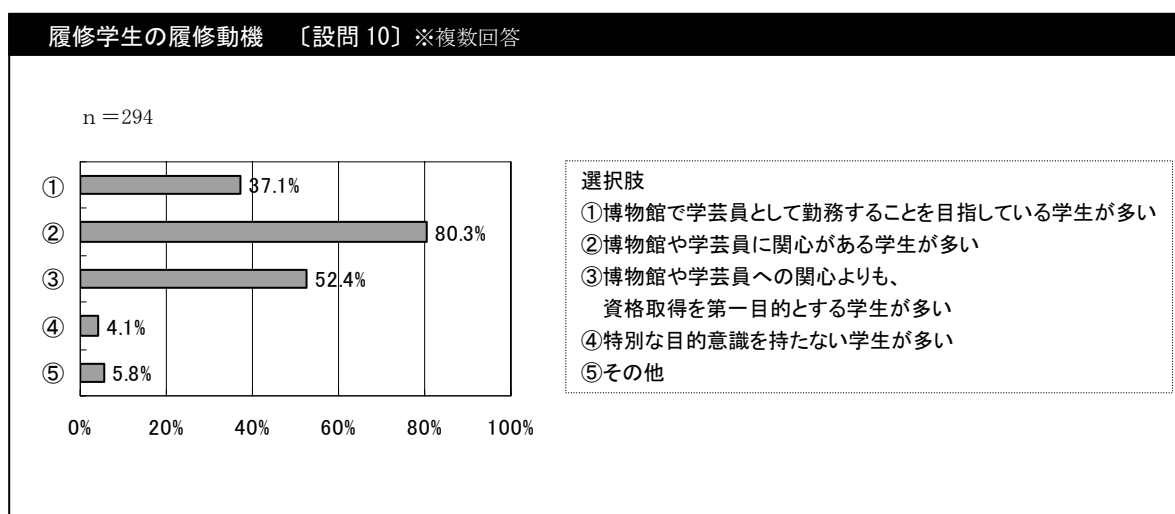
- ・館務実習における実習記録や実習ノートなどの有無について尋ねたところ、「ある」という回答が9割以上を数えた。



●館務実習先における評価主体 [設問 8-5]

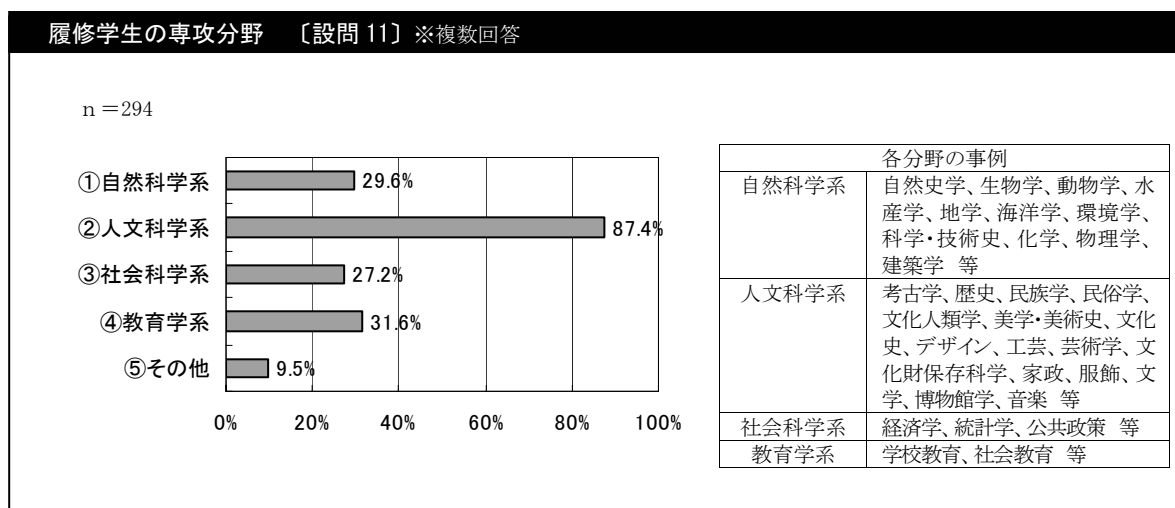
- ・館務実習の評価について、「担当教員が評価する」と回答したのは回答者全体の約7割、「実習先の博物館が評価する」と回答したのは回答者全体の約6割を占めている。この結果により、担当教員と実習先の博物館の両方が評価するケースがあることが推測できるが、実際、「その他」に、「実習先の評価を求めるが、最終評価は担当教員が評価する」、「実習先の評価と実習記録やその他の課題から担当教員が総合的に評価する」、「博物館と大学が共同で評価する」などの回答が見られた。
- ・「その他」にはほかに、「評価をしない館については教員が評価する」、「委員会で評価する」という回答が見られた。

(4) 学芸員養成課程の履修学生に関する事項



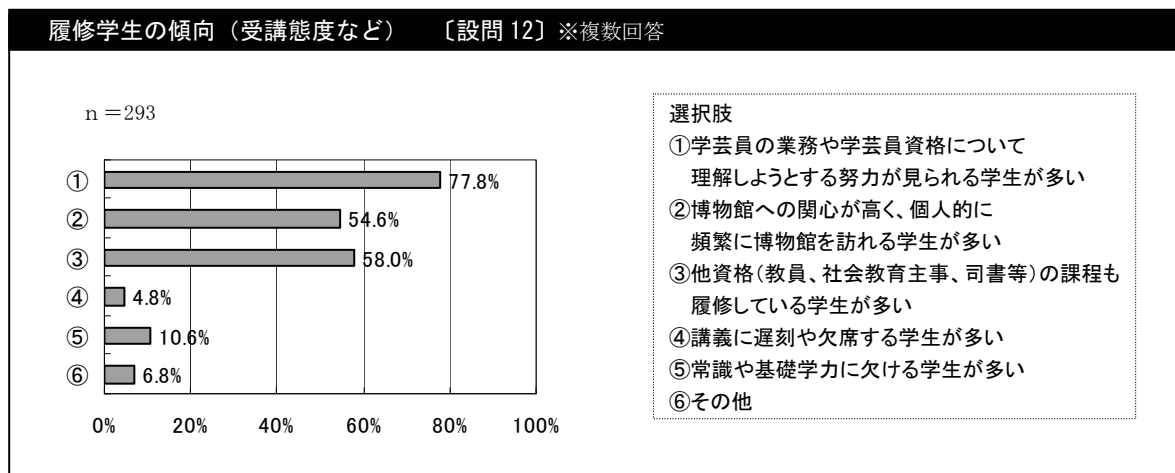
●履修学生の履修動機 [設問 10]

- ・ 回答者の勤務する大学の学芸員養成課程における履修学生の履修動機を尋ねたところ、「博物館や学芸員に関心がある学生が多い」とする回答が全体の約8割と最も多く見られた。一方、「博物館で学芸員として勤務することを目指している学生が多い」とする回答は全体の3割以上を数えた。博物館や学芸員に関心を持つ履修学生の中で、学芸員を目指しているのは一部の学生に限られていると推測できる。
- ・ 「博物館や学芸員への関心よりも、資格取得を第一目的とする学生が多い」とする回答は、回答全体の半数以上を占めている。また、「特別な目的意識を持たない学生が多い」とする回答はごくわずかであった。
- ・ 「その他」には、「博物館学を研究目的とする」、「文化財などの教養を身に付けたいという学生が最も多い」、「美術や文化財に関心があり、その一環として学芸員資格を目指す」、「ボランティアやサークル活動を博物館で行うことを目的としている」、「制作者として作品の取り扱いや展示などの知識を習得しようと考えている学生が多い」などの回答が見られた。



●履修学生の専攻分野 [設問 11]

- ・ 回答者の勤務する大学の学芸員養成課程における履修学生の専攻分野は、「人文科学系」が最も多く、回答全体の約9割を示している。なお、「自然科学系」は回答全体の約3割である。この結果については、自然科学系の分野を受講対象としない大学が多いこと、あるいは、自然科学系の分野を専攻する学生で学芸員を目指す者が少ないことの両方が要因として考えられる。
- ・ 「その他」には、「メディア・情報」、「キリスト教学科」、「野外スポーツ系」、「観光文化学」、「美術・デザイン・マンガ(実技系)」、「外国語及び外国文化」などの回答が見られた。



●履修学生の傾向（受講態度など） 【設問 12】

- ・回答者の勤務する大学の学芸員養成課程において、「学芸員の業務や学芸員資格について理解しようとする努力が見られる学生が多い」を選択した回答は、全体の約8割を占めている。また、「博物館への関心が高く、個人的に頻繁に博物館を訪れる学生が多い」を選択した回答は、全体の5割以上である。
- ・「他資格(教員、社会教育主事、司書等)の課程も履修している学生が多い」を選択した回答は、全体の約6割であり、複数の資格取得を目指す学生が多いことがわかる。
- ・「講義に遅刻や欠席する学生が多い」や「常識や基礎学力に欠ける学生が多い」を選択した回答は少数である。
- ・「その他」には、「見学や学芸員活動への理解が進むにつれて、博物館への関心が高まる」、「博物館への関心を持つようになり、個人的に博物館に行くようになる学生が多い」、「学生自ら企画を立てたことを、グループワークを通じて協力しながら、1つのものを創り上げ、達成させていく学生が多い」、「芸術デザインに対する理解力は優れている」、「博物館における情報伝達機能をモデルに情報社会を考察しようとする学生が多い」などの回答が見られる一方、「学芸員について“知らない”学生が多い」、「受講態度に優れるが、文章力に欠ける」、「受講態度は真面目だが、各々の専門分野の知識に欠ける」、「家庭内の行事・地域の行事に関心のない学生が増えつつある」、「一般的に意欲がない」という回答も見られた。また、学生の受講態度ではないが、実習に関して「3年生の後期から始めるため、就職活動と重なり、欠席する学生が多い。そのような学生には、年度内に与えられたノルマを果たせるようにしている」という回答や、単位に関して「卒業単位にならない科目が多く、この点についての改善希望が学生から出ている」という回答が見られた。

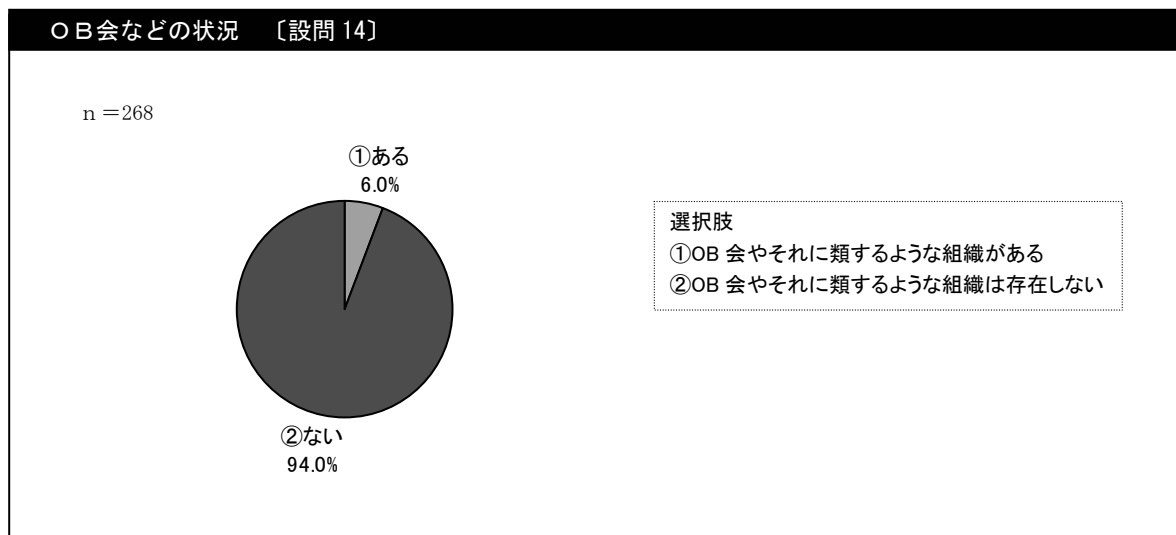
(5) 学芸員資格の取得と博物館への就職に関する事項

学芸員資格の取得と博物館への就職 【設問13】						
		学部学生	大学院生	科目等履修生等	通信教育学生	計
17 年 度		n=229	n=51	n=56	n=3	n=232
	平均値	40.4	2.9	2.5	34.3	41.7
	中央値	30.0	2.0	2.0	9.0	30.0
	最大値	197.0	13.0	16.0	92.0	198.0
	最小値	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0
	合計値	9246	148	142	103	9663
	博物館等への 就職者数	n=65 116	n=14 22	n=7 9	n=0 -	n=78 151
18 年 度		n=233	n=52	n=55	n=5	n=236
	平均値	38.6	3.4	2.5	28.6	40.1
	中央値	30.0	2.0	2.0	22.0	30.5
	最大値	207.0	14.0	10.0	80.0	207.0
	最小値	1.0	1.0	1.0	6.0	1.0
	合計値	8989	179	139	143	9451
	博物館等への 就職者数	n=57 100	n=18 38	n=3 3	n=0 -	n=71 144
19 年 度		n=233	n=52	n=49	n=5	n=235
	平均値	35.0	3.0	2.2	33.8	36.5
	中央値	25.0	2.0	1.0	26.0	26.0
	最大値	182.0	16.0	10.0	74.0	182.0
	最小値	3.0	1.0	1.0	11.0	3.0
	合計値	8155	155	109	169	8588
	博物館等への 就職者数	n=41 75	n=17 26	n=6 7	n=0 -	n=61 112

※「博物館等関連施設」とは：博物館、美術館、資料館、史料館、文書館、埋蔵文化財センター、アートセンター、動物園、植物園、水族館、(展示主体で、作品売買を行わない)ギャラリー 等

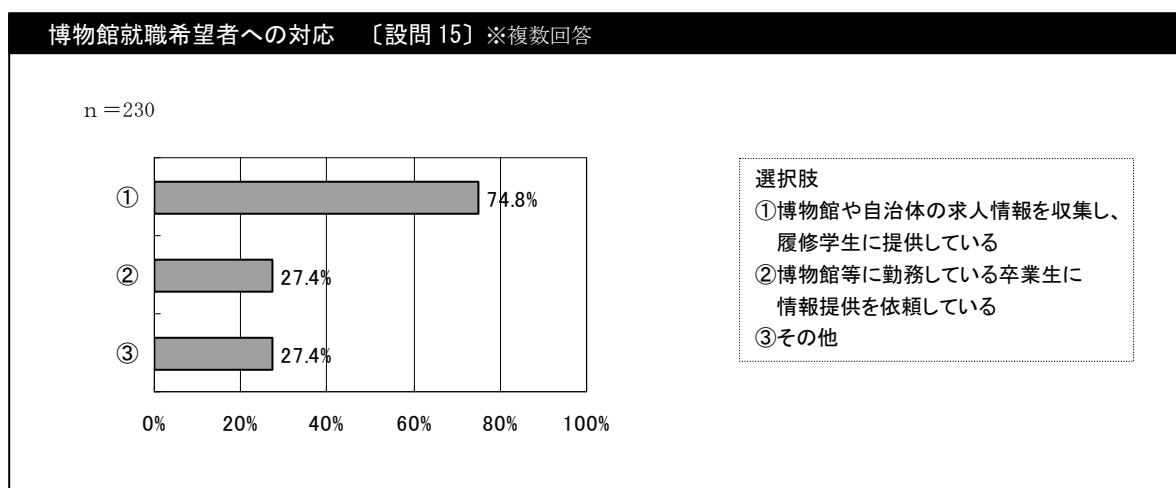
●学芸員資格の取得と博物館への就職 【設問13】

- ・ 回答者の勤務する大学において、最近3カ年(平成17・18・19年度)の学芸員資格取得者数を記入してもらった。回答全体(合計値)で見ると、9,663人、9,451人、8,588人と減少傾向にある。学部学生においても同様の傾向が見られる。一方、通信教育学生では年々増加する傾向にある。また、大学院生では平成18年度の資格取得者数が179人と最も多く、平成19年度の155人が続いた。
- ・ 回答者の勤務する大学において、最近3カ年(平成17・18・19年度)の学芸員資格取得者数の中で、博物館等関連施設に就職した人の数を記入してもらった。回答全体で見ると、151人、144人、112人と減少傾向にある。大学院生では平成18年度に就職者数が38人と最も多く、平成19年度の26人が続いた。
- ・ 一度、企業などに就職した後、転職して博物館に勤務している卒業生もいると思われるが、そのような動向を把握していない大学が多いようである。したがって、転職して博物館に勤務している卒業生も含めると、博物館等関連施設への就職者数は今回の数値を上回ると推測することができる。



●OB会などの状況 【設問 14】

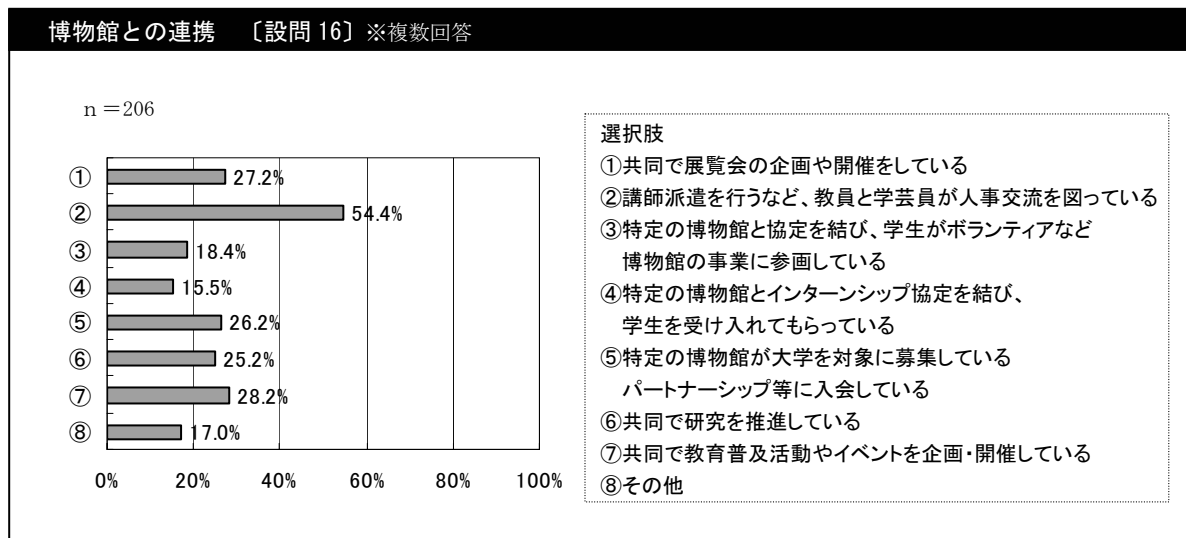
- ・回答者の勤務する大学において、学芸員養成課程を修了した学生によるOB会などの組織があるかについて尋ねたところ、「ある」という回答は全体の6.0%に過ぎず、OB会などを組織している大学は少数であった。



●博物館就職希望者への対応 【設問 15】

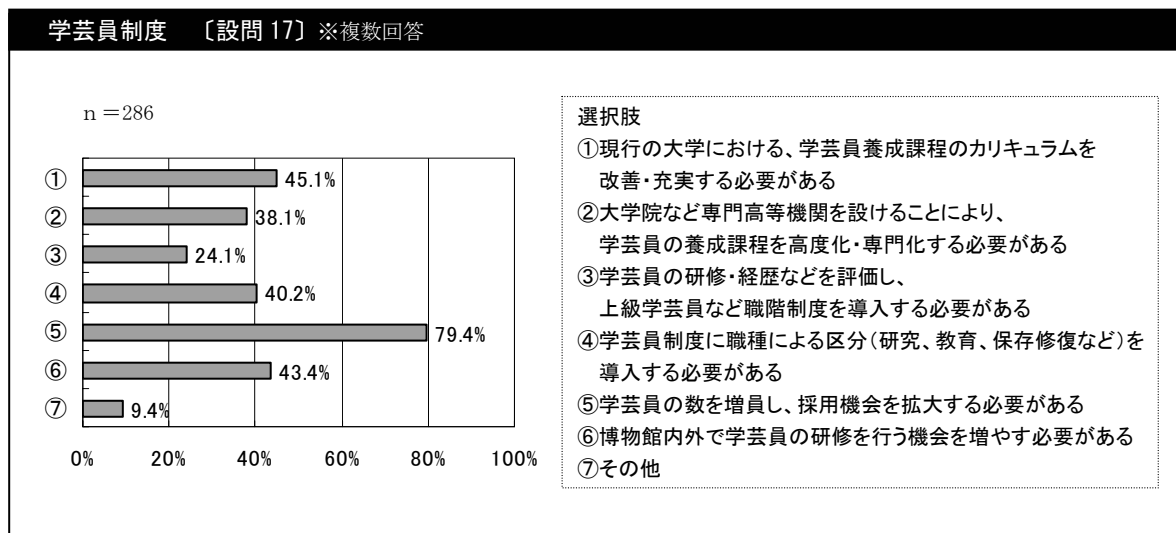
- ・博物館への就職を希望する履修学生に対して、回答者の勤務する大学が実施していることを尋ねた。「博物館や自治体の求人情報を収集し、履修学生に提供している」を選択した回答は、全体の約7割であった。一方、「博物館等に勤務している卒業生に情報提供を依頼している」を選択した回答は、全体の4分の1程度であった。
- ・「その他」には、「地域の学芸員と協力体制を築き、学芸員としての雇用を依頼している」、「博物館学芸員のネットワークによって情報を収集し、履修学生、卒業生に提供している」、「館でのアルバイトなどを通じて就職につながるようアドバイスしている」、「在学中に博物館などでのボランティアやインターンシップを紹介している」、「教員の個人ネットワークを利用している」、「博物館のホームページや自治体の広報をチェックするように指導している」、「インターネットの学芸員求人情報を収集し、履修学生と卒業生のうち、学芸員の就職希望者へ提供している」、「近隣の博物館との交流を通じて情報が入り、推薦を依頼されることもある。特に依頼してはいないが、卒業生からも情報が提供されている」、「修了生の履歴書・志望書を保管し、求人にも備えている」、「博物館関連業種の情報を収集している」、「大学院に進学し、より専門的な訓練を受けることを勧めている」、「(博物館への就職が)ほとんど不可能なことを説明している」、「特に何もしていない」などの回答が見られた。

(6) 博物館制度や学芸員制度などに関する事項



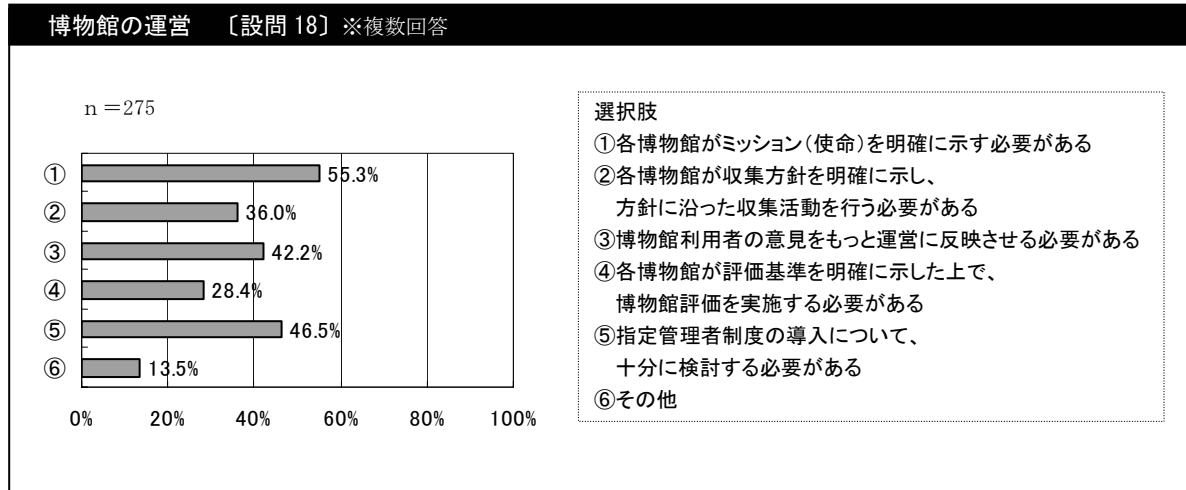
●博物館との連携 [設問 16]

- ・ 回答者の勤務する大学が博物館との連携において実施している内容を尋ねた。最も多いのは「講師派遣を行うなど、教員と学芸員が人事交流を図っている」という回答で、全体の半数を越えている。
- ・ 「共同で展覧会の企画や開催をしている」、「共同で教育普及活動やイベントを企画・開催している」を選択した回答は、それぞれ全体の4分の1以上を数えている。この中には、博物館実習の一環として、大学と博物館が事業を共催しているケースも含まれることが考えられる。
- ・ 「特定の博物館が大学を対象に募集しているパートナーシップ等に入会している」を選択した回答も、全体の4分の1以上を数えた。博物館実習生は、大学パートナーシップに入会した大学の学生に限定している博物館もあるため、博物館実習の受け入れ先を確保するために博物館のパートナーシップに入会する大学もあると推測することができる。一方、「特定の博物館とインターンシップ協定を結び、学生を受け入れてもらっている」を選択した回答は全体の15.5%に過ぎず、少数であった。
- ・ 「その他」には、主に博物館が大学に協力する内容として、「博物館学の授業で特定の博物館を対象にした調査演習を実施している」、「事後指導の一環として、博物館学芸員に大学で講義してもらっている」、「学内展示会の折、博物館に協力を依頼する」、「地域博物館から寄付講義の提供がある」、「正式な協定は結んでいないが、市立美術館に学生を積極的に受け入れてもらっている」などの回答や、主に大学が博物館に協力する内容として、「学生がボランティアとして館の事業に参加することもある」、「美術館の作品収集委員などを教員が兼務している」、「教員個人が博物館の企画展、講演会などに協力している」、「博物館主催事業のサポートや支援をしている」、「博物館の賛助会員になっている」、「大学美術館が近くの博物館と資料の貸借を行うことがある」という回答が見られた。



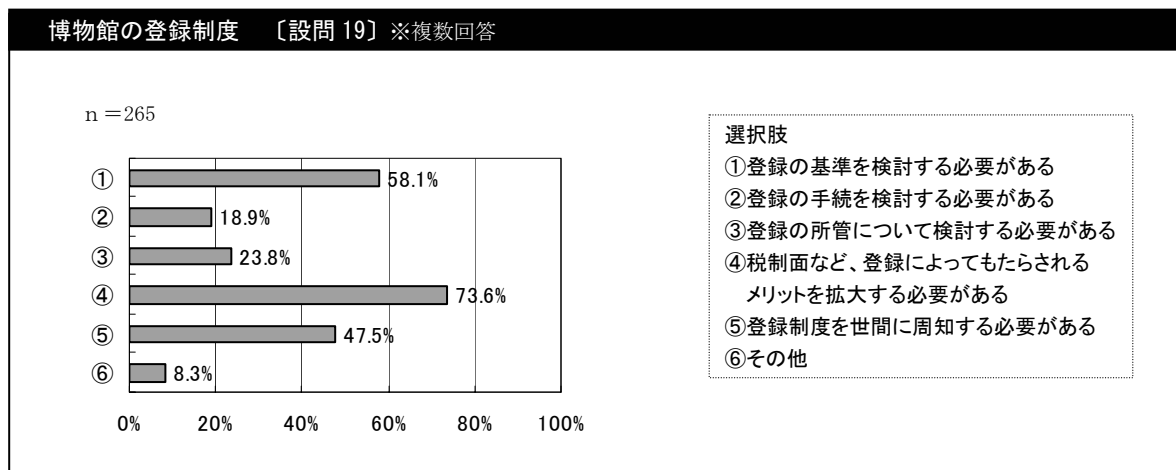
●学芸員制度 [設問 17]

- ・学芸員養成課程を担当する教員の視点に立って、学芸員制度について、あらかじめ設けられた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。最も多かったのは「学芸員の数を増員し、採用機会を拡大する必要がある」という回答で、全体の8割近くを示している。
- ・「現行の大学における、学芸員養成課程のカリキュラムを改善・充実する必要がある」を選択した回答は、全体の半数近くを占めている。
- ・「学芸員制度に職種による区分(研究、教育、保存修復など)を導入する必要がある」、「博物館内外で学芸員の研修を行う機会を増やす必要がある」と、学芸員の専門性や研修の確保に関することを選択した回答は、それぞれ全体の4割程度であった。
- ・「その他」には、「大学間の実質的な格差の改善」、「学芸員養成の重要性を広く認知させ、担当教員枠を増やすことができるような世論がほしい」、「専門別の研究能力の資格の中で評価すべきではないか(修士号、博士号のある学芸員など)」、「学芸員を実質的な資格とするために、人減らしを目的とするような指定管理者制度はやめるべきである」、「文系・理系・芸術系など、ごちゃまぜ状態を整理する必要がある」、「隣接分野の講義などにも理解を深める場を増やす必要がある」、「多くの博物館での科研費を申請できるシステムづくりが必要である」、「博物館側の意識変革が必要である」、「学芸員の仕事が外部にも分かるように工夫すべきである」、「学芸員自身がスキルアップして社会にアピールする必要がある」、「事務負担を減らすためにサポート体制を確立するべきである」などの回答が見られた。



●博物館の運営 【設問 18】

- ・学芸員養成課程を担当する教員の視点に立って、博物館の運営について、あらかじめ設けられた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。最も多かったのは「各博物館がミッション(使命)を明確に示す必要がある」という回答で、全体の半数以上を占めている。
- ・最近、博物館関係者の中で、博物館評価や指定管理者制度について議論されることが多い。この設問において、「各博物館が評価基準を明確に示した上で、博物館評価を実施する必要がある」を選択した回答は全体の28.4%であり、「指定管理者制度の導入について、十分に検討する必要がある」を選択した回答は46.5%であった。特に指定管理者制度の導入が課題として捉えられていることをうかがうことができる。「その他」に記載された回答でも、「学芸員人事を不安定化させかねない指定管理者制度を導入しない新たな公立博物館像を構築していく必要がある。養成を司る大学教員の立場からはこう言わざるを得ない」、「国公立博物館・地域博物館に対しては指定管理者制度を導入せず、国・自治体などの予算措置を十二分に必要がある」などに代表されるように、同制度の導入に反対する回答のほか、「指定管理者に雇用された学芸員の給与水準を明確化する必要がある」という回答も見られた。
- ・「その他」には、「現在の博物館(運営)協議会は実質的な役割を果たしておらず、改善が必要」、「使命のほかに、博物館のコンセプトもしくは行動基準(憲章)を箇条程度にまとめて掲げておくとよい」、「真の生涯学習施設となれるように改革が必要」、「館務実習の受け入れを法的に制度化する必要がある」、「館園実習内容のバラツキの改善」、「博物館法を改正し学芸員の採用人数を明記する必要がある」、「地域との関係、地域博物館同士の連携やまちづくりにも積極的に関わるべき、地域の歴史や収集物のインフォメーションセンターであるとの自覚が必要である」、「学芸員数を増やすとともに研究日(出勤しない日)を設け、個々に研究能力を高めるべきだ。研究と展示など一般業務は不即不離の関係にある。両者を分断するような施策は言語道断である」、「館の設置者(公立博物館の場合の設置自治体、私立博物館の場合の財団法人など)と館の運営責任者である館長の責任と資格について基準を設けるべきである」、「学芸員の専門性を尊重すべきである」、「専門性を有する学芸員を置く」、「管理系職員に学芸員資格を求める人事を行うべきである」、「行政などの設置主体が、博物館の意義について理解する必要がある」、「国や自治体が文化を理解する必要がある」、「しっかりしたボランティアコーディネーターを配置してほしい」、「各博物館が現場で困っていることを、公開の場でもっと発言すべきである」、「地域や種類に関して多様性が許されるべきで、収益性より公益性が優先されるべきである」、「経済的自立ができる努力をするべきである」、「博物館個々の事情がその運営のあり方を決めているため、一概に言うことは間違いである。画一的な方向性や評価も間違いである」などの回答が見られた。

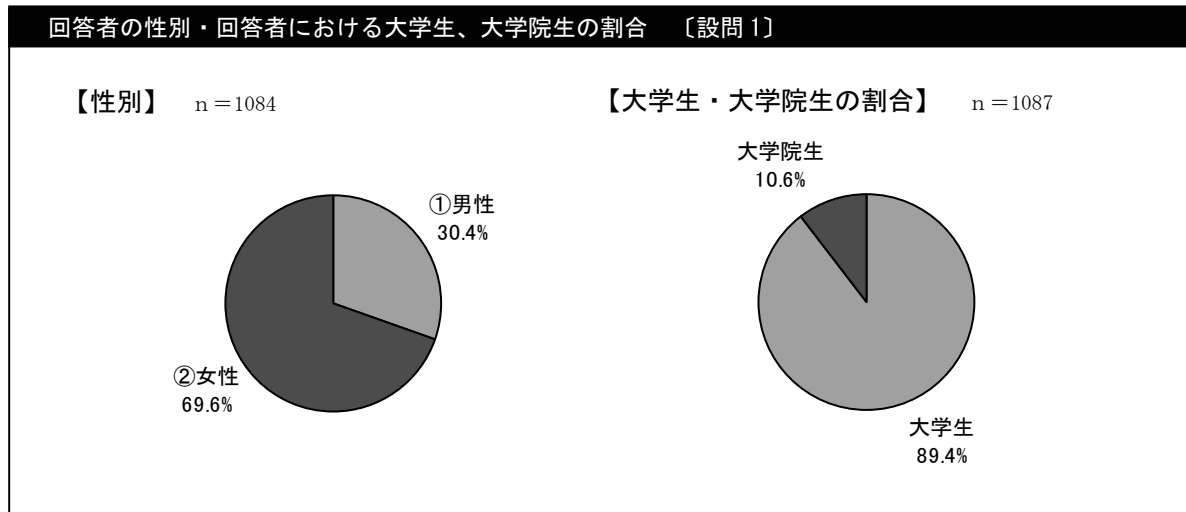


●博物館の登録制度 【設問 19】

- ・ 学芸員養成課程を担当する教員の視点に立って、博物館の登録制度について、あらかじめ設けられた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。最も多かったのは「税制面など、登録によってもたらされるメリットを拡大する必要がある」という回答で、全体の約4分の3を占めている。「登録の手続を検討する必要がある」を選択した回答は18.9%、「登録の所管について検討する必要がある」を選択した回答は23.8%であった。これらの結果から、博物館の登録制度については、手続きや所管など、制度の運用に関わることよりも、登録基準を検討した上で、メリットの拡大を図ったり、世間に周知するなど、登録制度の意義を高め、普及することが重要と捉えられていると考えることができる。
- ・ 「その他」には、「名称を工夫し、名称独占を明記する」、「例えば、登録・相当施設以外は“博物館”、“美術館”の名称を付けられないなど、登録施設が明確にわかるようにする。現状では類似施設との区別が明確でない」、「国立博物館を法の枠内に促す。登録制度にのせていく必要が大きい」、「登録基準の検討とともに相当施設、類似施設との相違やメリット・デメリットを検討すべきである」、「登録制度の基準を低くし、門戸を広くする」、「税制上のメリットのある私立博物館だけ国の登録とし、あとは協会に任せる。(社)日本図書館協会の推薦図書のように、協会が優良博物館名を公表する」、「もっと自由に、学芸員養成課程の学生のために博物館実習を受け入れる枠組みを設けてほしい」、「登録の自由度を上げるべきである」、「社会のニーズと博物館の多様化に対応できるように改める」、「多様化する現代社会にあって色々な博物館があった方が良く、基準を下げる検討が必要である」、「登録制度そのものを見直す必要がある」、「基本的には登録制度は不要である」などの回答が見られた。

2. 調査B 大学生・大学院生を対象にした調査

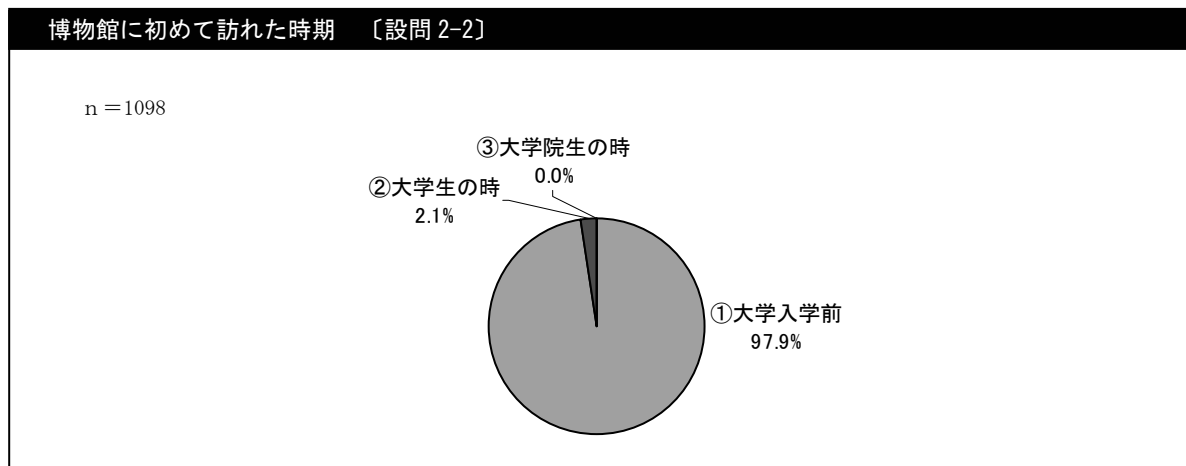
(1) 学芸員養成課程を履修している大学生・大学院生に関する事項



●回答者の性別・回答者における大学生、大学院生の割合 【設問1】

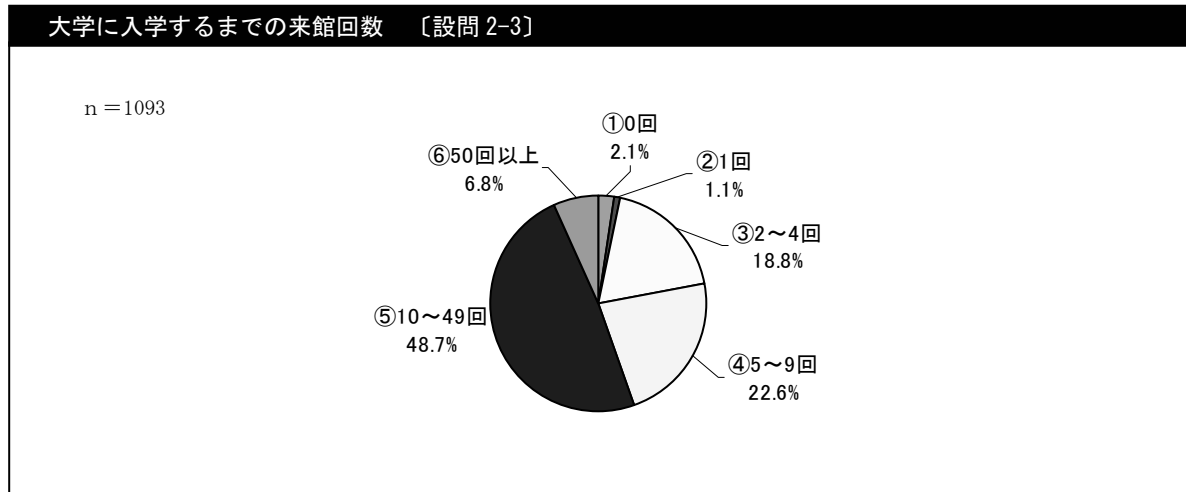
- ・回答者(学芸員養成課程を履修している大学生・大学院生)の男女比はおよそ3:7で女性が多い。
- ・回答者の約9割が大学生で、大学院生は約1割である。因みに、本調査は、大学3・4年生や大学院生をできるだけ回答者に選んでもらうよう依頼して行ったが、大学3年生は回答者の40.4%、大学4年生は回答者の42.2%を占めていた。

(2) 博物館との関わりや学芸員養成課程の履修動機に関する事項



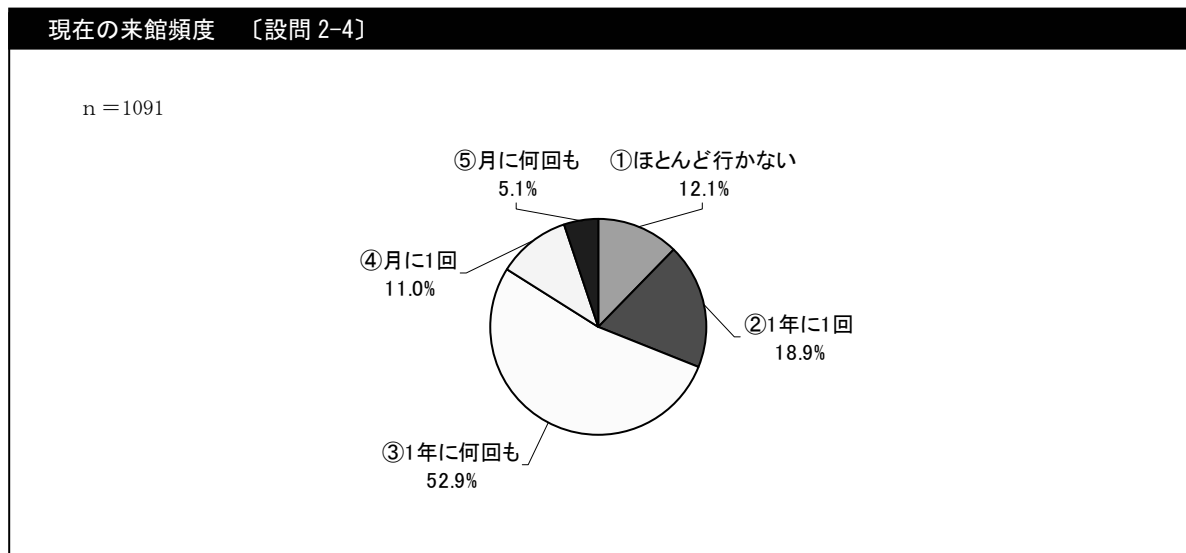
●博物館に初めて訪れた時期 【設問2-2】

- ・回答者がこれまで博物館に行ったことがあるかを尋ね、さらに来館経験があると回答した者に対して、初めて博物館に行った時期を尋ねた。ほとんどが博物館に行ったことがあると回答し、また、行ったことがないと回答した者も初めて博物館に行った時期や、これまでに行ったことがある博物館の種類を回答している。この結果を考慮して、回答者全員が博物館に行ったことがあると見なした。なお、修学旅行、移動教室、見学実習など学校の授業や講義による来館は除くものとして、回答を促した。
- ・初めて博物館に行った時期は、「大学入学前」とする回答が全体の97.9%と、大半を占めている。



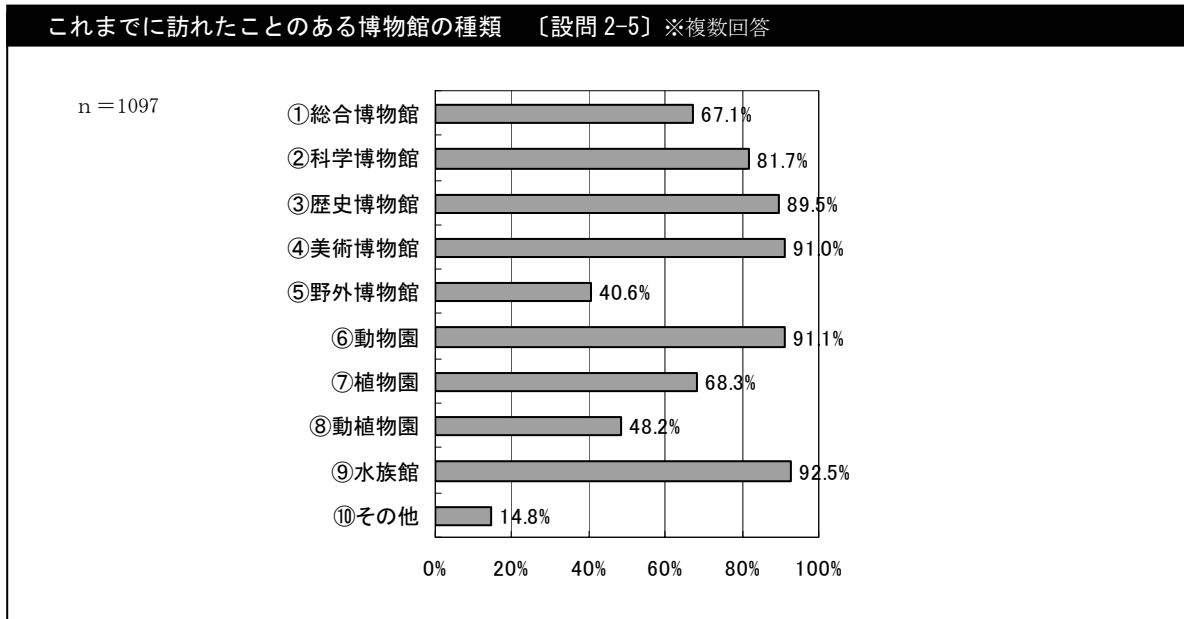
●大学に入学するまでの来館回数 【設問2-3】

- ・大学に入学するまでの来館回数を、あらかじめ設けた選択肢の中から選んでもらった。最も多かったのは「10~49回」の回答で、全体の約半数を占めている。「50回以上」という回答を合わせると、回答者の過半数が大学に入学するまでに10回以上は博物館を訪れたことになる。
- ・大学に入学するまでに1回も博物館に行っていないと回答した者は全体の2.1%である。



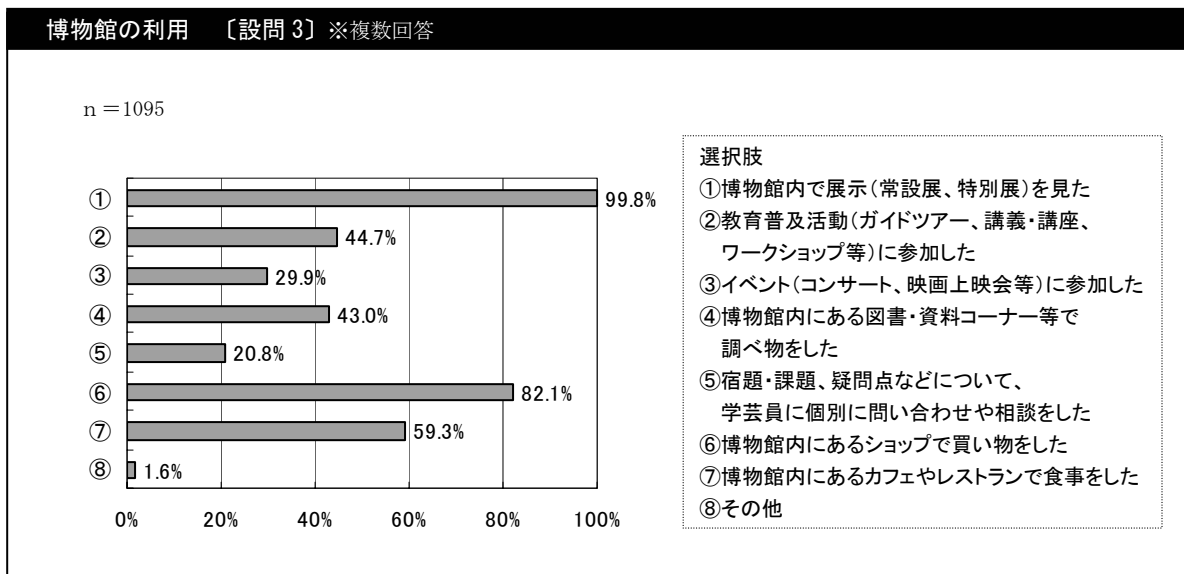
●現在の来館頻度 【設問2-4】

- ・回答者が現在どのくらいの頻度で来館しているかについて、あらかじめ設けた選択肢の中から選んでもらった。最も多かったのは「1年に何回も」という回答で、全体の半数以上を占めている。
- ・ほとんど来館していないという回答者は、全体の1割以上に該当する。一方、月に1回以上来館しているという回答者は、全体の16.1%を示している。



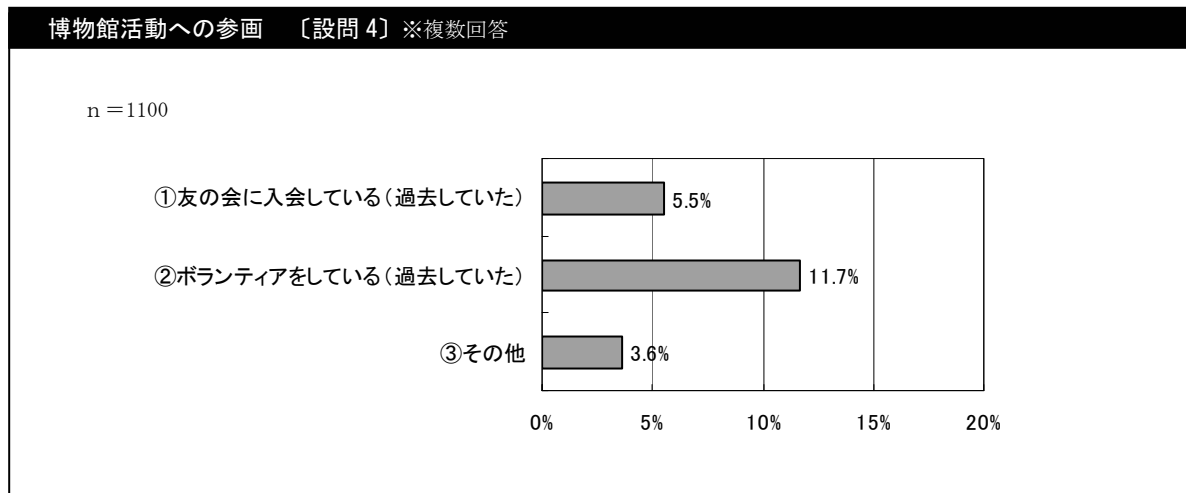
●これまで訪れたことのある博物館の種類 [設問2-5]

- ・ 回答者がこれまで訪れたことのある博物館の種類について、あらかじめ設けた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。回答者の9割以上が行ったことがあると回答した博物館は、多い順に「水族館」、「動物園」、「美術博物館」である。
- ・ 「その他」には、個人記念館、文学館、埋蔵文化財センター、大学附属施設、マンガミュージアム、子ども博物館、企業博物館、文書館、フィルムセンター、天文台などの回答が見られた。



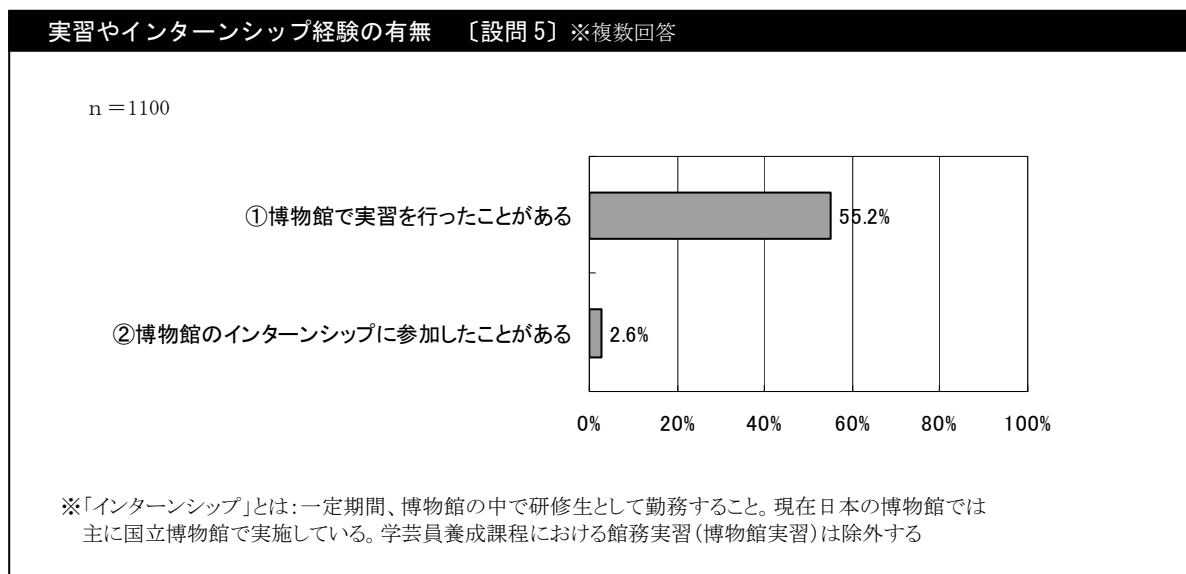
●博物館の利用 [設問3]

- ・ 回答者がこれまで博物館で行ったことについて、あらかじめ設けた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。回答者の半数以上が行ったことは、多い順に「展示を見た」、「館内のショップで買い物をした」、「館内のカフェやレストランで食事をした」であり、展示を主目的にしながら、食事や買い物を楽しむという利用形態がうかがえる。
- ・ 学芸員に個別に問い合わせや相談をしたことがある回答者は、全体の約2割である。
- ・ 「その他」には、「ボランティア活動に参加」、「アルバイト」、「職場体験」、「研究会に参加」、「遺物の計測など」、「休憩(周辺のベンチなどで)」、「展示準備の手伝い」、「水族館でショーに参加」などの回答が見られた。



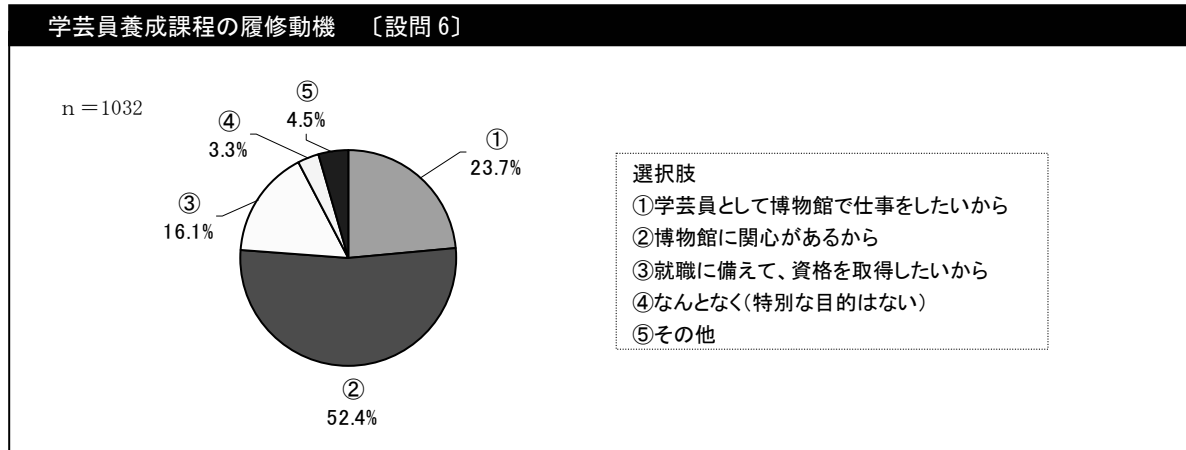
●博物館活動への参画 【設問4】

- ・博物館活動への参画について、あらかじめ設けた選択肢の中から回答者に該当するものを全て選んでもらった。結果、この設問では、対象となる1,100人(本調査に回答した大学生・大学院生)のうちの199人から回答を得た。全体の11.7%の回答者がボランティアの経験を持ち、また、5.5%の回答者が友の会に入会したことがあるという結果が見られた。
- ・「その他」には、「アルバイト(展示解説、看視、グッズ販売など)として参画」、「嘱託職員・臨時職員として参画」、「資料の整理や調査、クラブ活動に参画」などの回答が見られた。



●実習やインターンシップ経験の有無 【設問5】

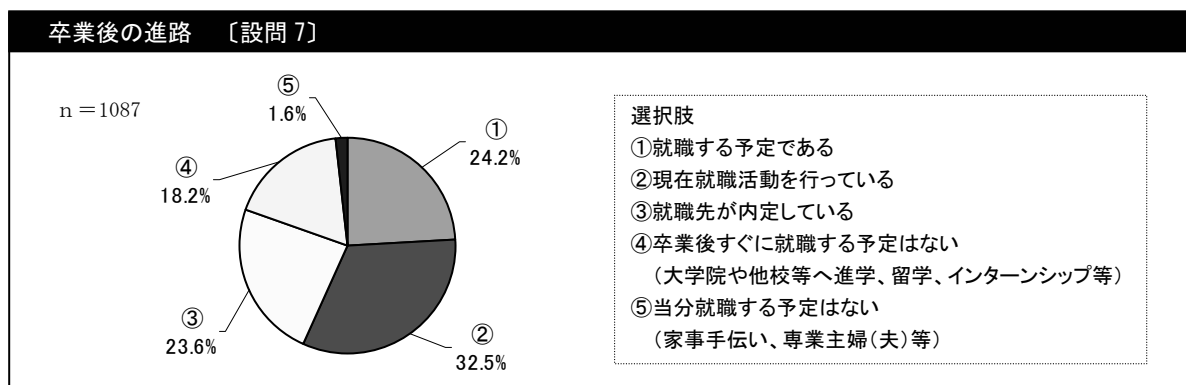
- ・博物館での実習やインターンシップの経験について尋ねたところ、対象となる1,100件(本調査に回答した大学生・大学院生)のうちの621人から回答を得た。全体の半数以上の回答者が博物館実習の経験を持つ一方で、インターンシップの経験者は全体の僅か2.6%に過ぎず、少数である。



●学芸員養成課程の履修動機 【設問6】

- ・学芸員養成課程の履修動機について、あらかじめ設けた選択肢の中から回答者に該当するものを1つ選んでもらった。「博物館に関心があるから」という回答が最も多く、全体の半数以上を占めている。
- ・「学芸員として博物館で仕事をしたいから」という回答(全体の23.7%)が、「就職に備えて、資格を取得したいから」という回答(全体の16.1%)を上回っている。
- ・なお、「その他」の回答は、次のように分類することができる。①他の業務や研究に活用できるからという回答(「学芸員ではないが、希望の職種に有効と考えた」、「教員として役立てたい」、「学芸員ではなくても教育普及などの仕事がしたい」、「民俗学者になりたい」、「内定先の業種で、将来博物館に関わりたいと考えているので、その時のために」、「美術作品を制作する上で、展示をする側の視点が役立つと思った」、「自治体の文化政策を研究しており、現場を知るため」など)、②社会経験になるからという回答(「働くには難しいので、実習を体験してその職場を体験してみたかった」、「普段ではあまり見ることのない場所に行ってみてみたいと思った」など)、③知的好奇心のためという回答(「芸術教育に関心がある」、「骨董品や美術品をより近くで見て触れたかった」、「司書資格も履修しているので類似点などを見つけたい」)、④カリキュラム上の都合という回答(「卒業に必要な単位の科目と学芸員資格のための科目が同じでとりやすかった」、「図書館情報学の専門科目と学芸員課程が重なっていた」、「大学で取得できる資格で、その他のものよりも負担が小さいと判断した」)が見られた。

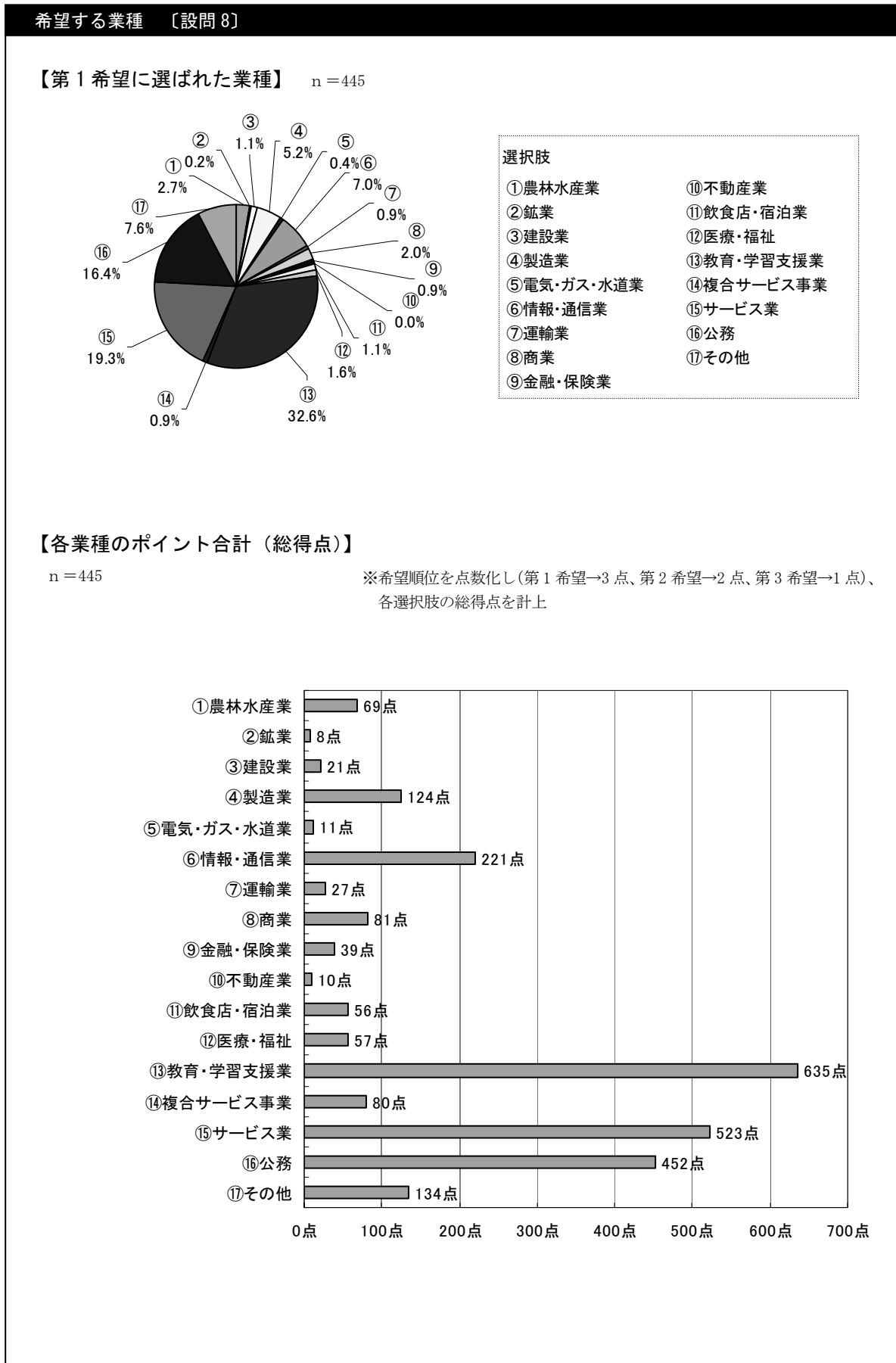
(3) 進路に関する事項

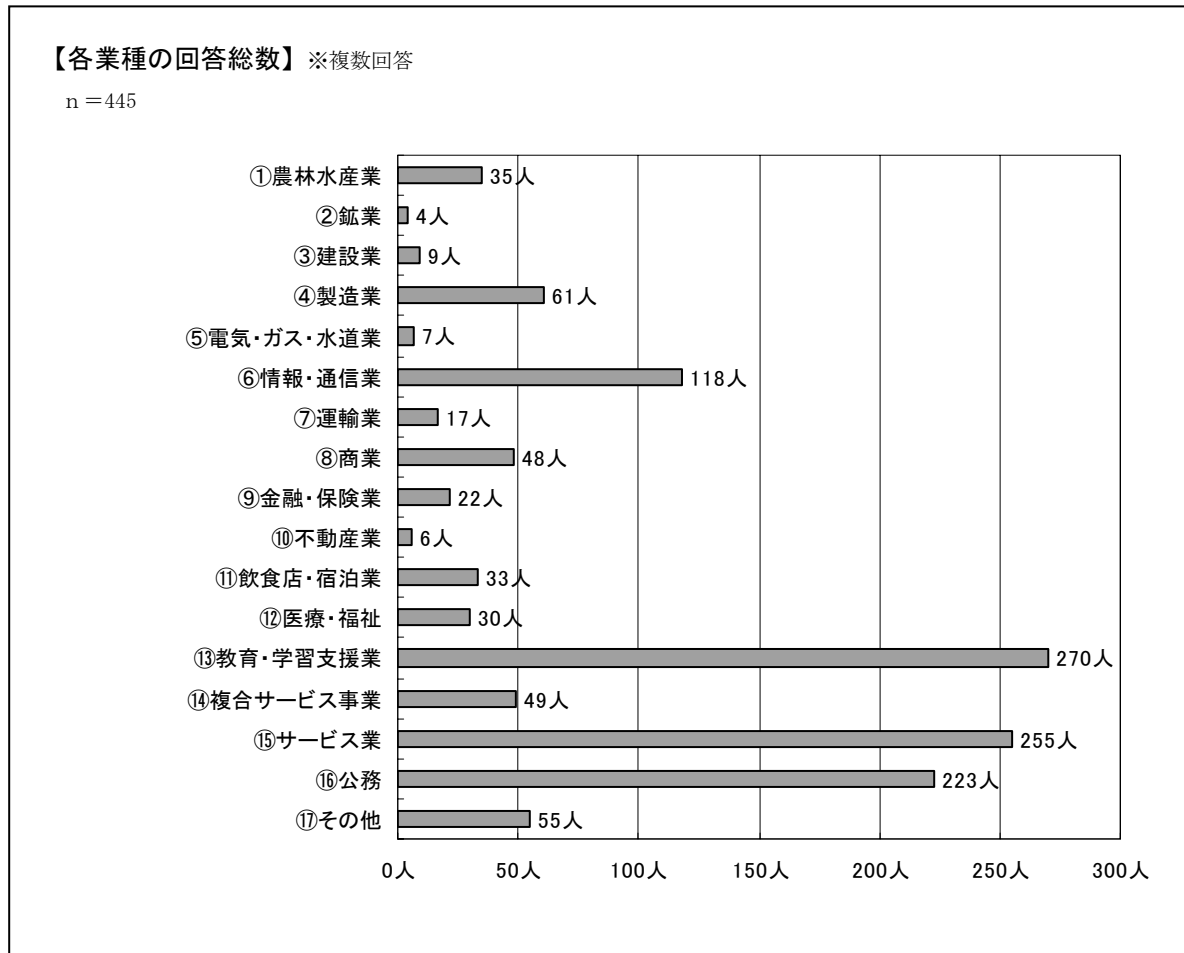


●卒業後の進路 【設問7】

- ・回答者の予定や現在の状況における大学(院)卒業後の進路について、あらかじめ設けた選択肢の中から回答者に該当するものを1つ選んでもらった。最も多い回答は「現在就職活動を行っている」で、3人に1人が選択した。これに「就職先が内定している」回答者を加えると、全体の半数以上を占める。これらの結果は、本調査の回答者としてあらかじめ大学3・4年生や大学院生を指定したためであると考えられる。
- ・「卒業後すぐに就職する予定はない(大学院や他校等へ進学、留学、インターンシップ等)」(回答全体の18.2%)と「当分就職する予定はない(家事手伝い、専業主婦(夫)等)」(回答全体の1.6%)を選択した回答を合わせると、全体の約2割を占めている。

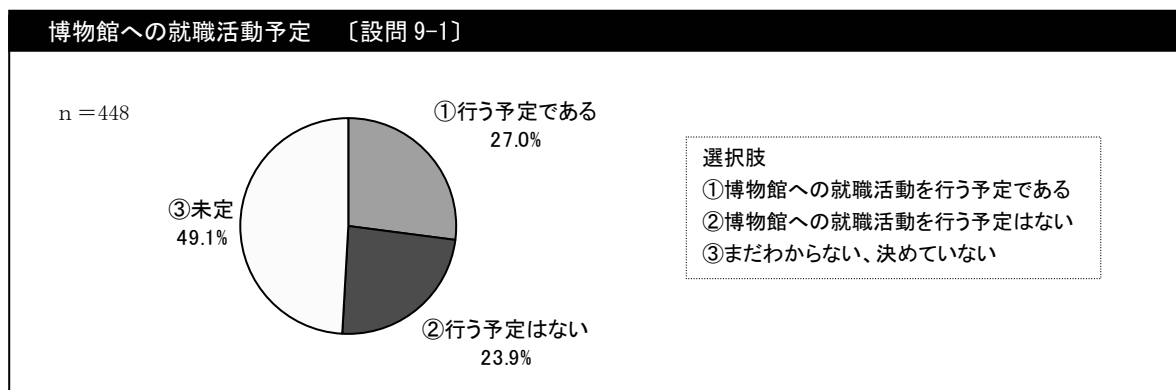
■以下、設問8、9は設問7で選択肢「1. 就職する予定である」または「4. 卒業後すぐに就職する予定はない」を選んだ回答者を対象に尋ねたものである。





●希望する業種 【設問8】

- ・ 設問7で「就職する予定である」、もしくは「卒業後すぐに就職する予定はない」を選択した回答者が第1希望に選んだ業種で多いのは、順に「教育・学習支援業」(学校教育、博物館等の社会教育、学習塾等)、「サービス業」(法律・獣医・著述・芸術家・翻訳・通訳等の専門サービス業、学術・研究機関、洗濯・理容・美容、旅行業等の生活関連サービス業、映画館・スポーツ施設・公園・遊園地等の娯楽業、広告業、政治・経済・文化団体、宗教等)、「公務」(国家・地方公務員)である。回答者の3人に1人が「教育・学習支援業」を選んでいる。
- ・ 第1希望を3点、第2希望を2点、第3希望を1点と点数化し、各選択肢の総得点を計上した集計結果を見ると、「教育・学習支援業」、「サービス業」、「公務」の順で高い得点を示しており、第1希望に選ばれた業種の順位と一致している。各業種の回答総数の集計結果でも、この順は変わっていない。
- ・ 「その他」の回答には、「サービス業」に該当するものが多い(アニメーター、作家、ギャラリー兼アトリエ兼プティ・レストラン、アートマネジメント、絵画修復家、研究員、デザイン、演奏家、管理栄養士、文化財専門職、動物取扱業、司法、寺院など)。また、「フリーター」、「環境系もしくは野生動物対策」、「男に夢を売る仕事／子供に夢を提供する仕事」、「自由業」、「NPO団体」という回答も見られた。



【「博物館への就職活動を行う予定である」を選択した回答者に見る求人情報の入手方法】〔設問 9-2〕

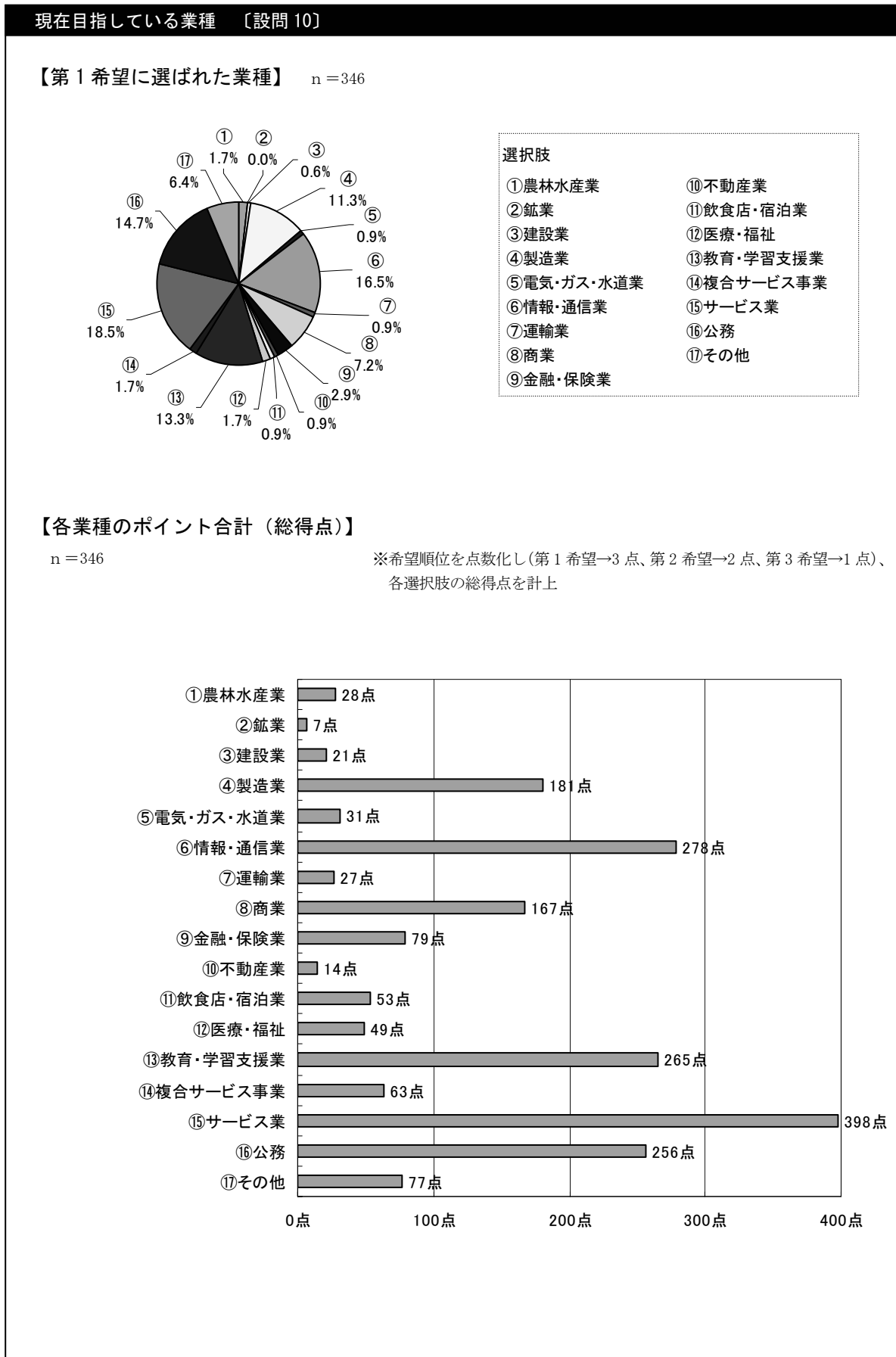
n = 111

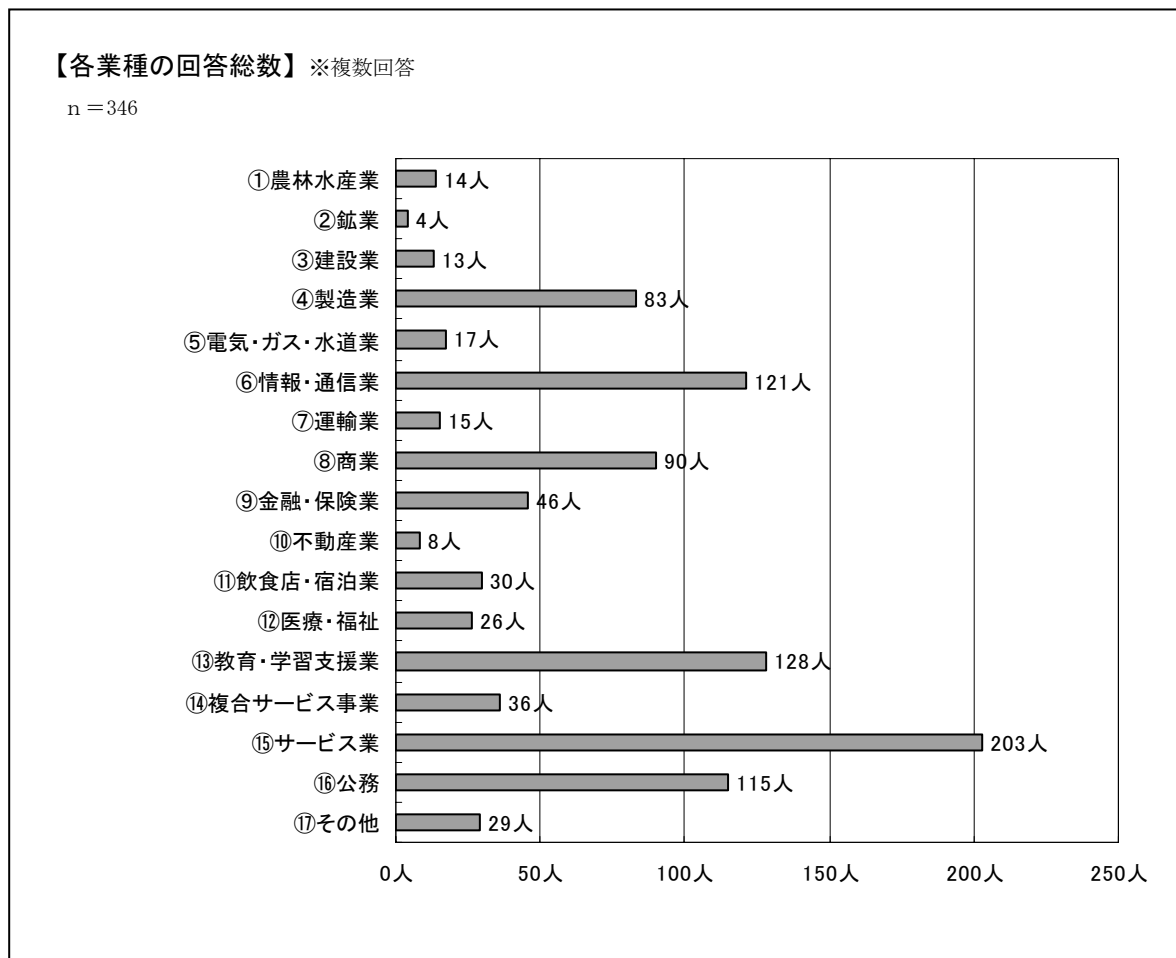
大学内における求人情報の入手方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究室などで情報収集する ※回答多数 ・ 教員の情報提供や紹介を受ける ※回答多数 ・ 教員に相談する ※回答多数 ・ 実習担当の助手に相談する (私立大学・大学生) ・ 先輩の紹介を受ける (私立大学・大学生) ・ 掲示板などで大学内の求人情報を入手する ※回答多数 ・ 就職課などで相談する ※回答多数 ・ 学校のネットワークで情報収集する (国立大学・大学生)
大学外における求人情報の入手方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸員や博物館関係者などから直接情報を提供してもらう ※回答多数 ・ 実習先の学芸員に相談する ※回答多数 ・ 知り合いの学芸員に相談する ※回答多数 ・ 資料整理を手伝っている博物館の学芸員に聞く (公立大学・大学生) ・ 直接問い合わせる ※回答多数 ・ 実習先の博物館で入手する (国立大学・大学生) ・ 大学や勤務先の美術館で入手する (私立大学・大学院生) ・ 特定の美術館に連絡方法あり (私立大学・大学生)
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットで入手する ※回答多数 ・ 就職したい博物館など、興味のある館のHPを確認する ※回答多数 ・ 「学芸員就職課」や「MUSEUM の広場」のようなサイトで入手する ※回答多数 ・ 自治体のHPから入手する (私立大学・大学院生) ・ 地元の市役所に問い合わせ、公立博物館などの募集状況を確認する (私立大学・大学院生) ・ ハローワークで入手する (私立大学・大学生) ・ 公務員になってから希望を出す予定 (国立大学・大学生) ・ コネクションを活用する (国立大学・大学生) ・ 知人が個人資料館を設立する予定なので、そのスタッフとなる予定 (私立大学・大学院生) ・ 知人からの情報提供を受ける (私立大学・大学生) ・ 友人と情報交換する (私立大学・大学生)

● 博物館への就職活動予定 【設問9】

- ・ 設問7で「就職する予定である」、もしくは「卒業後すぐに就職する予定はない」を選択した回答者を対象に、博物館への就職活動を行う予定があるかを尋ねた。「未定」を選択した回答者が全体の約半数を占めている。
- ・ 「博物館への就職活動を行う予定である」という回答は全体の27.0%、「博物館への就職活動を行う予定はない」という回答は全体の23.9%である。
- ・ 本設問では「博物館への就職活動を行う予定がある」を選択した回答者に、どのような方法で博物館の求人情報を入手するかについて答えてもらった。大学内では指導教員や就職課、大学外では博物館や博物館職員を通じて情報入手を考えているという回答が多い。また、インターネットや口コミに関する回答も多く見られた。

■以下、設問10、11は設問7で選択肢「2. 現在就職活動を行っている」を選んだ回答者を対象に尋ねたものである。





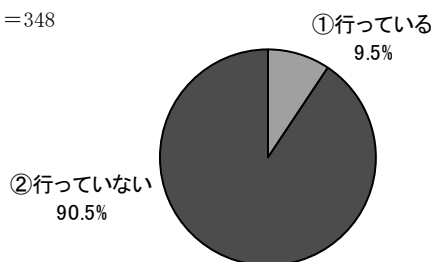
●現在目指している業種 [設問10]

- ・ 設問7で「現在就職活動を行っている」を選択した回答者が第1希望に選んだ業種は、多い順に「サービス業」（法律・獣医・著述・芸術家・翻訳・通訳等の専門サービス業、学術・研究機関、洗濯・理容・美容、旅行業等の生活関連サービス業、映画館・スポーツ施設・公園・遊園地等の娯楽業、広告業、政治・経済・文化団体、宗教等）、「情報・通信業」（通信業、放送業、情報サービス業、インターネット付随サービス業、映像・音声・出版や新聞等の文字情報制作業等）、「公務」（国家・地方公務員）である。一方、「就職予定」もしくは「卒業後すぐに就職する予定はない」を選択した回答者が第1希望に選んだ業種で最も多かった「教育・学習支援業」（学校教育、博物館等の社会教育、学習塾等）は全体の13.3%に過ぎなかった。
- ・ 第1希望を3点、第2希望を2点、第3希望を1点と点数化し、各選択肢の総得点を計上した集計結果を見ると、「サービス業」、「情報・通信業」、「教育・学習支援業」の順で高い得点を示していることがわかる。また、各業種の回答総数の集計結果では、「サービス業」、「教育・学習支援業」、「情報・通信業」の順で多いことがわかる。
- ・ 「その他」には、「WEBデザイナー」、「クリエイティブな仕事」、「メーカー」、「バイク整備士」、「スポーツ関係（野球）」、「鳥獣保護センター」、「環境サービス・アセスメント関連」などの回答が見られた。

博物館への就職活動 [設問 11-1, 3]

【現在博物館への就職活動を行っているか】

n = 348

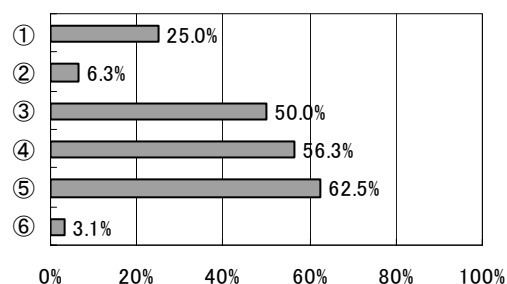


選択肢

- ① 博物館への就職活動を行っている
- ② 博物館への就職活動を行っていない

【博物館への就職活動の方法】 ※複数回答

n = 32



選択肢

- ① 博物館に勤務している卒業生や知人を訪問する(した)
- ② 博物館への就職を意識して、インターンシップの研修生として博物館に勤務している(した)
- ③ 博物館への就職を意識して、博物館でボランティアやアルバイトを行っている(いた)
- ④ 国家公務員試験や地方公務員試験を受験する(した)
- ⑤ 博物館の求人募集に応募する(した)
- ⑥ その他

※「インターンシップ」とは:一定期間、博物館の中で研修生として勤務すること。現在日本の博物館では主に国立博物館で実施している。学芸員養成課程における館務実習(博物館実習)は除外する

【「博物館への就職活動を行っている」を選択した回答者に見る求人情報の入手方法】 [設問 11-2]

n = 31

大学内における求人情報の入手方法

- ・ 教員に相談する ※回答多数
- ・ 研究室宛での募集要綱で入手する (国立大学・大学院生)
- ・ 大学内に掲示される求人情報で入手する ※回答多数 など

大学外における求人情報の入手方法

- ・ 博物館に勤務する教員や先輩に聞く (私立大学・大学生)
- ・ 博物館に直接問い合わせる (私立大学・大学院生)

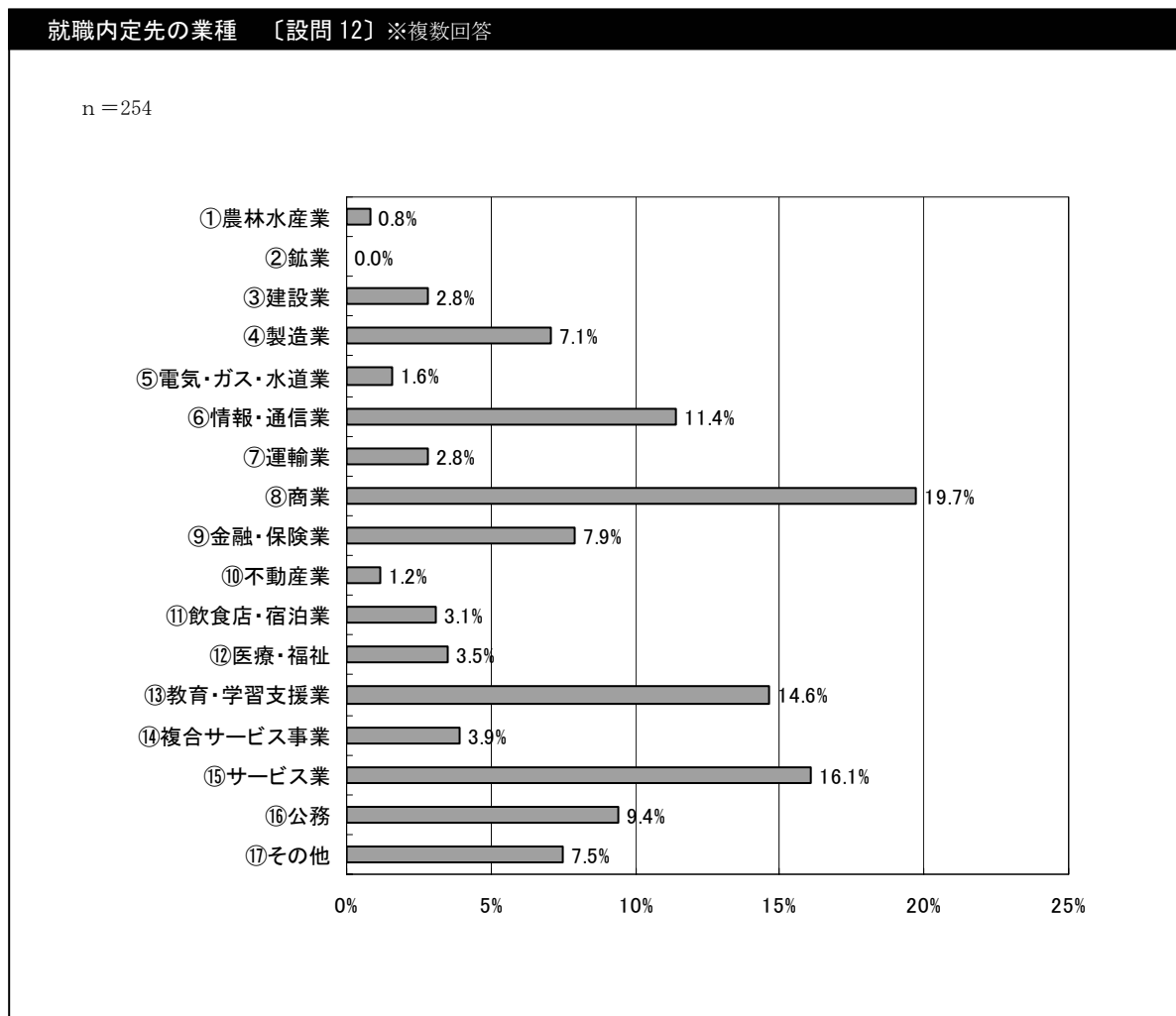
その他

- ・ インターネットで入手する ※回答多数
- ・ 博物館のHPから入手する ※回答多数
- ・ 「ネットTAM」や「学芸員就職課」など、インターネット上の求人情報で入手する ※回答多数
- ・ 自治体の広報誌などで入手する ※回答多数
- ・ ハローワークで入手する (公立大学・大学生)

●博物館への就職活動 [設問11]

- ・ 設問7で「現在就職活動を行っている」を選択した回答者を対象に、現在博物館への就職活動を行っているかを尋ねた。「博物館への就職活動を行っていない」とする回答者が大半で、全体の9割以上を占めている。また、「現在博物館への就職活動を行っている」と回答した者を対象に、あらかじめ設けられた選択肢の中から、どのような就職活動を行っているかについて、該当するものを全て選んでもらった。回答者の半数以上が選んだのは、多い順に「博物館の求人に応募する(した)」、「国家公務員試験や地方公務員試験を受験する(した)」、「博物館への就職を意識して、博物館でボランティアやアルバイトを行っている(いた)」である。なお、博物館への就職に備えて、博物館でインターンシップを行ったという回答者は僅かに6.3%であった。
- ・ 本設問では「博物館への就職活動を行っている」を選択した回答者に、どのような方法で博物館の求人情報を入手しているかについて答えてもらった。教員、大学内の求人掲示、博物館のホームページ、自治体の広報誌を通じて情報を入手しているという回答が多く見られた。

■以下、設問12、13は設問7で選択肢「3. 就職先が内定している」を選んだ回答者を対象に尋ねたものである。

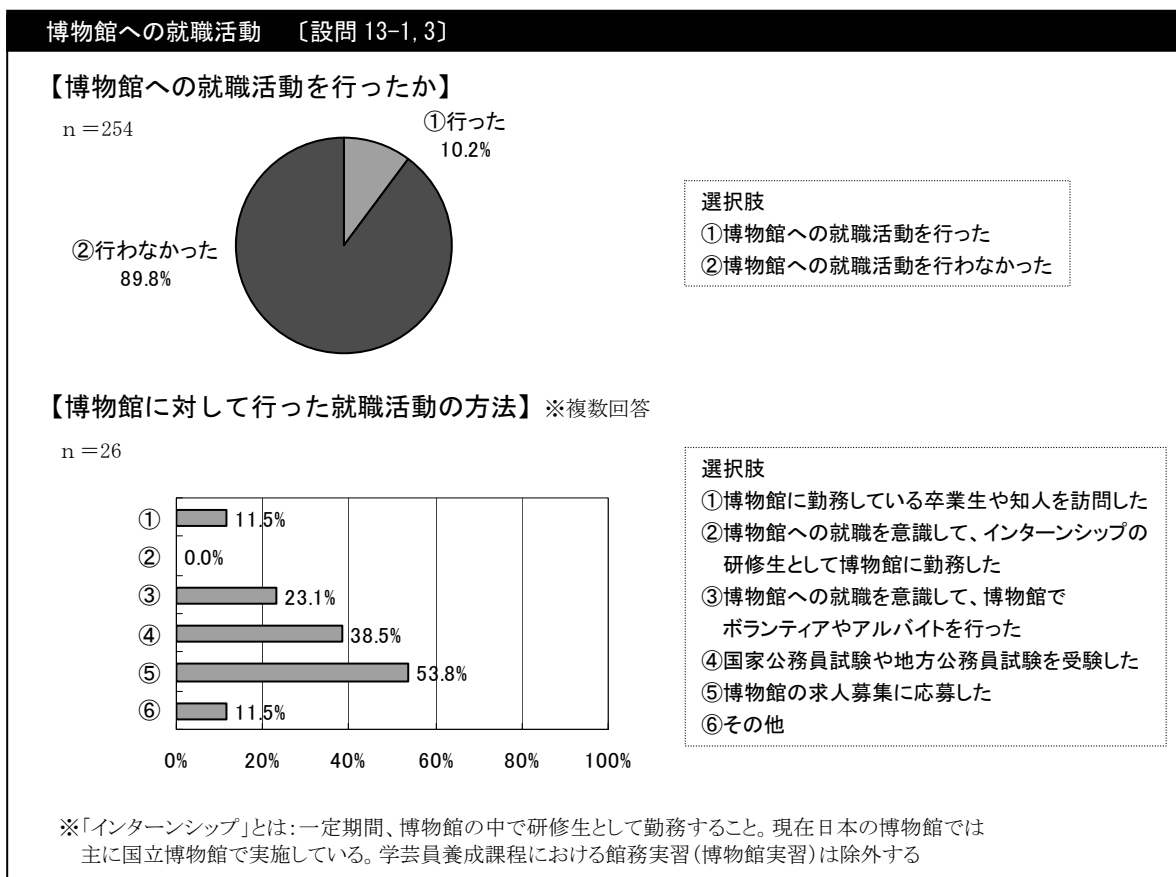


●就職内定先の業種 【設問12】

- ・ 設問7で「就職先が内定している」を選択した回答者が内定先の業種として答えたのは、多い順に「商業」（卸売業、小売業等）、「サービス業」（法律・獣医・著述・芸術家・翻訳・通訳等の専門サービス業、学術・研究機関、洗濯・理容・美容、旅行業等の生活関連サービス業、映画館・スポーツ施設・公園・遊園地等の娯楽業、広告業、政治・経済・文化団体、宗教等）、「教育・学習支援業」（学校教育、博物館等の社会教育、学習塾等）である。
- ・ 「その他」には、「アウトソーシング」、「NPO法人」、「インテリア関係」のような回答が見られた。

●回答者の進路に関するまとめ 【設問7～12】

- ・ 設問7における回答者を、就職予定、就職活動中、就職先内定の3つに分け、それぞれの第1希望、もしくは内定した業種の上位3つは、次のとおりである。
 - 「就職予定」： ①教育・学習支援業 ②サービス業 ③公務
 - 「就職活動中」： ①サービス業 ②情報・通信業 ③公務
 - 「就職先内定」： ①商業 ②サービス業 ③教育・学習支援業
- ・ この結果から、サービス業や教育・学習支援業での就業希望者が多く、実際にこれらの業種に就職が内定した回答者がいることがわかる。



【「博物館への就職活動を行った」を選択した回答者に見る求人情報の入手方法】 [設問 13-2]

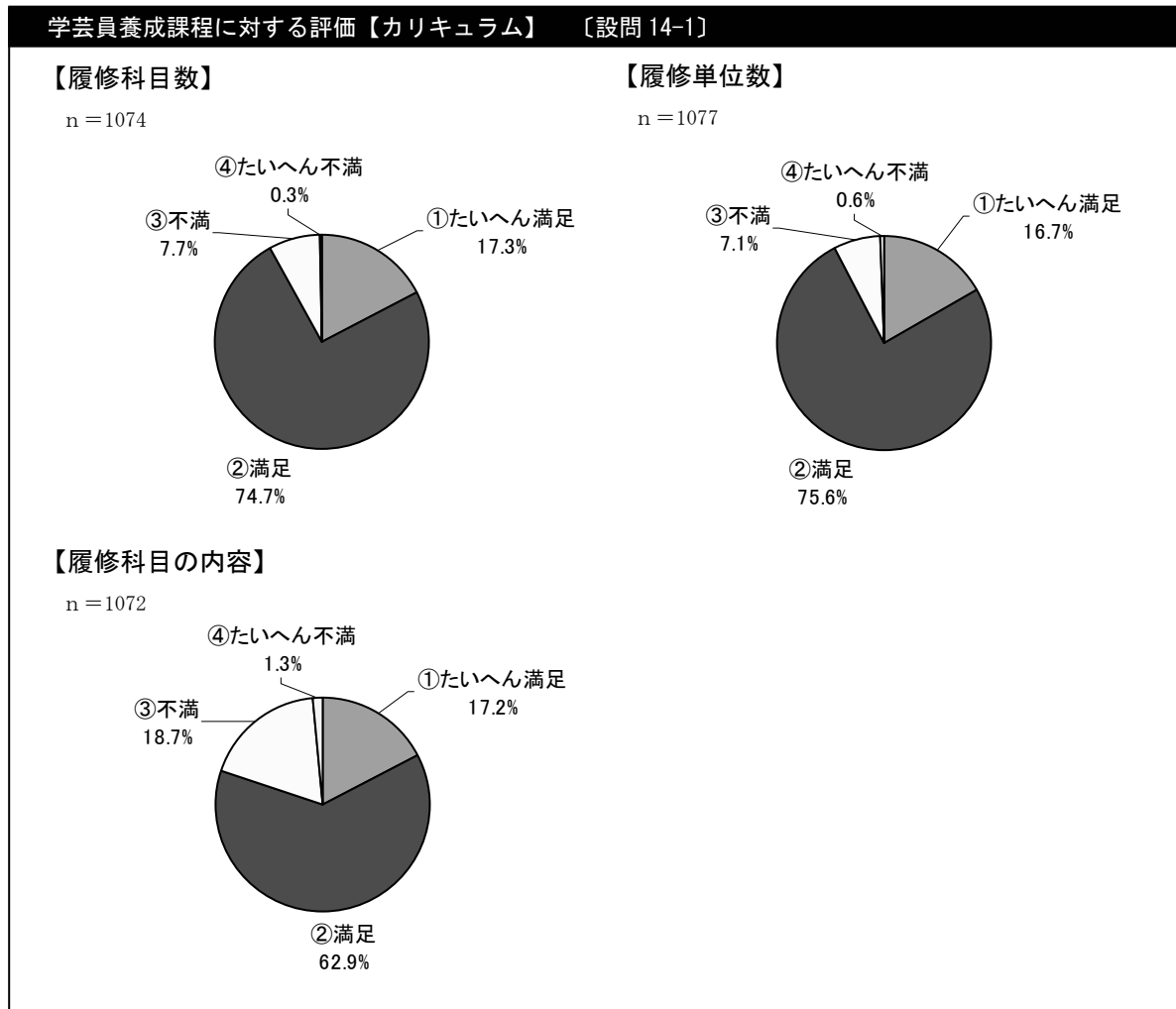
n = 26

大学内における求人情報の入手方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員からの情報提供や紹介を受ける ※回答多数 ・ 学芸員養成課程の事務室にある求人情報を入手する ※回答多数 ・ 大学の進路支援課で入手する (私立大学・大学生) ・ 大学内で求人情報を得る (私立大学・大学生)
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットで入手する ※回答多数 ・ 大学のHPを見る (国立大学・大学生) ・ 博物館のホームページから入手する (国立大学・大学生) ・ 学芸員の求人情報が載っているサイトで入手する ※回答多数 ・ インターネットの求人情報サイトで入手する ※回答多数 ・ 自治体のホームページから入手する (私立大学・大学生) ・ 友人や知人から紹介を受ける ※回答多数 ・ ボランティア活動をする中で情報を入手する (国立大学・大学院生) ・ 専門学校の掲示板から入手する (公立大学・大学生) ・ 親から情報提供を受ける (私立大学・大学生)

● **博物館への就職活動** [設問13]

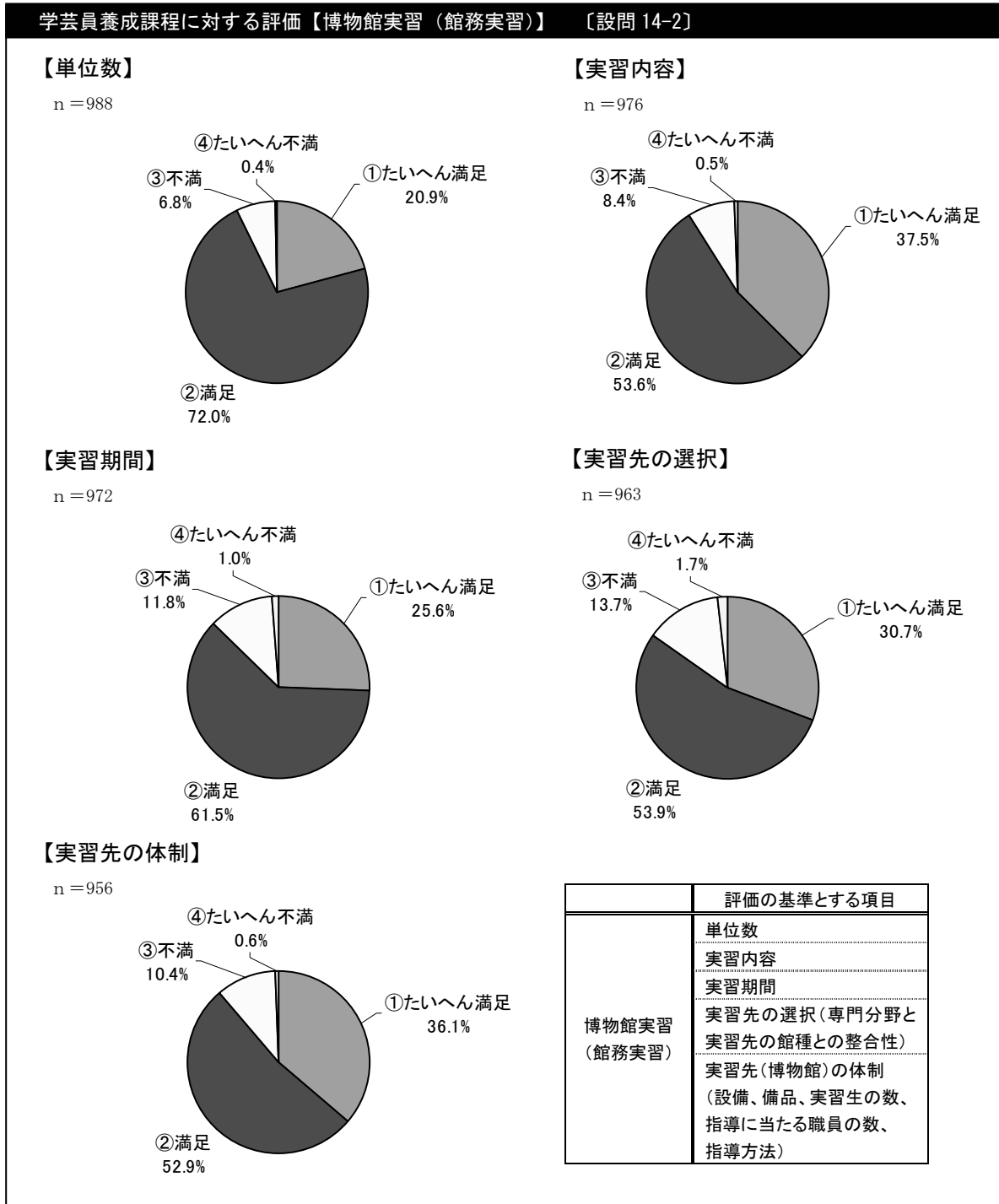
- ・ 設問7で「就職先が内定している」を選択した回答者を対象に、博物館への就職活動を行ったかを尋ねた。博物館への就職活動を行わなかった回答者が大半で、全体の約9割を占めている。
- ・ 博物館への就職活動を行った回答者を対象に、あらかじめ設けられた選択肢の中から、どのような就職活動を行ったかについて、該当するものを全て選んでもらった。最も多くの回答者が選んだのは「博物館の求人募集に応募した」であり、「国家公務員試験や地方公務員試験を受験した」、「博物館への就職を意識して、博物館でボランティアやアルバイトを行った」と続く。博物館への就職を意識して、インターンシップを行った回答者は皆無である。なお、その他には「進路支援課からの推薦」という回答も見られた。

(4) 学芸員養成課程に関する事項



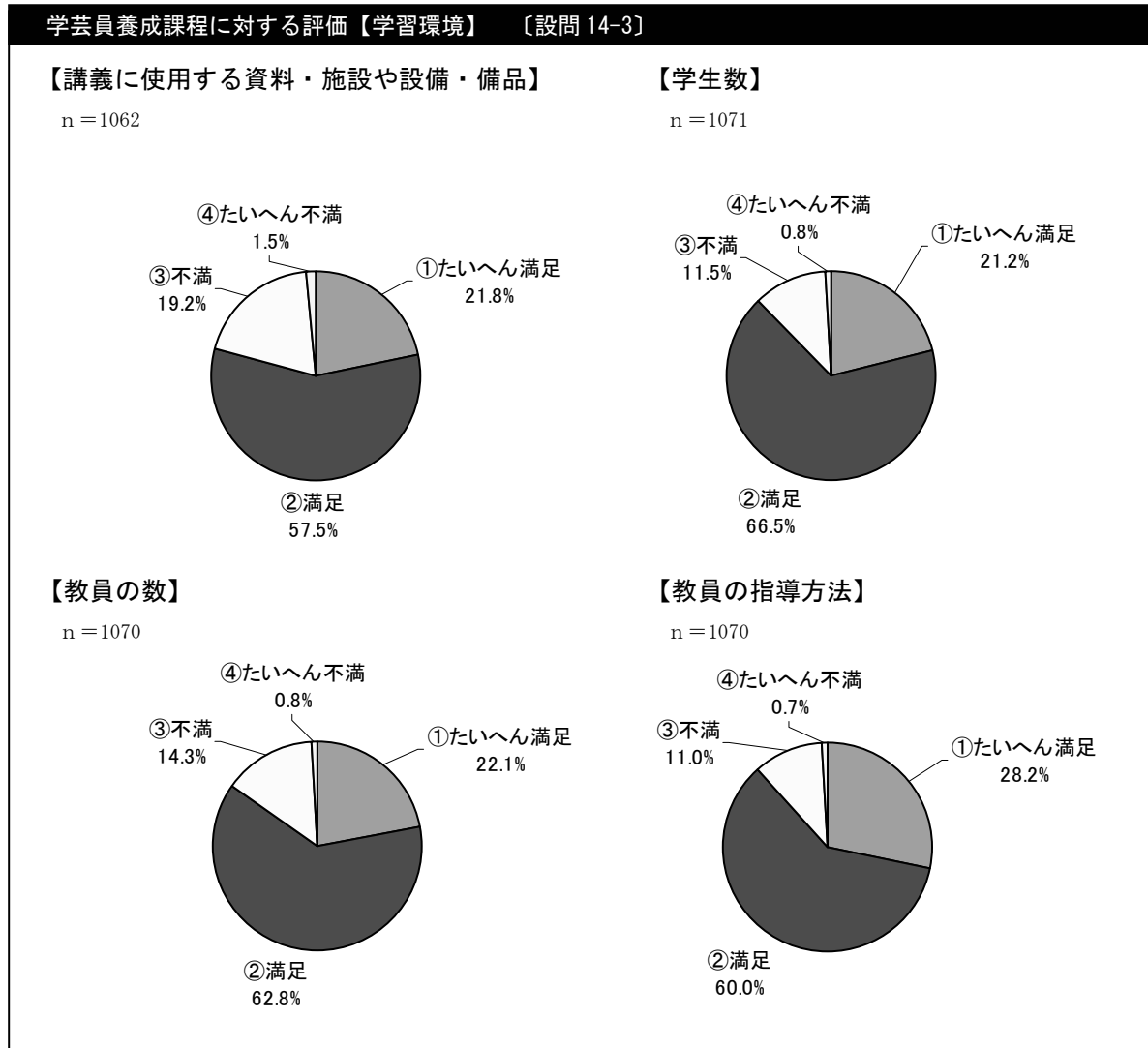
●学芸員養成課程に対する評価【カリキュラム】 [設問14-1]

- ・ 回答者が在籍する大学(院)における学芸員養成課程のカリキュラムについて、あらかじめ設けた評価項目毎に「たいへん満足」、「満足」、「不満」、「たいへん不満」のどれか1つを選んでもらった。履修科目数、履修単位数、履修科目の内容という3項目の回答状況を比べると、履修科目の内容について「不満」や「たいへん不満」が多いことがわかる。



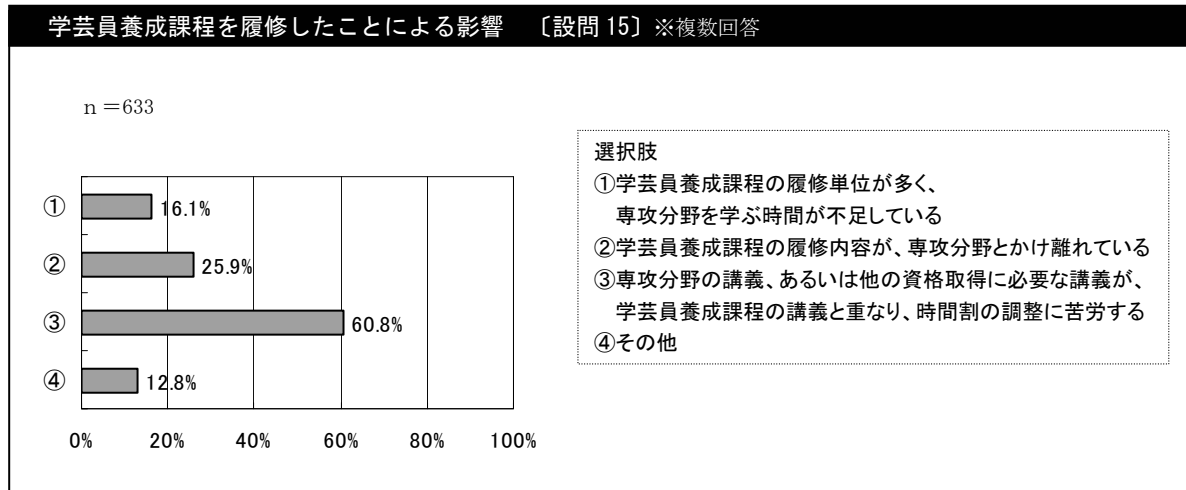
●学芸員養成課程に対する評価【博物館実習（館務実習）】 【設問14-2】

- ・ 回答者が在籍する大学(院)における学芸員養成課程の博物館実習(館務実習)について、あらかじめ設けた評価項目毎に「たいへん満足」、「満足」、「不満」、「たいへん不満」のどれか1つを選んでもらった。単位数、実習内容、実習期間、実習先の選択、実習先の体制という5項目の回答状況を比べると、実習内容と実習先の体制において「たいへん満足」が全体の4割近くを占めているのが目立つ。
- ・ 実習先の選択については、回答者の専門分野と実習先の館種との整合性を基準に回答してもらった。他の項目に比べて不満層が多い一方で、「たいへん満足」も約3割を占めており、回答者によって評価が分かれていることがわかる。



●学芸員養成課程に対する評価【学習環境】 [設問14-3]

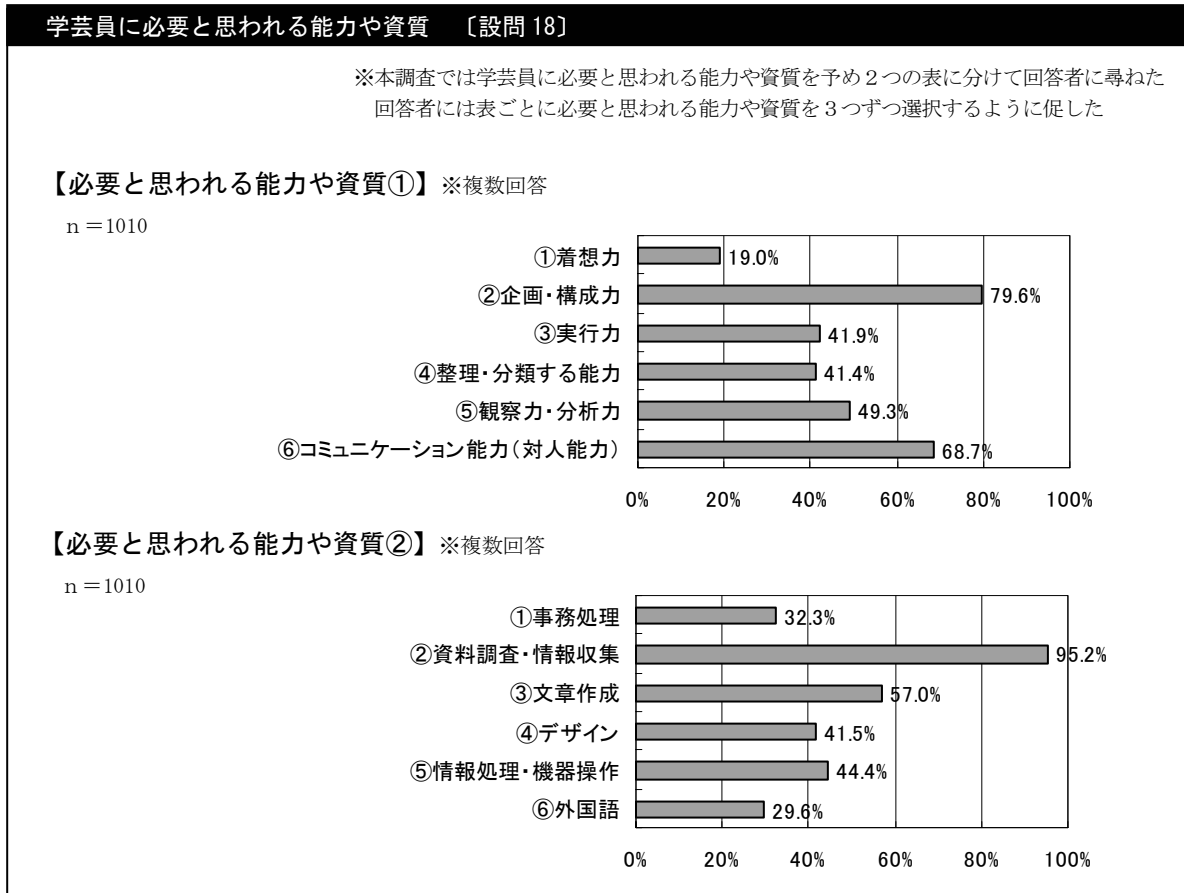
- ・ 回答者が在籍する大学(院)における学芸員養成課程の学習環境について、あらかじめ設けた評価項目毎に「たいへん満足」、「満足」、「不満」、「たいへん不満」のどれか1つを選んでもらった。講義に使用する資料・施設や設備・備品、学生数、教員数、教員の指導方法という4項目の回答状況を比べると、不満が最も多いのは、講義に使用する資料・施設や設備・備品であり、ハード面での環境が十分に整っていないことがうかがえる。
- ・ 教員の指導方法において「たいへん満足」が全体の3割近くを占めているのが目立つ。



●学芸員養成課程を履修したことによる影響 【設問15】

- ・学芸員養成課程を履修したことによって、専攻分野との関連においてどのような問題や影響が生じたか、あらかじめ設けた選択肢の中から該当するものを全て選んでもらった。最も多い回答は「時間割の調整」に関するもので回答者の6割以上が選択した。
- ・なお、「その他」の回答は、次のように分類することができる。①専攻分野などの学習にプラスであるとする回答（「専攻分野へも、学芸員で学んだ知識が応用できた」、「博物館学の視野から自専攻の学問をとらえることができ、有意義なものになった」、「苦になることよりも、専攻分野との互換性があり、共に充実していた」、「教育関係に興味を持っていたが、内容面で似たものを見つけられ、新しい見方や知識を持つことができよかった」、「博物館を卒論のテーマにすることができた」など）、②視野が広がるとする回答（「幅広い学びができると思う」、「理系の人には歴史博物館のことはわかりにくいですが、知識が増えるのでよいと思う」など）、③単位数に関する回答（「卒業単位に含まれないことが不満」、「専門の授業の単位と学芸員のための単位が重なり、むしろ楽」、「年間単位数の問題で、取りたい授業が取れなくなる」など）④カリキュラムに関する回答（「履修単位が多いというわけではなく、実習内容などが大変なため、他の学習との時間配分に苦労している」、「実習期間中が4年生の夏休みとされていたため、就職活動と実習に影響が出た」など）、⑤時間割に関する回答（「夜間の部で開講している」、「企業のインターンシップと日程が重なり、一度単位を落としてしまった」など）、⑥その他（「希望就職先が明確になった」など）が見られた。また、「履修による影響というよりも、専門的な授業が少ない、履修科目数が少ない、実習時間が少ない」などのような感想も多く見られた。

(5) 博物館や学芸員の業務への理解・知識に関する事項



【上記選択肢以外に必要と思う能力や資質】 【設問18】 n = 120

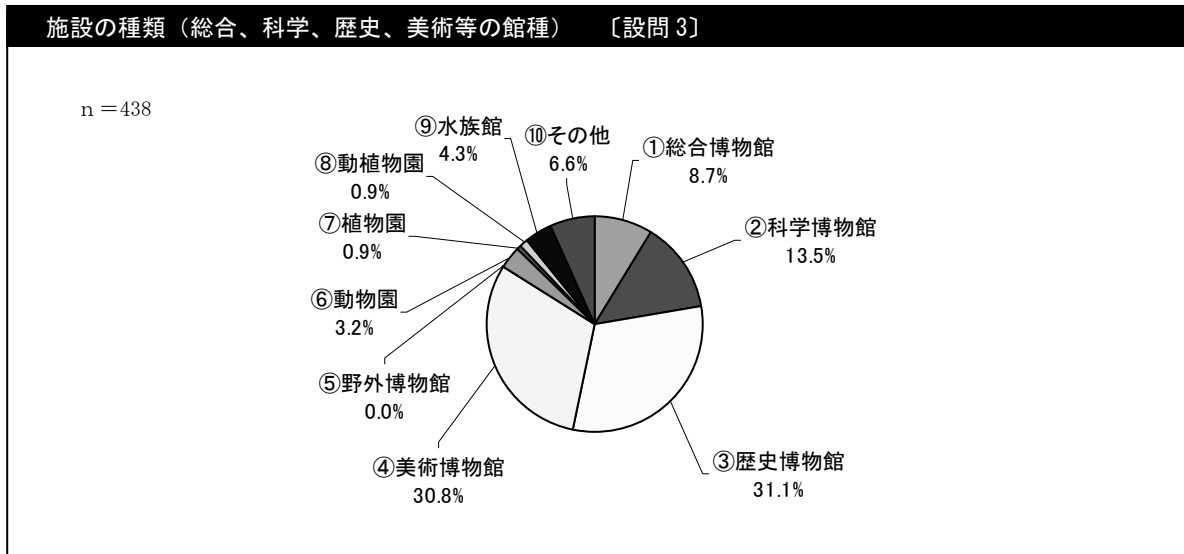
臨機応変に対応できる柔軟性 / 良いと思ったことに対して、すぐに変えることのできる柔軟な思考 / 資料に対する責任感 / 探究心 / 根気強さ / 忍耐力 / 好奇心 / 協調性 / 発想力 / 常識にとられないアイデア / 向上心 / 時代の流れを感じとり、向上していける資質 / 時代の動きを読む力 / 一つの物事から、色々な事を引き出す力、見る力 / 時代の流れを常に感じ取る力 / バランス感覚 / 広い視点や遊び心 / 楽しむ力 / 豊かな感受性 / 責任感 / 注意力 / 人間力 / 継続力 / 真面目 / 慎重 / 人やものの立場に立ち、思考・行動するための視点 / ポジティブな考え方・姿勢 / 人に物をわかりやすく伝える能力 / 表現能力 / 判断力 / 専門性 / 専門知識 / 運送などについての知識 / 想像力 / 創造力 / 行動力 / 決断力 / どのような防壁にぶつかっても、やるべきと思ったことを貫く力 / 適応力 / 応用力 / ものごとを多面的にとらえる力 / パフォーマンス力 / 接客技術 / サービス精神 / ホスピタリティ精神 / 親しみやすさ / 知ったかぶりせずに誠実に接する能力 / マネージメント能力 / 資料の取り扱い・修復などのスキル / 資料を作成する力 / 専門分野に関する高度な研究能力 / 研究報告やギャラリートーク等のレクチャー能力(指導能力) / 指導力 / 教育力 / 手先の器用さ(物作りを行うこともあるため) / 技術力 / 空間認識能力 / スケジュール管理能力 / インタビューの方法 / 写真の技術 / Macの操作 / 信念 / 情熱 / 熱意 / やる気 / 研究意欲 / 努力 / 体力 / 笑顔 / 丁寧さ / 仕事が丁寧なこと、外に目が向いていること / 着眼点を広く持つ / 気づかい / こたわり / オリジナリティ / 高い職業倫理観 / 幅広い人脈 / 資金力 / 資金(パトロン) / この人となら頑張りたいと思わせるパワー / 部下に対する優しさや寛容力 / 他の人に任せられる分野は任せる事ができる能力を持つこと / 運 / 教職

●学芸員に必要と思われる能力や資質 【設問18】

- ・能力や資質①については、回答者の約8割が「企画・構成力」、約7割が「コミュニケーション能力(対人能力)」を選んだ。最も少ないものは「着想力」で、これを選んだ回答者は全体の約2割に過ぎない。
- ・能力や資質②については、回答者の約95%が「資料調査・情報収集」を選んだ。一方、「外国語」と「事務処理」を選んだ回答者は、それぞれ全体の約3割に留まった。

3. 調査C 博物館職員を対象にした調査

(1) 博物館に関する事項



●施設の種類（総合、科学、歴史、美術等の館種） 【設問3】

- ・ 回答館園を館種別に見ると、「歴史博物館」と「美術博物館」がそれぞれ全体の約3割を占めている。
- ・ 「動物園」、「植物園」、「動植物園」、「水族館」をまとめると、全体の約1割に相当する。
- ・ なお、施設の種類の複数に該当する場合は、事業内容などによって主たる種類を1つ選ぶように設問上で促している。

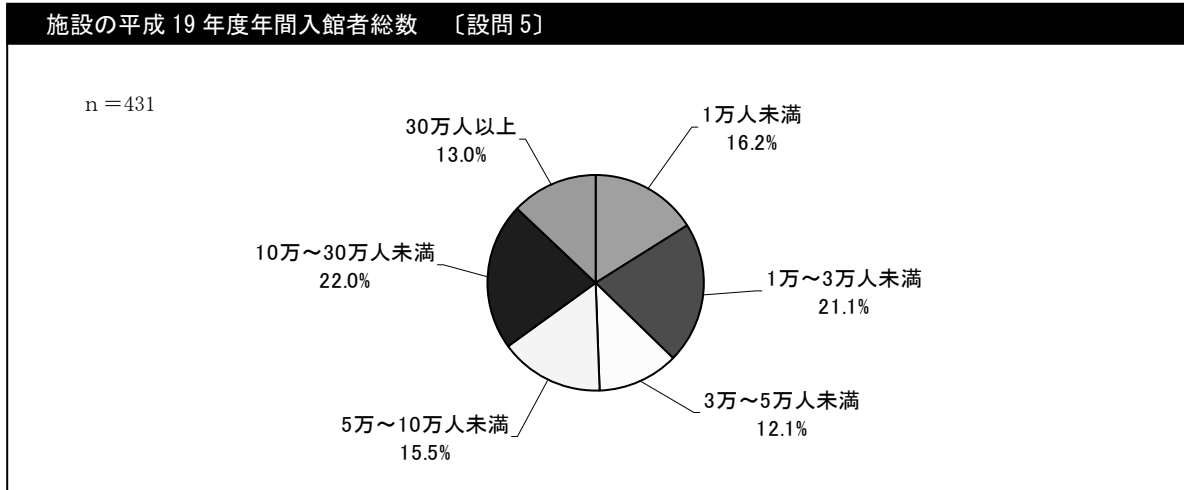
施設の規模 【設問4】

n = 421

延床面積	回答館数	構成比(%)
250㎡未満	2	0.5
250～500㎡未満	15	3.6
500～750㎡未満	25	5.9
750～1000㎡未満	27	6.4
1000～1250㎡未満	25	5.9
1250～1500㎡未満	26	6.2
1500～2000㎡未満	48	11.4
2000～2500㎡未満	31	7.4
2500～3000㎡未満	20	4.8
3000㎡以上	202	48.0
合計	421	100.0

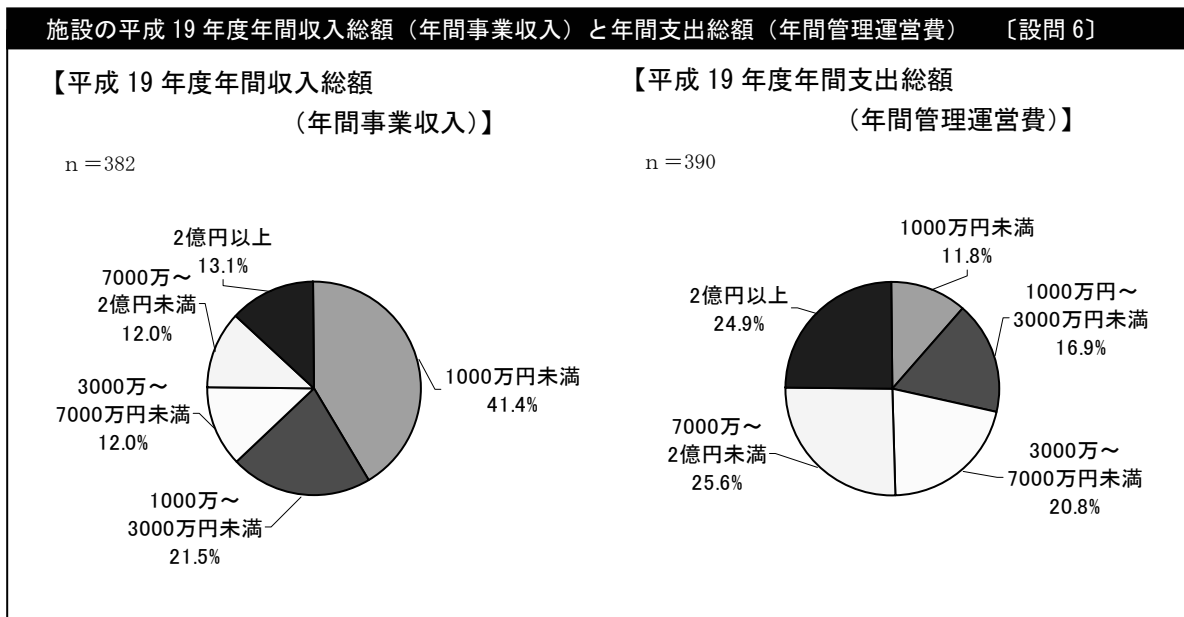
●施設の規模 【設問4】

- ・ 回答館園の建物の総面積(延床面積)を単純集計すると、最大値は71,642㎡、最小値は213㎡、平均値は5,185.6㎡、中央値は2,865㎡である。回答の分布状況を見ると、3,000㎡以上である館園が全体の約半数を占める一方、16.4%の館園が1,000㎡未満に該当している。



●施設の平成19年度年間入館者総数 【設問5】

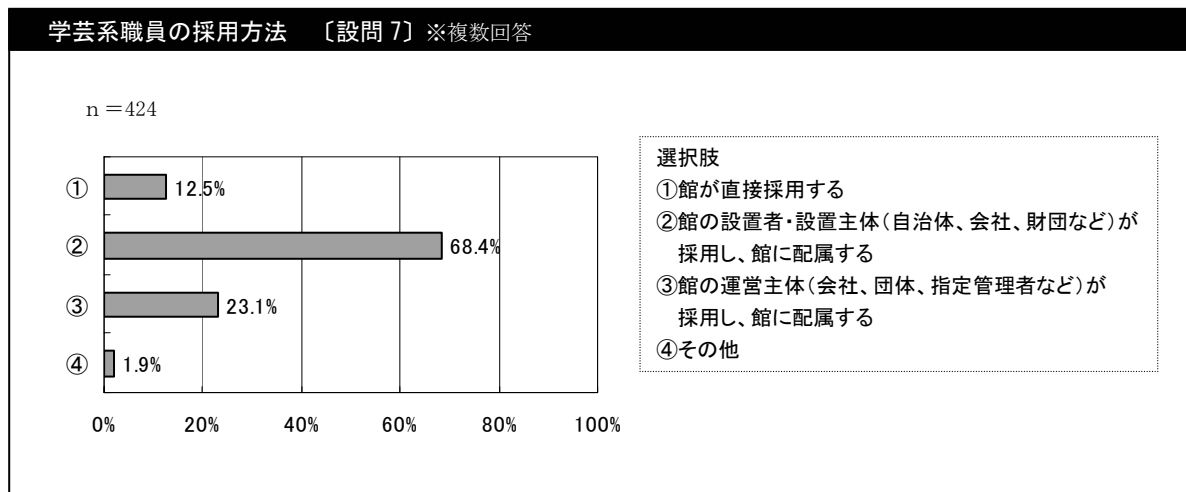
- ・ 回答館園の平成19年度における年間入館者総数は、5万人未満が全体の約半数を占めている。
- ・ 年間入館者総数が10万人以上の館園は、全体の約3分の1以上に該当する。



●施設の平成19年度年間収入総額（年間事業収入）と年間支出総額（年間管理運営費） 【設問6】

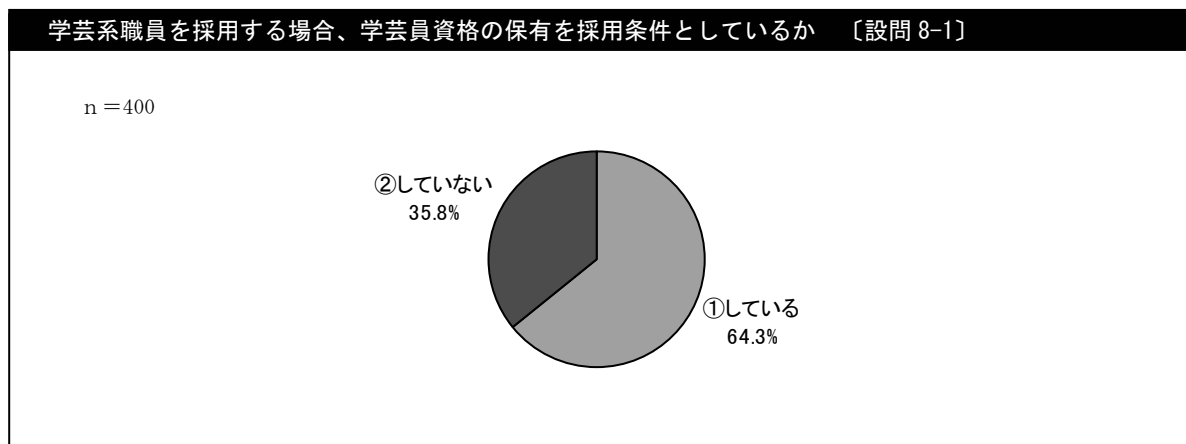
- ・ 回答館園の平成19年度における年間収入総額の最大値は3,286,519千円、平均値は126,223千円、中央値は16,577千円である。なお、13館園が「0円」と回答したが、今回の集計には含めていない。最も多い回答は1,000万円未満で、全体の4割以上を占めている。一方、3,000万円以上と答えた館園は全体の37.1%である。
- ・ 回答館園の平成19年度における年間支出総額の最大値は2,706,180千円、最小値は29千円、平均値は187,185千円、中央値は72,421千円である。回答の分布状況では「7,000万円～2億円未満」と「2億円以上」が、それぞれ全体の約4分の1を占めている。
- ・ 年間収入総額（年間事業収入）と年間支出総額（年間管理運営費）ともに、中央値が平均値をかなり下回っているのは、平均値以下の館園が多数を占めているためである。

(2) 学芸系職員の採用に関する事項



●学芸系職員の採用方法 【設問7】

- ・ 回答館園の学芸系職員の採用方法について、最も多い回答は「館の設置者・設置主体(自治体、会社、財団など)が採用し、館に配属する」であり、全体の7割近くを占めている。
- ・ 館が直接採用するケースは、全体の1割強である。
- ・ 「その他」の採用方法としては、「自治体が事務職として採用後、学芸員としての辞令を発令」、「自治体の一般事務職員採用者の中から資格取得者を配置」、「学芸員を雇用している団体と協定を結び配属」、「財団法人から派遣」などの回答が見られた。



●学芸員職員を採用する場合、学芸員資格の保有を採用条件としているか 【設問8-1】

- ・ 回答館園が学芸系職員の採用において、学芸員資格の保有を採用条件としているケースは、全体の3分の2程度である。つまり、3館に1館は学芸員資格の保有を採用条件にしていることになる。

学芸系職員、学芸員補職員などの状況（平成20年10月1日現在） [設問8-2]

学芸系職員	合計	回答館数	構成比(%)
0人		8	1.9
1人		70	16.6
2～3人		106	25.1
4～5人		59	14.0
6～7人		44	10.4
8～9人		31	7.3
10～19人		68	16.1
20人以上		36	8.5
合計		422	100.0

平均値	8.0
合計値	3377

学芸系職員 (有資格者)	合計	回答館数	構成比(%)
0人		15	3.7
1人		82	20.0
2～3人		118	28.9
4～5人		73	17.8
6～7人		54	13.2
8～9人		18	4.4
10人以上		49	12.0
合計		409	100.0

平均値	4.6
合計値	1862

学芸員補職員	合計	回答館数	構成比(%)
0人		369	87.6
1人		25	5.9
2人		9	2.1
3人		9	2.1
4人		4	1.0
5人以上		5	1.2
合計		421	100.0

平均値	0.3
合計値	117

その他の職員	合計	回答館数	構成比(%)
0人		97	23.8
1人		36	8.8
2～3人		77	18.9
4～5人		65	16.0
6～7人		33	8.1
8～9人		21	5.2
10～19人		44	10.8
20人以上		34	8.4
合計		407	100.0

平均値	6.8
合計値	2764

常勤職員	合計	回答館数	構成比(%)
0人		10	2.4
1人		34	8.2
2～3人		82	19.8
4～5人		64	15.5
6～7人		50	12.1
8～9人		28	6.8
10～19人		86	20.8
20人以上		60	14.5
合計		414	100.0

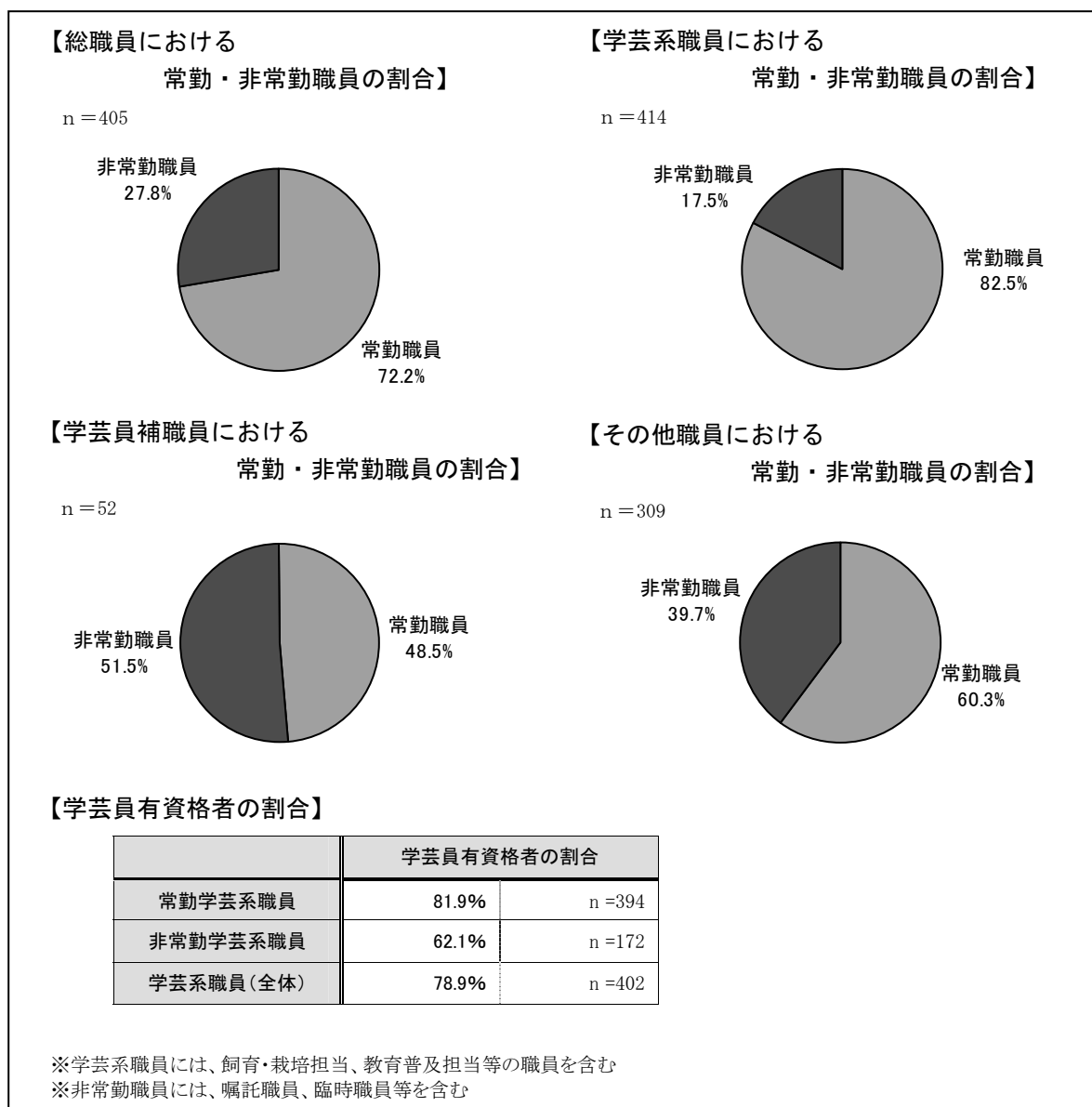
平均値	11.2
合計値	4627

非常勤職員	合計	回答館数	構成比(%)
0人		112	27.7
1人		68	16.8
2～3人		99	24.4
4～5人		46	11.4
6～7人		19	4.7
8～9人		14	3.5
10～19人		33	8.1
20人以上		14	3.5
合計		405	100.0

平均値	4.0
合計値	1604

総職員	合計	回答館数	構成比(%)
1～5人		119	29.3
6～10人		124	30.5
11～15人		51	12.6
16～20人		29	7.1
21～50人		64	15.8
51人以上		19	4.7
合計		406	100.0

平均値	15.1
合計値	6130



●学芸系職員、学芸員補職員などの状況（平成20年10月1日現在） 【設問8-2】

- ・ 職員の総数について単純集計すると、最大値は172人、最小値は1人、平均値は15.1人、中央値は8人である。全体の約3割の回答館園が、常勤職員、非常勤職員（嘱託職員、臨時職員などを含む）を合わせて5人以下で運営されている。なお、本調査では休職中・停職中の職員を除いて回答するように設問上で促している。
- ・ 学芸系職員の総数について単純集計すると、最大値は137人、最小値は0人、平均値は8人、中央値は4人である。回答の分布状況を見ると、学芸系職員が1人の館園が全体の16.6%に該当する一方、10人以上の学芸系職員が在籍している館園は全体の24.6%を示している。なお、学芸員補職員が0人と回答した館園は全体の87.6%を占めており、ほとんどの館園に学芸員補職員が在籍していないことを示している。また、常勤職員の総数について単純集計すると、最大値は129人、最小値は0人、平均値は11.2人、中央値は6人であった。
- ・ 学芸員有資格者数（学芸系職員に占める有資格者の数）について単純集計すると、最大値は35人、最小値は0人、平均値は4.6人、中央値は3人である。常勤学芸系職員に占める学芸員有資格者の割合は81.9%であり、非常勤職員に占める学芸員有資格者の割合は62.1%を数えた。また、学芸系職員（全体）に占める学芸員有資格者の割合は全体の約8割を示した。

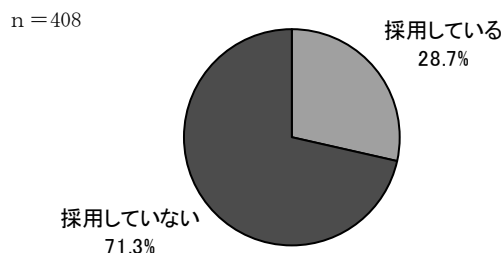
学芸系職員、学芸員補職員の年齢構成（平成20年10月1日現在） 【設問8-3】				
				n = 410
学芸系職員・学芸員補職員	年齢	常勤職員 (%)	非常勤職員 (%)	計 (%)
	20代	29.8%	22.0%	44.1%
	30代	72.7%	20.7%	78.3%
	40代	68.0%	11.5%	70.7%
	50代	52.2%	6.3%	54.6%
	60歳以上	10.5%	17.6%	25.6%

●学芸系職員、学芸員補職員の年齢構成（平成20年10月1日現在） 【設問8-3】

- 各館園における学芸系職員と学芸員補職員の年齢構成について尋ねたところ、30代、40代、50代、20代、60歳以上の順で多く配置されていることがわかった。働き盛りの年代と言える、30代、40代の職員が回答館園全体の7割以上の館園に配置されていることが確認できたが、一方、20代の職員が配置されている館園が全体の4割程度という結果に現在の博物館における職員配置の事情（若手の学芸系職員・学芸員補職員があまり配置されていない）を看取することができる。特に、20代の常勤学芸系職員・学芸員補職員の割合は3割弱を示しており、学芸員有資格者の博物館（現場）への就職の難しさを物語っている。
- 5つの年齢層の職員（学芸系職員・学芸員補職員／常勤職員・非常勤職員）が全て配置されていると回答した館園は33館（全体の8.0%）を数えた。ただし、5つの年齢層の職員（学芸系職員・学芸員補職員／常勤職員）が常に配置されていると回答した館園は11館（全体の2.7%）に留まった。

学芸系職員の新規採用状況【学芸系常勤職員】〔設問9-1〕

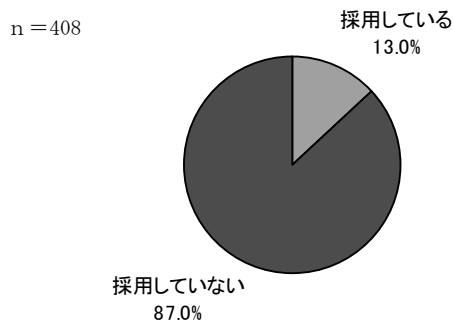
【最近3カ年における学芸系常勤職員採用の有無】



n = 117

最近3カ年/ 学芸系常勤職員採用総数(人)	
平均値	2.3
中央値	1
最大値	26
最小値	1
合計値	272

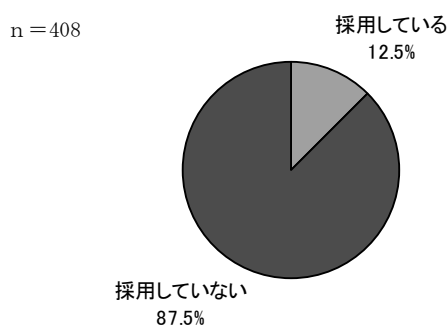
【平成18年度の学芸系常勤職員採用の有無】



n = 53

平成18年度/学芸系常勤職員採用数(人)	
平均値	1.6
中央値	1
最大値	7
最小値	1
合計値	85

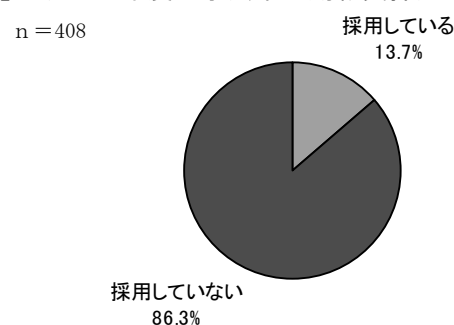
【平成19年度の学芸系常勤職員採用の有無】



n = 51

平成19年度/学芸系常勤職員採用数(人)	
平均値	1.8
中央値	1
最大値	13
最小値	1
合計値	89

【平成20年度の学芸系常勤職員採用の有無】

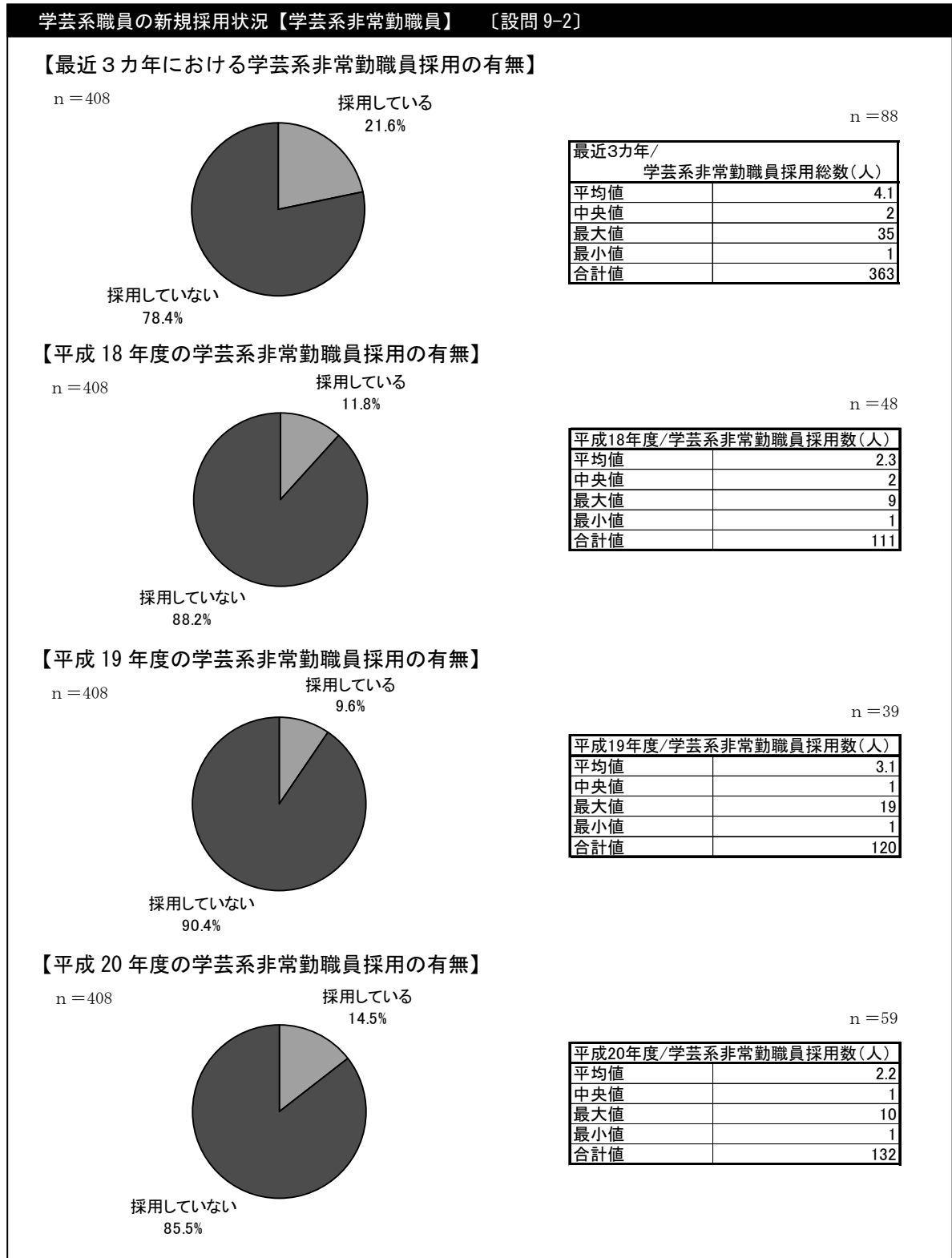


n = 56

平成20年度/学芸系常勤職員採用数(人)	
平均値	1.8
中央値	1
最大値	9
最小値	1
合計値	98

●学芸系職員の新規採用状況【学芸系常勤職員】〔設問9-1〕

- ・7割以上の館園が、最近3カ年(平成18・19・20年度)において、学芸系常勤職員を1人も採用していないことがわかる。年度別に、学芸系常勤職員を採用していると回答した館園の比率を見ると、いずれも12～14%程度に留まっている。
- ・学芸系常勤職員の採用人数の平均値は、平成18年度が1.6人、平成19年度と平成20年度がそれぞれ1.8人である。また、中央値はいずれの年も1人である。この結果から、学芸系常勤職員を採用した館園でも、採用人数は1人のケースが多いことがわかる。



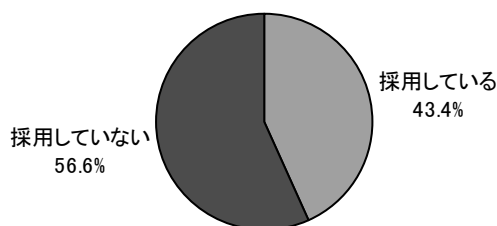
●学芸系職員の新規採用状況【学芸系非常勤職員】 [設問9-2]

- ・ 8割近い館園が、最近3カ年(平成18・19・20年度)において、学芸系非常勤職員を1人も採用していないことがわかる。年度別に、学芸系非常勤職員を採用していると回答した館園の比率を見ると、いずれも1割程度に留まっている。
- ・ 学芸系非常勤職員の採用人数の平均値は、平成18年度が2.3人、平成19年度が3.1人、平成20年度が2.2人である。いずれの年も学芸系非常勤職員の値を上回っている。なお、中央値に着目すると、学芸系非常勤職員を採用した館園でも、採用人数は毎年1～2人のケースが多いことがわかる。

学芸系職員の新規採用状況【学芸系 常勤・非常勤職員】 【設問 9-3】

【最近3カ年における学芸系職員の採用の有無】

n = 408

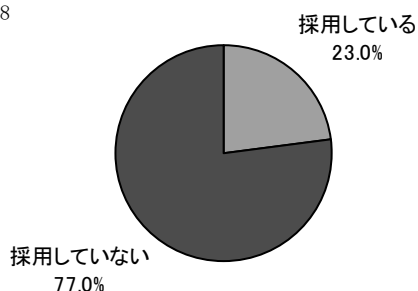


n = 177

最近3カ年/学芸系職員採用総数(人)	
平均値	3.6
中央値	2
最大値	42
最小値	1
合計値	635

【平成18年度の学芸系職員の採用の有無】

n = 408

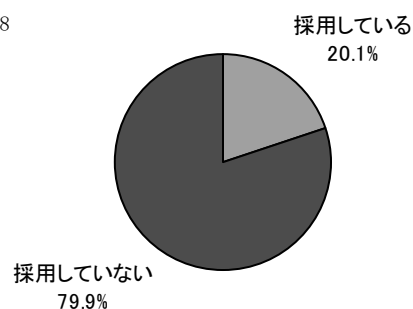


n = 94

平成18年度/学芸系職員採用数(人)	
平均値	2.1
中央値	1
最大値	13
最小値	1
合計値	196

【平成19年度の学芸系職員の採用の有無】

n = 408

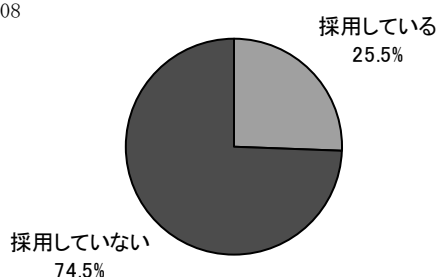


n = 82

平成19年度/学芸系職員採用数(人)	
平均値	2.6
中央値	1
最大値	20
最小値	1
合計値	209

【平成20年度の学芸系職員の採用の有無】

n = 408

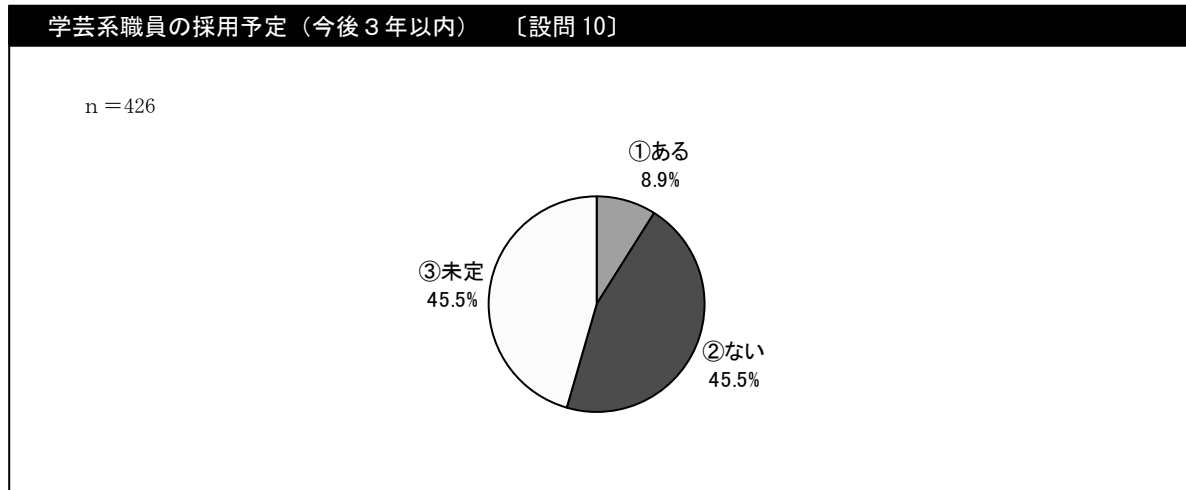


n = 104

平成20年度/学芸系職員採用数(人)	
平均値	2.2
中央値	1
最大値	10
最小値	1
合計値	230

●学芸系職員の新規採用状況【学芸系 常勤・非常勤職員】 【設問9-3】

- 常勤・非常勤職員を合わせても、全体の6割程度の館園では、最近3カ年(平成18・19・20年度)において学芸系職員を1人も採用していないことがわかる。年度別に、学芸系職員(常勤・非常勤)を採用していると回答した館園の比率を見ると、いずれも2割程度に留まっている。
- 学芸系職員(常勤・非常勤)の採用人数の平均値は、平成18年度が2.1人、平成19年度が2.6人、平成20年度が2.2人である。一方、中央値はいずれの年も1人である。この結果から、学芸系職員(常勤・非常勤)を採用した館園でも、採用人数は毎年1人のケースが多いことがわかる。

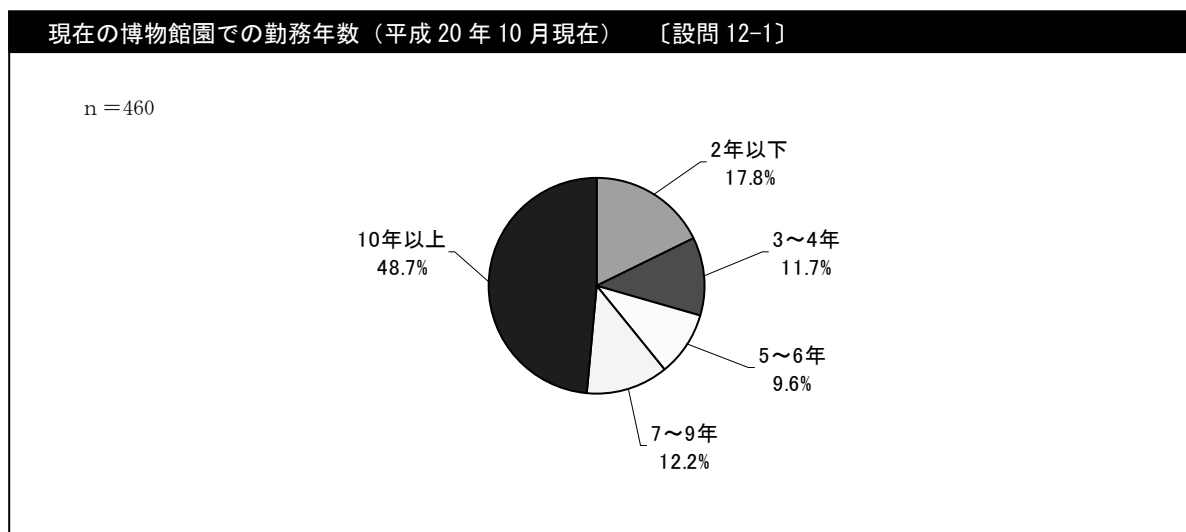


●学芸系職員の採用予定（今後3年以内） 【設問10】

- ・今後3年以内に学芸系職員を新規に採用する予定があると回答した館園は、全体の1割にも満たない。一方、採用する予定がないと回答した館園は、全体の半数近くを占めている。

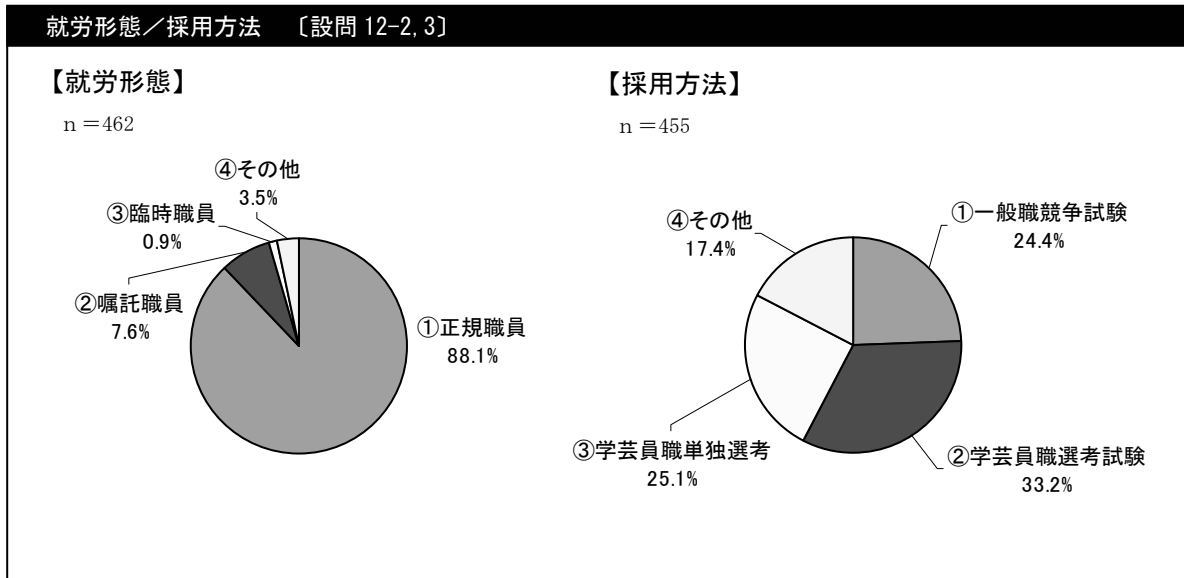
■以下、設問12～21は学芸員資格を保有している学芸系職員が回答した。

（3）学芸員資格を保有する学芸系職員に関する事項



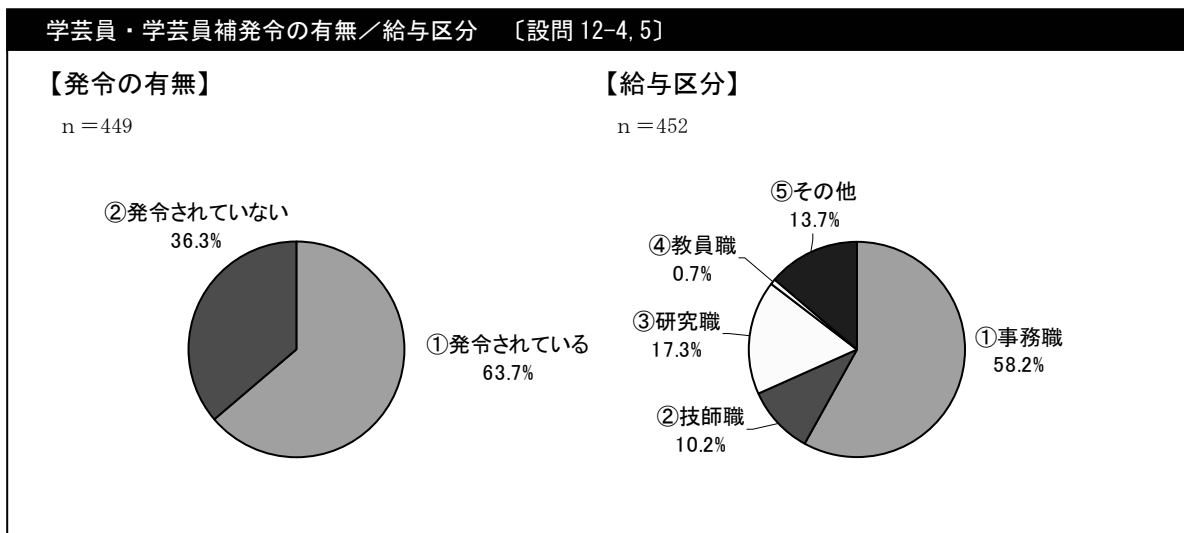
●現在の博物館園での勤務年数（平成20年10月現在） 【設問12-1】

- ・回答者の勤務年数は「10年以上」が最も多く、全体の約半数を占めている。



●就労形態／採用方法 [設問12-2, 3]

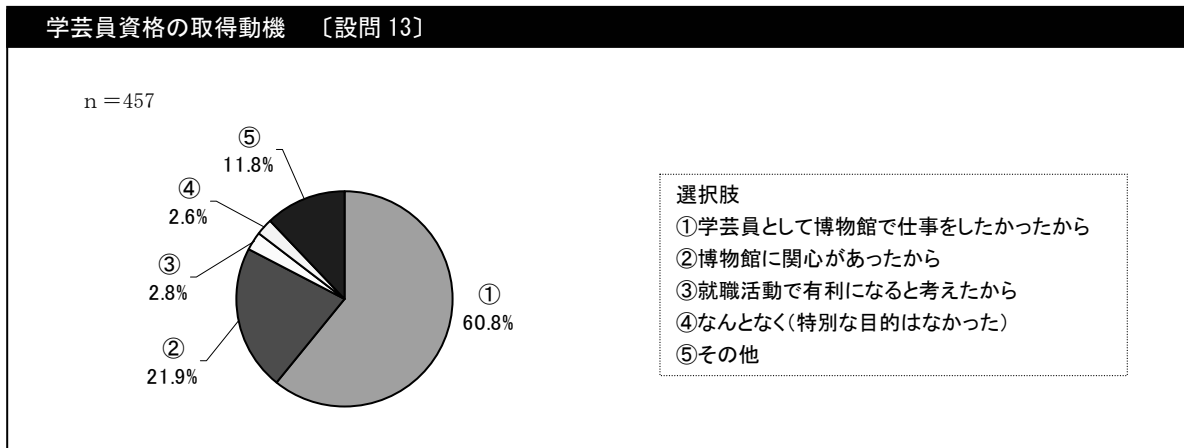
- ・ 回答者の就労形態で最も多い回答は「正規職員」であり、全体の9割近くを占めている。
- ・ 回答者の4人に1人は、学芸系職員を区別しない「一般競争試験」によって採用されている。
- ・ 「その他」には、「教員試験あるいは教員からの異動」、「文化財専門職員選考試験あるいは埋蔵文化専門職員採用試験」、「学芸員職単独選考で歴史系博物館へ入り、今の館(美術館)に異動」、「指定管理者による配属異動」、「設置者より配属後に学芸員資格を取得」、「研究補佐員選考試験」、「博物館実習後に、論文などの指定書類を提出して、採用された」などの回答が見られた。



●学芸員・学芸員補発令の有無／給与区分 [設問12-4, 5]

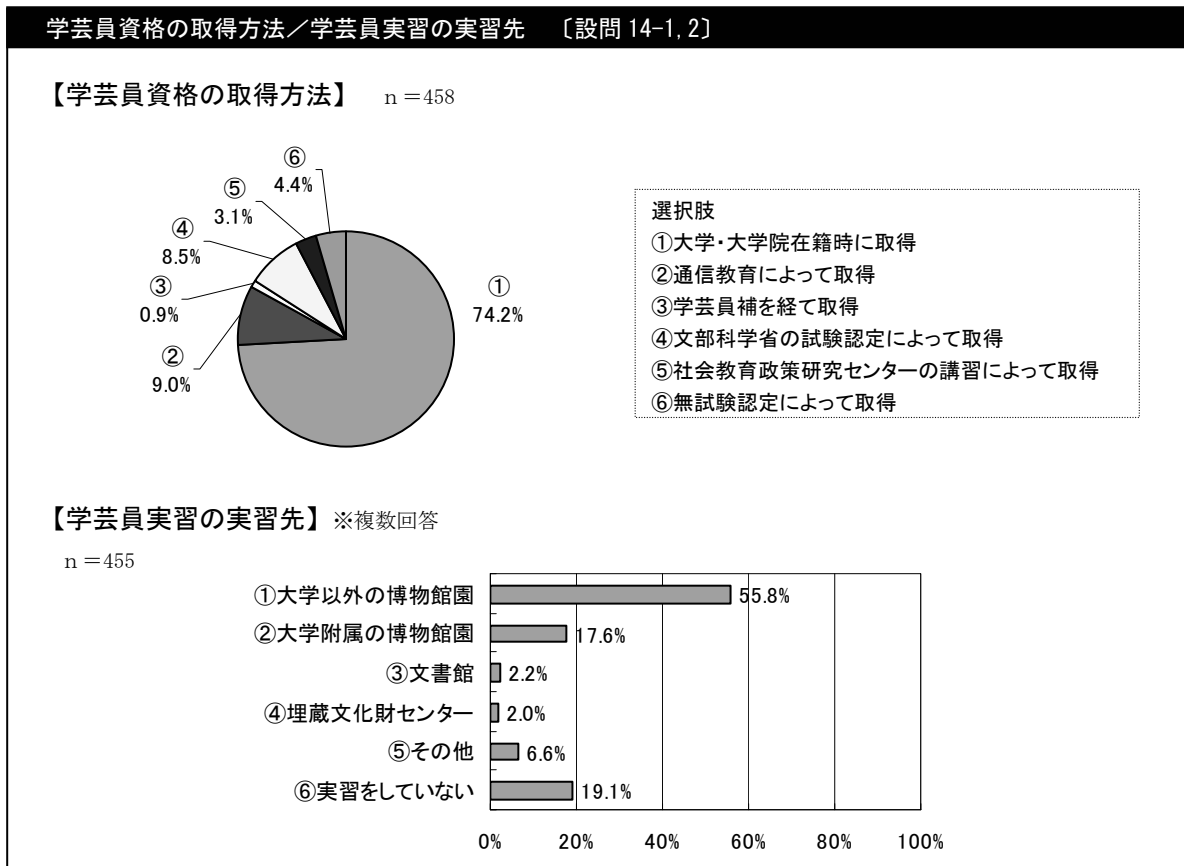
- ・ 回答者(学芸員資格を持つ学芸系職員)の3人に2人が、学芸員もしくは学芸員補の発令を受けている。一方で、回答者の3人に1人が学芸員や学芸員補の発令を受けていないことがわかる。
- ・ 回答者の給与区分で最も多いのは「事務職」であり、全体の約6割を占めている。次いで「研究職」が全体の17.3%を示している。この結果から、学芸員が研究職などの専門職として位置づけられているケースは少ないことがうかがえる。

(4) 学芸員資格などに関する事項



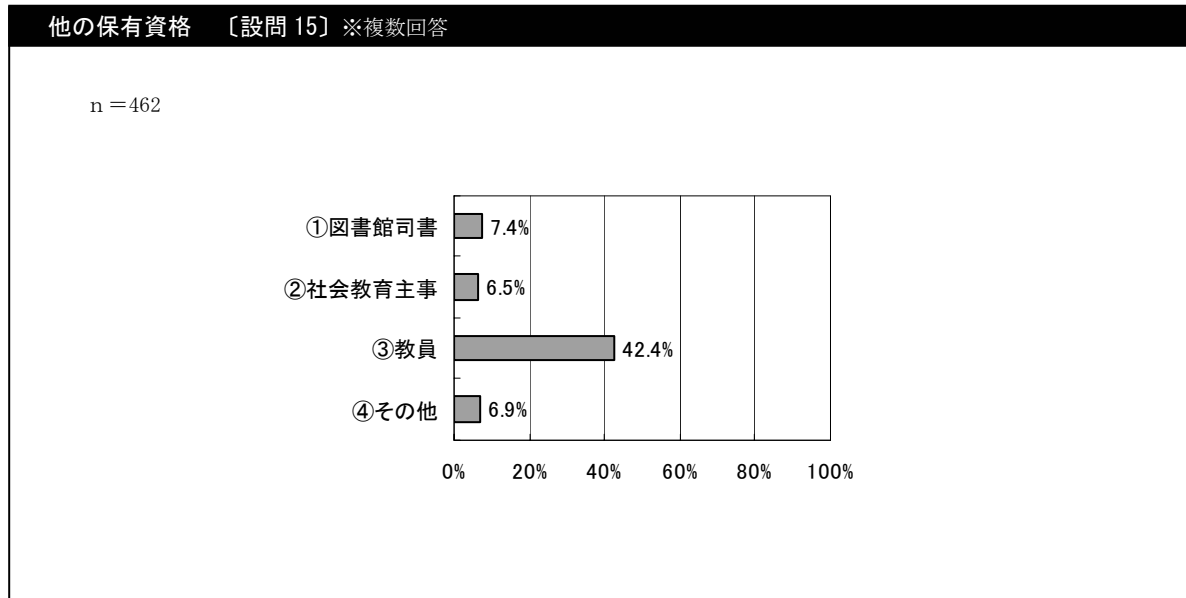
●学芸員資格の取得動機 【設問 13】

- ・ 回答者が学芸員資格を取得した動機で最も多い回答は、全体の約6割を占める「学芸員として博物館で仕事をしなかったから」であり、次に多く見られた「博物館に関心があったから」を約40ポイント上回っている。



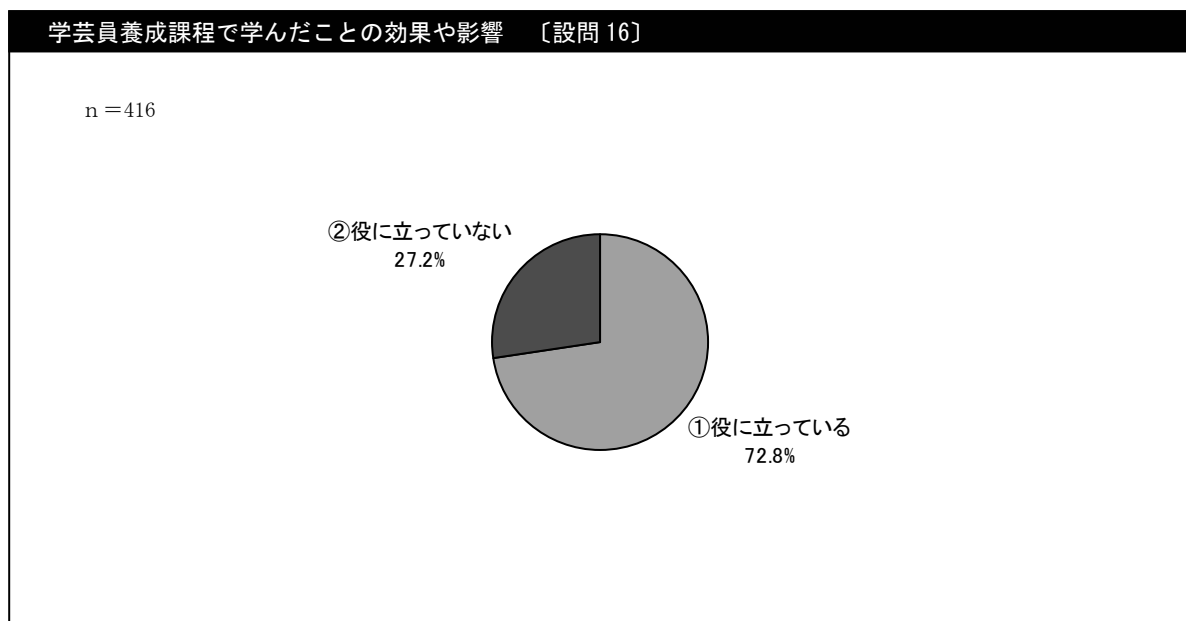
●学芸員資格の取得方法／学芸員実習の実習先 【設問14-1, 2】

- ・ 回答者の4人に3人が大学・大学院在籍時に学芸員資格を取得している。また、通信教育と文部科学省の試験認定による学芸員資格の取得者がそれぞれ全体の約1割を示している。
- ・ 本設問では、回答者の学芸員実習の実施先に該当するものを全て回答してもらった。本調査の回答者数を上回る回答数(サンプル数)が得られたため、実習を2カ所以上の施設で行った回答者が含まれていることがわかる。今回の集計結果で最も多いのは「大学以外の博物館園」で、回答者の半数以上が選んでいる。また、実習を行っていない回答者は全体の約2割を数えている。



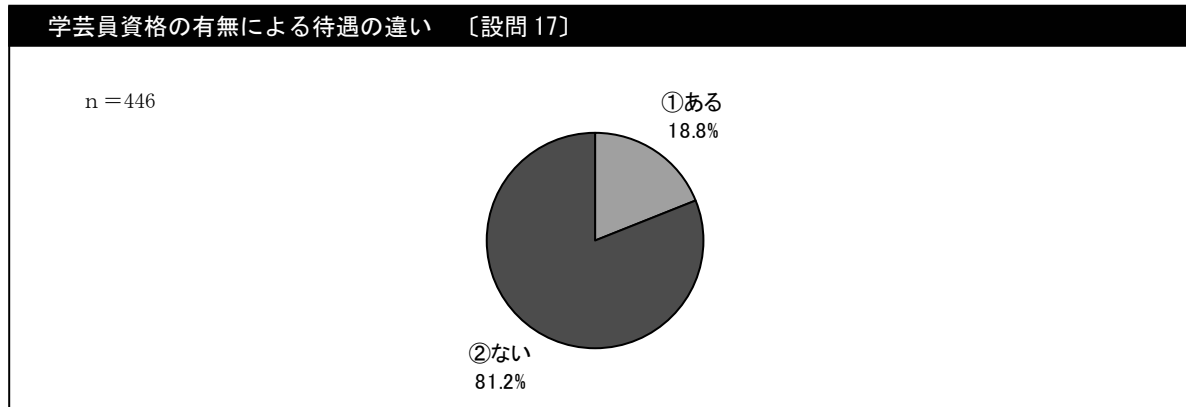
●他の保有資格 [設問15]

- ・ 回答者が学芸員以外で持っている資格について、該当するものを全て選んでもらった。最も多い資格は「教員」であり、全体の4割以上の回答者が持っている。なお、本設問に対して回答が無かった215人は、学芸員以外の資格を持っていないと推測することができる。



●学芸員養成課程で学んだことの効果や影響 [設問16]

- ・ 回答者の7割以上が、学芸員養成課程で学んだことが現在の業務に役に立っていると回答した。
- ・ 本設問では、学芸員養成課程で学んだことが現在の業務に役立っている理由と、役立っていない理由について、それぞれ自由に記述してもらった。役に立っている主な理由としては、博物館や学芸員に関する基礎知識が得られたことや博物館実習における有意義な体験などが挙げられ、また、役に立っていない主な理由には学習内容が実践的でないことなどが挙げられた。



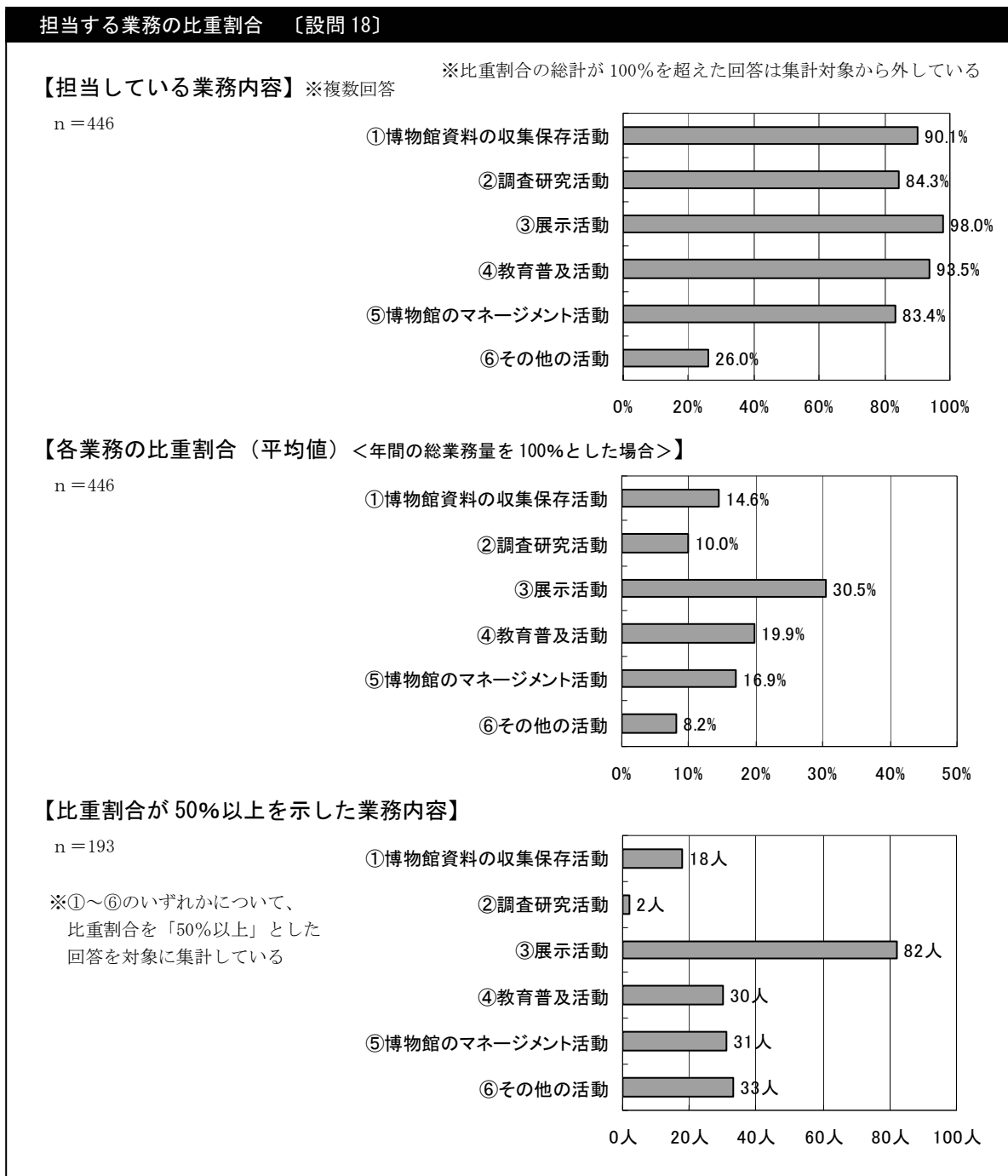
【待遇の具体的内容】【設問17】 n = 74

人事面	<ul style="list-style-type: none"> ◆異動 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館以外への異動がほとんどない ※回答多数 ・運営主体内で当館担当課に異動する可能性がある (市立・歴史) ・学芸職の仕事に従事できる (市立・美術) ・基本的に文化行政以外には異動はないと言われているが、実際は不明。首長部局への改組も考えられているので、その場合にどうなるかが問題なのかもしれない (市立・美術)
給与面	<ul style="list-style-type: none"> ◆給与の優遇 <ul style="list-style-type: none"> ・基本給が事務職より高い (市立・歴史) ・学芸員資格取得者であることが必須でない事務補佐員と比較して、若干給与が高く設定されている (独立行政法人立・歴史) ・臨時職員で学芸員資格を持つ者は給与面で優遇されている (市立・美術) ・無資格者の職名は「学芸員補」であり、研究職としての給与待遇とならない (県立・総合) ・無資格の場合、1号棒低い。昇格時期算定の基準日が資格取得年に設定されており、無資格では昇給、昇格に差が出る (市立・科学) ・非常勤職員の給与が資格の有無により異なる (市立・総合) ・嘱託学芸員は一般事務嘱託より月額給与が若干高い (市立・歴史) ・給与について1号棒の違いがあり、取得により回復措置がとられる (市立・科学) ◆給与区分・体系 <ul style="list-style-type: none"> ・給与体系が異なる (財団法人立・歴史) ・研究職の給与となる ※回答多数 ・学芸職と事務職では給与の違いがある (市立・美術) ◆手当がつく <ul style="list-style-type: none"> ・専門職手当あり (有限会社・美術) ・学芸員手当あり (財団法人・美術) ・給与に技術手当が付いている (県立・科学) ※回答多数 ・技術職手当が付く (財団法人立・美術) ・手当がある分、責任が重い。出勤も事務より遙かに多い (財団法人立・歴史) ・時間外手当の配分率に影響がある (市立・美術)

●学芸員資格の有無による待遇の違い 【設問17】

- ・回答館園の約2割が、給与面や人事面などにおいて、学芸員資格の有無による待遇の違いがあると回答した。
- ・本設問では、学芸員資格の有無による待遇の違いがあると回答した館園に、具体的な内容を記してもらった。最も回答が多いのは給与面についてであり、事務職より給与が高かったり、資格手当が付くという回答が多く見られた。人事面では人事異動がないことなどが挙げられた。
- ・他には、「資格を持っていることを採用条件としている」、「有資格者のみ『学芸員』を名乗ることができる」、「学芸員として採用されているので、県職員は全員学芸員で、総務的な事は指定管理者が行っている」、「学芸職に埋蔵文化財センターの職員が来ることがあるが、待遇の違いはない」、「待遇の違いがあると良いと思う」などの回答が見られた。

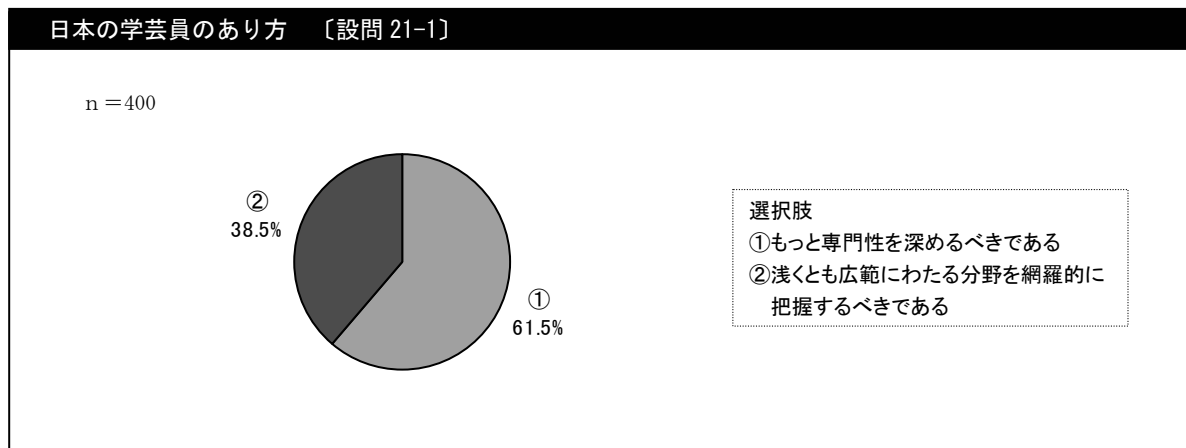
(5) 学芸系職員の業務内容に関する事項



●担当している業務の比重割合 [設問18]

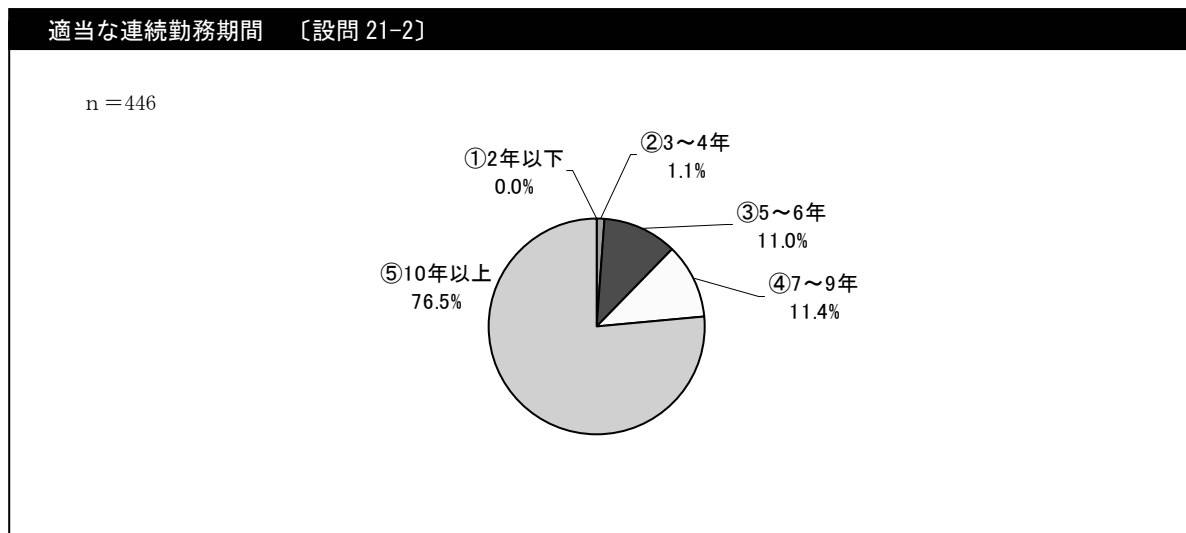
- ・ 回答者が現在担当している業務について、あらかじめ設けた項目に沿って年間の総業務量に占めるおおよその比重割合を記入してもらった。
- ・ 「その他の業務」の内容としては「飼育管理」、「一般事務」、「大型映像の運営に関する業務」、「文化財関係業務(市の文化財担当部署でもあるため)」、「市役所職員としての各種行政関係や委員会に関する業務」などの回答が見られた。
- ・ 9割以上の回答者が、資料の収集保存、展示、教育普及に関する業務を選択した。
- ・ 年間の総業務量を100%とした場合における各業務の比重割合の平均値は、展示活動に関する業務が約3割と最も多い。一方、調査研究活動に関する業務は約1割を示している。
- ・ 特定の業務の比重割合が50%以上と回答したサンプルを抽出して集計した結果、展示活動に関する業務が最も多く、調査研究活動に関する業務が極端に少ないのが特徴的である。

(6) 学芸員制度に関する事項



●日本の学芸員のあり方 [設問21-1]

- 日本の学芸員のあり方として「もっと専門性を深めるべきである」か、あるいは「浅くとも広範にわたる分野を網羅的に把握すべきである」かのいずれかを選んでもらった。約6:4の割合で「もっと専門性を深めるべきである」という回答が多かった。



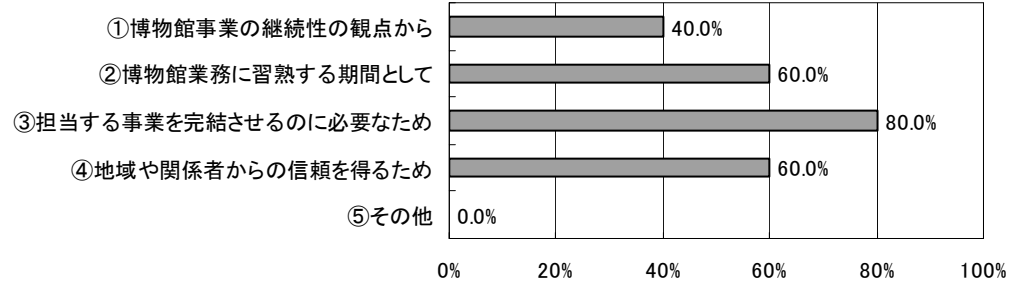
●適当な連続勤務期間 [設問21-2]

- 学芸員として連続して勤務する期間はどのくらいが適当であるか、あらかじめ設けた選択肢の中から選んでもらった。最も多い回答は「10年以上」で、4分の3以上の人が選択した。

適当な連続勤務期間の回答理由 [設問 21-3]

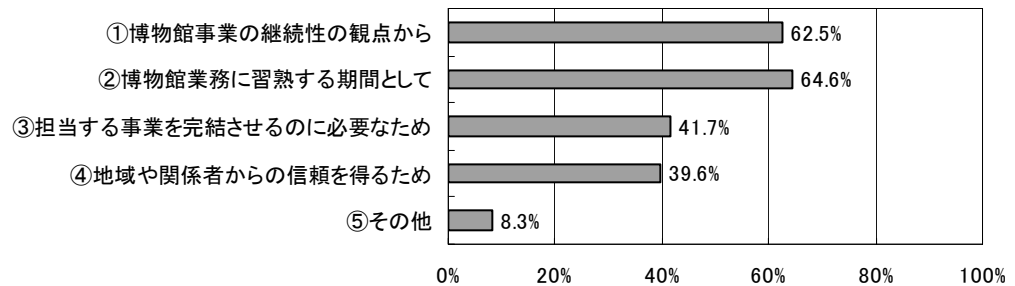
【「3～4年」を選んだ回答理由】※複数回答

n = 5



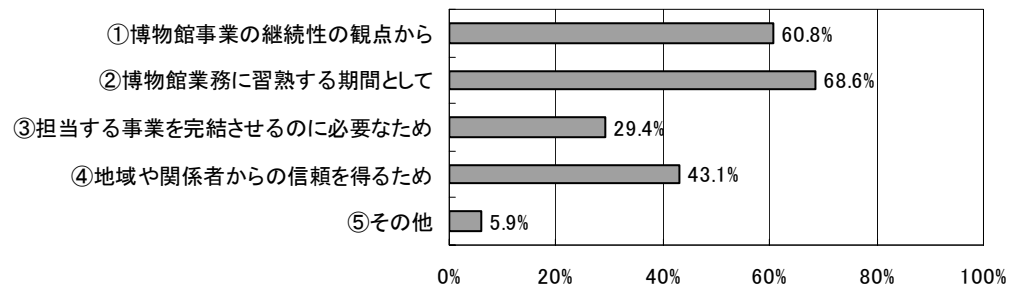
【「5～6年」を選んだ回答理由】※複数回答

n = 48



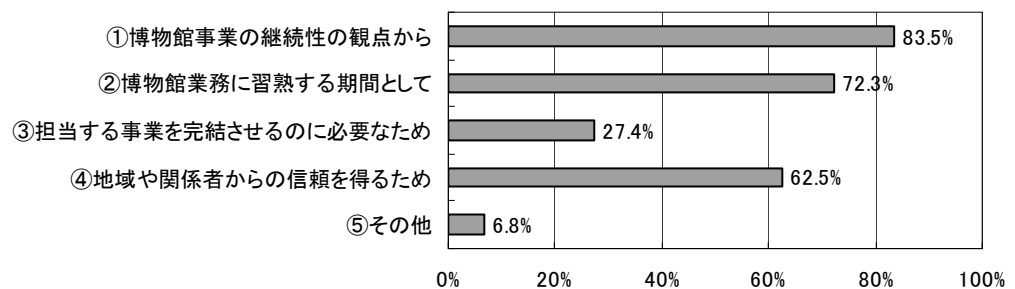
【「7～9年」を選んだ回答理由】※複数回答

n = 51



【「10年以上」を選んだ回答理由】※複数回答

n = 339



●適当な連続勤務期間の回答理由 [設問21-3]

- ・ 適当な連続勤務期間を選んだ理由について、該当するものを全て選んでもらった。「担当する業務を完結させるのに必要なため」という理由は、「3～4年」を選択した回答者に多く見られ、連続勤務期間が長くなるにつれ、少なくなった。
- ・ 「10年以上」を選んだ回答者の8割以上が、「博物館事業の継続性の観点から」を選んでいる。
- ・ なお、適当な連続勤務期間について「2年以下」を選択した回答は見られなかった。

4. 調査D 自治体職員を対象にした調査

■以下、設問 1～4 は人事関連業務に携わっている職員が回答した。

(1) 自治体に関する事項

職員数の状況（平成 20 年 10 月 1 日現在）		〔設問 2〕		
		常勤職員	非常勤職員	計
学芸員有資格者の割合	都道府県	n=9	n=4	n=6
		4.7%	2.0%	5.6%
	市・区	n=51	n=27	n=40
		0.9%	0.3%	0.7%
	町・村	n=7	n=4	n=7
		1.4%	0.0%	1.3%
	計	n=67	n=35	n=53
		1.4%	0.4%	1.3%

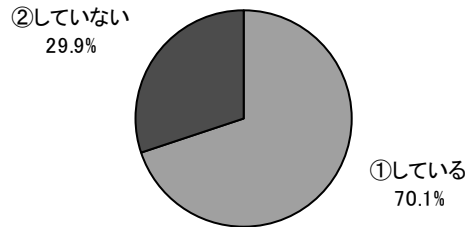
●職員数の状況（平成 20 年 10 月 1 日現在） 〔設問 2〕

- ・自治体の総職員数に占める学芸員有資格者数の割合について集計したところ、最も高い値を示したのは都道府県であった。市・区（政令指定都市を含む）に至っては、常勤職員数に占める割合、非常勤職員数に占める割合、総職員数に占める割合ともに 1% に満たない状況であった。
- ・なお、今回回答のあった自治体のうち、学芸員有資格者数の最大値は、都道府県で 107 人（常勤職員・非常勤職員）、市・区で 128 人（常勤職員・非常勤職員）、町・村では 5 人（全て常勤職員）であった。

学芸系職員の採用状況 [設問 3-1, 2, 3]

【学芸系職員を採用する場合、学芸員資格の保有を採用条件としているか】

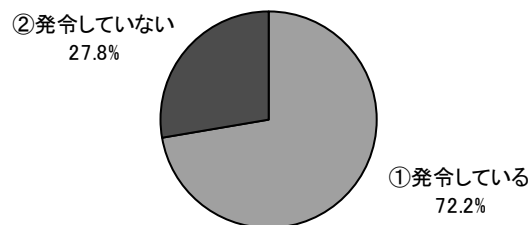
n = 77



■学芸員資格の保有を採用条件に「している」と回答した自治体対象

【学芸員発令をしているか】

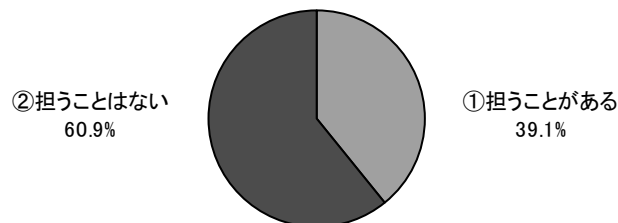
n = 54



■学芸員資格の保有を採用条件に「していない」と回答した自治体対象

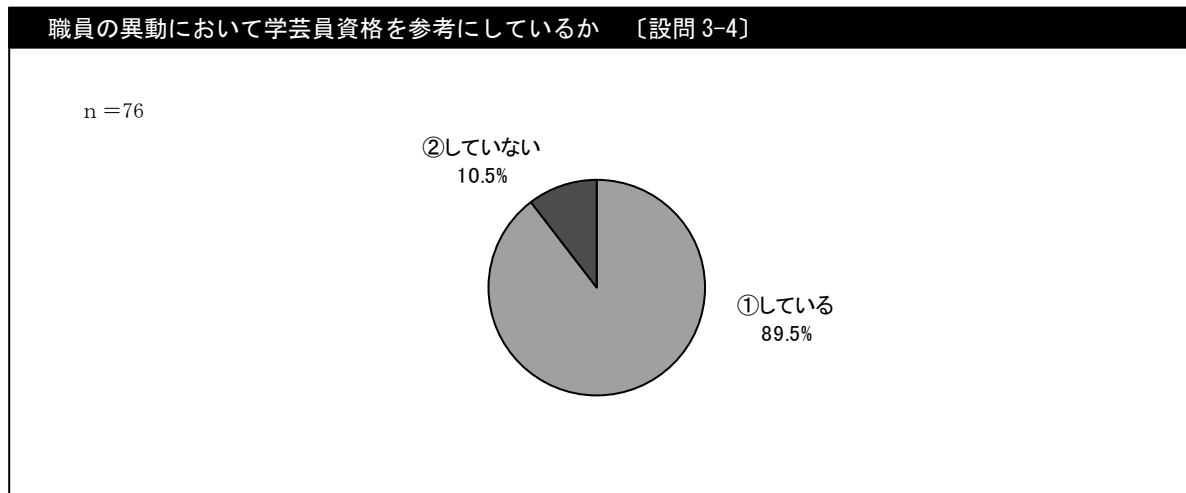
【学芸員資格を保有しない職員が学芸業務を担うことはあるか】

n = 23



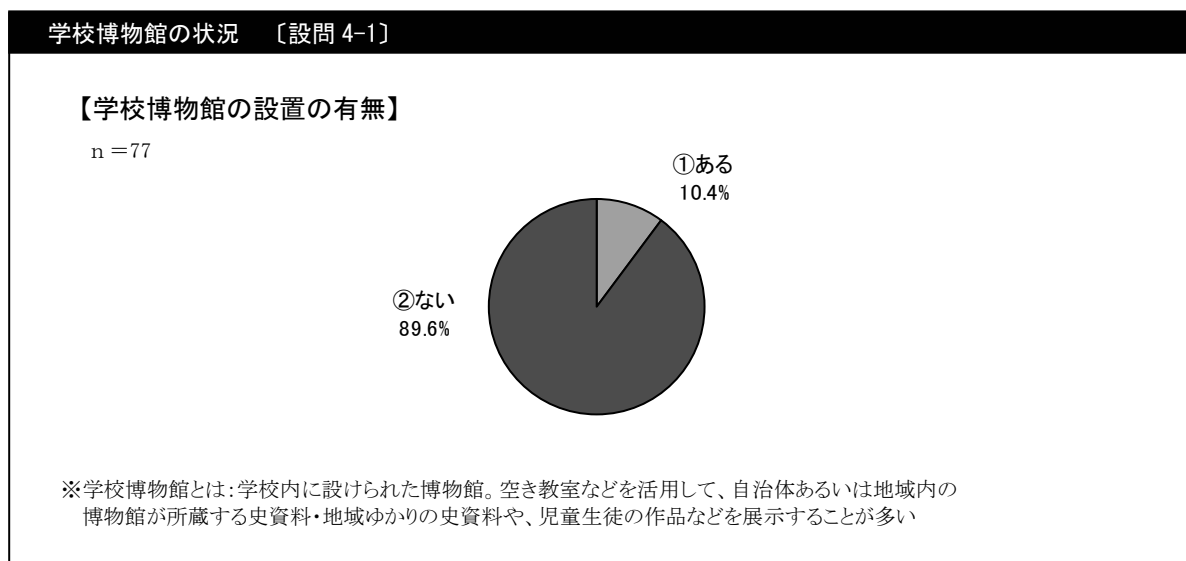
●学芸系職員の採用状況 [設問3-1, 2, 3]

- ・ 回答した自治体が学芸系職員を採用する場合、学芸員資格の保有を採用条件にしていると回答したのは全体の約7割である。
- ・ 学芸員資格の保有を採用条件にしている自治体のうち、学芸員発令をしていると回答したのは全体の約7割であった。
- ・ 学芸員資格の保有を採用条件にしていない自治体のうち、学芸員資格を保有しない職員でも学芸業務を担うことがあると回答したのは全体の約4割であった。



●職員の異動において学芸員資格を参考にしているか [設問3-4]

- ・ 職員の異動に学芸員資格を参考にしていると回答した自治体は、全体の約9割を占めている。

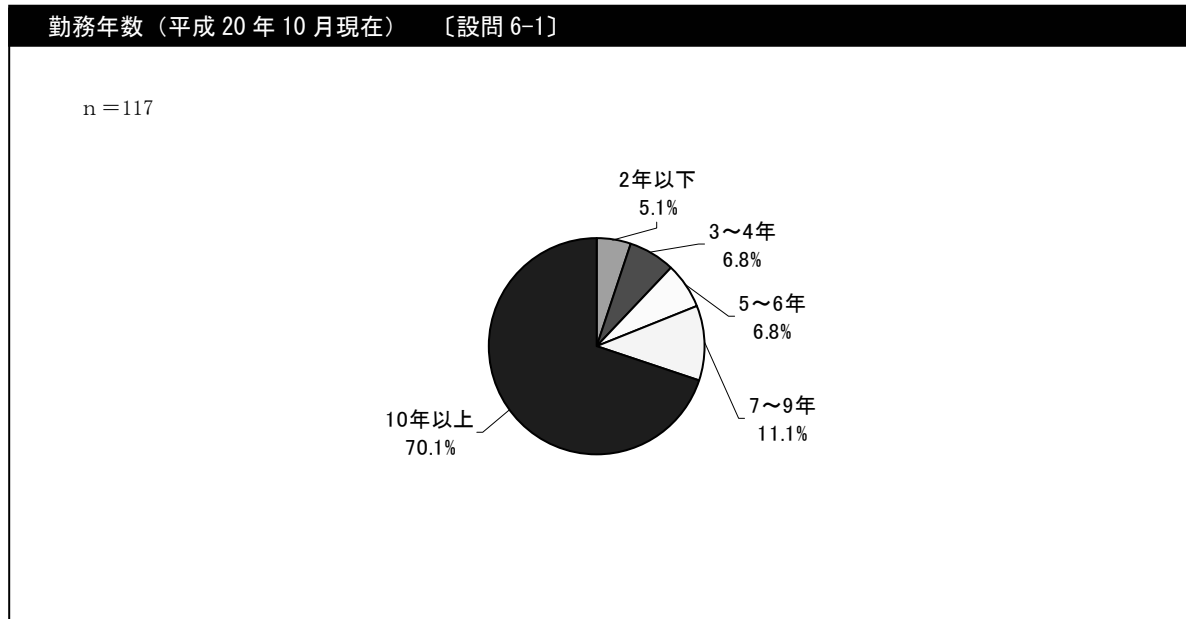


●学校博物館の状況 [設問4-1]

- ・ 学校博物館があると回答した自治体は全体の約1割であり、大半の自治体が学校博物館を設けていないことがわかる。なお、学校博物館があると回答した自治体に、学校博物館に学芸員資格を持つ職員を配属しているかについて尋ねたところ、全ての自治体が「配属していない」と答えた。

■以下、設問 6～11 は学芸員資格を保有する職員が回答した。

(2) 学芸員資格を保有する自治体職員に関する事項



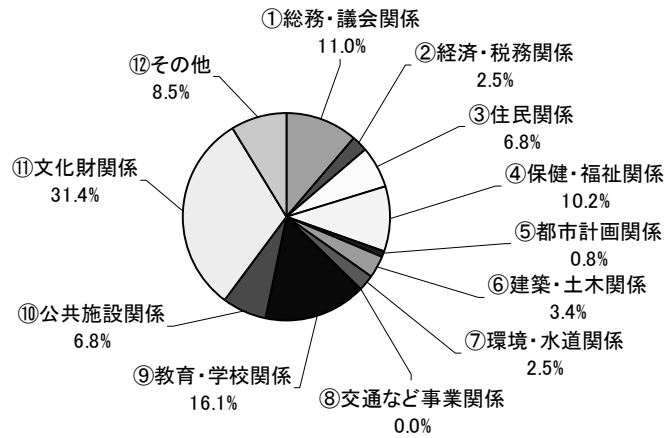
●勤務年数（平成20年10月現在） 【設問6-1】

- ・勤務年数を尋ねたところ、10年以上という回答が最も多く、全体の約7割を占めている。
- ・勤務年数の回答を単純集計すると、最大値は38年、最小値は7カ月、平均値と中央値はともに14年であった。

現在所属している部署・これまでに所属したことのある部署 [設問6-2]

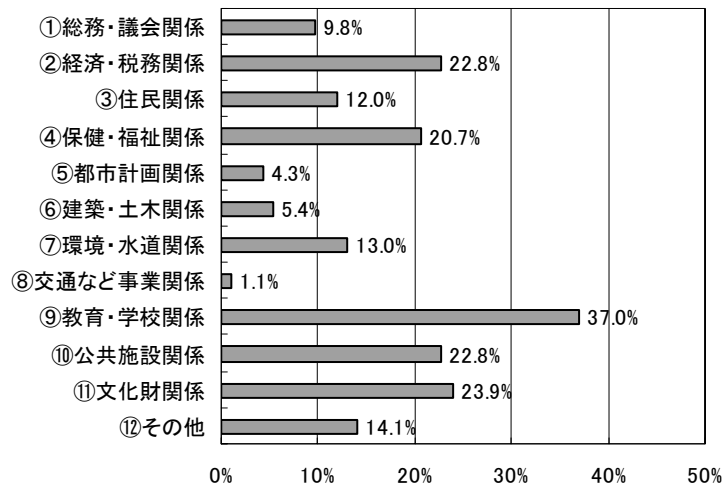
【現在所属している部署】

n = 118



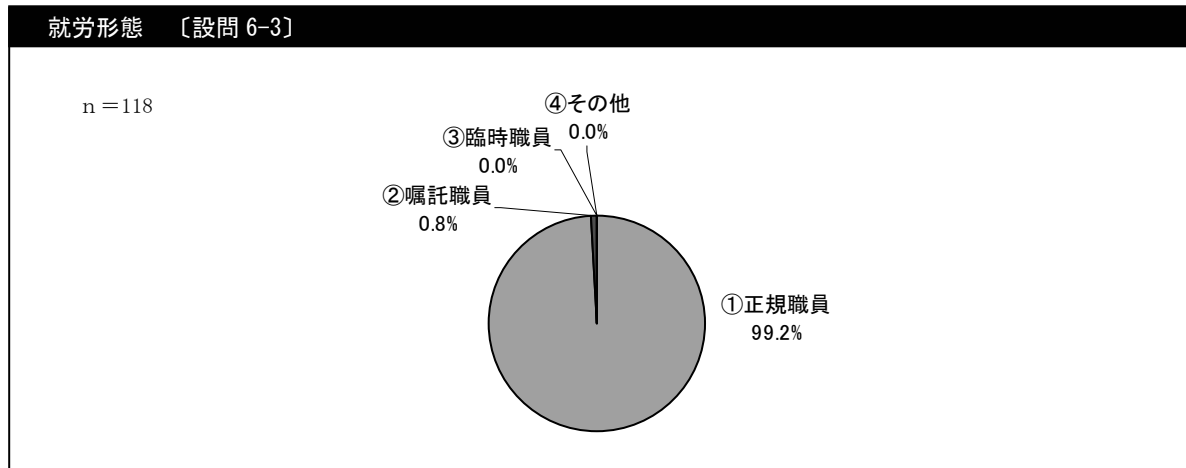
【これまでに所属したことのある部署】 ※複数回答

n = 92



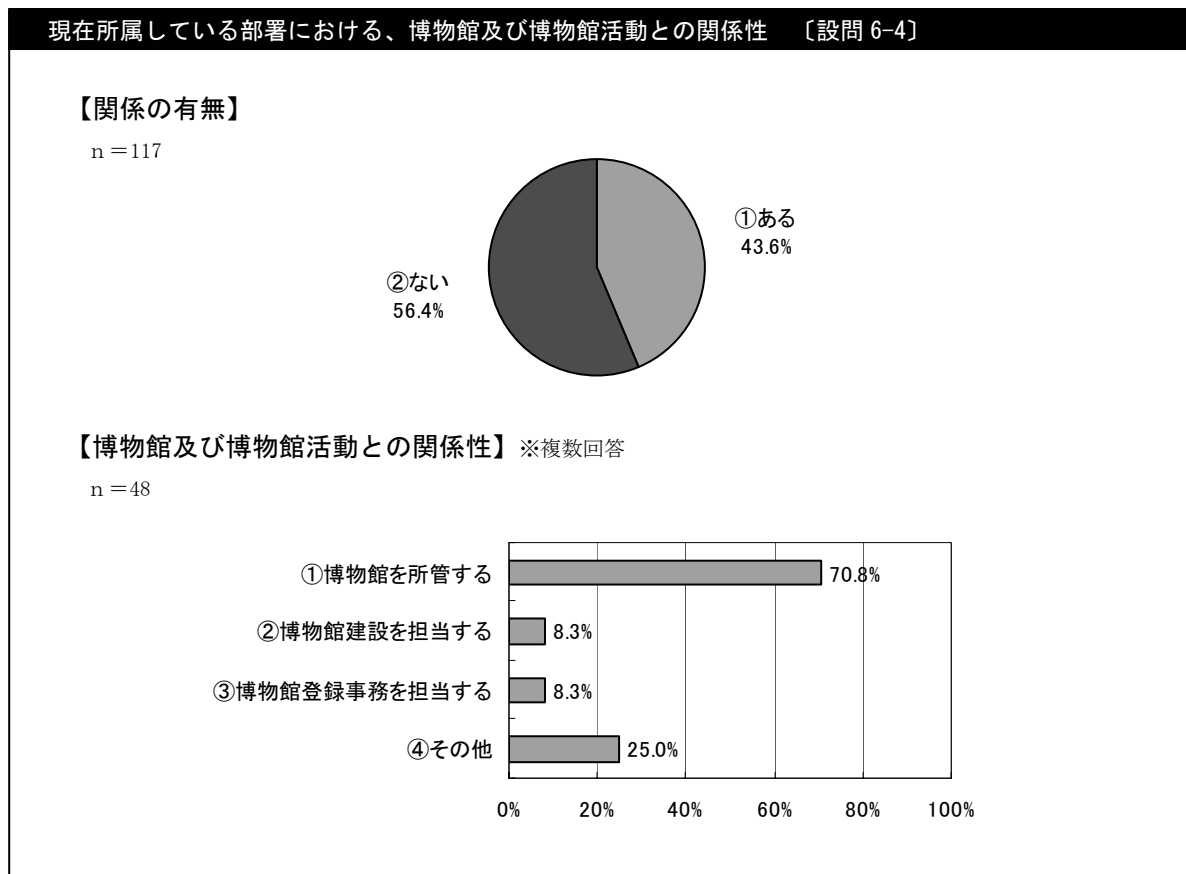
●現在所属している部署・これまでに所属したことのある部署 [設問6-2]

- ・学芸員資格を持つ自治体職員(回答者)に対して、現在所属している部署をあらかじめ設けた選択肢の中から選んでもらった。「文化財関係」が全体の約3割を占め、「教育・学校関係」が16.1%とこれに次いで多い。つまり、回答者の約半数が文教関連の部署に所属していることがわかる。
- ・一方、回答者がこれまで所属したことがある部署を全て選んでもらった結果、「教育・学校関係」が最も多く、次いで「文化財関係」、そして同率で「公共施設関係」と「経済・財務関係」が続いた。
- ・設問3では、約9割の自治体が職員の異動に学芸員資格を参考に行っていると回答したが、有資格者は文教関連の部署に配属されるケースが多いと見なすことができる。
- ・「その他」には、「広報、情報政策」、「観光」、「公社」、「国民宿舎」などの回答が見られた。



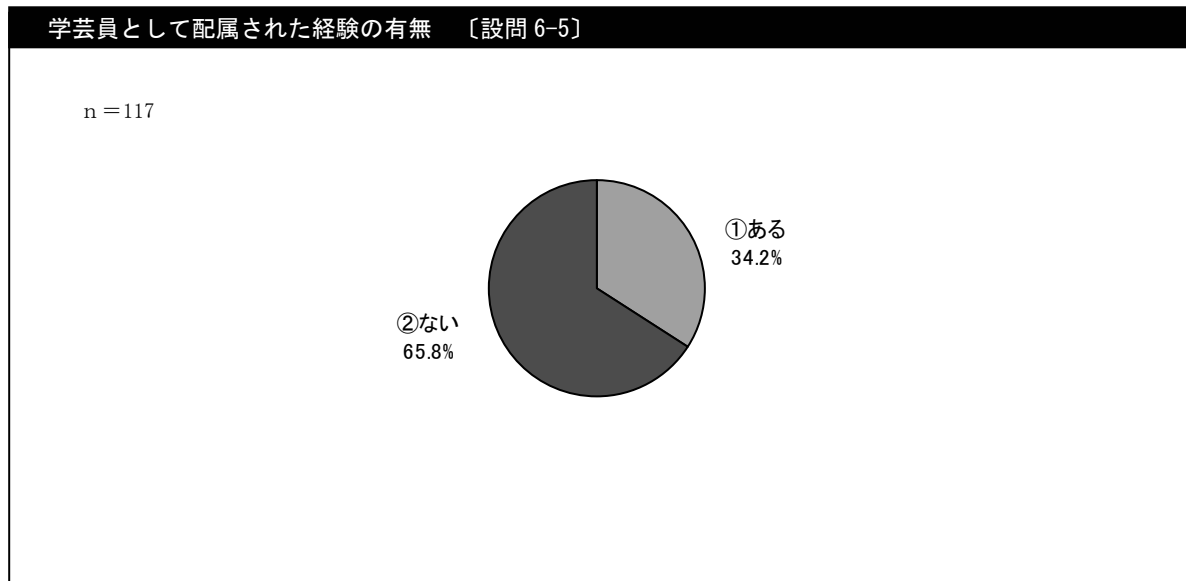
● **就労形態** 【設問6-3】

- ・ 学芸員資格を持つ自治体職員に対して就労形態を尋ねたが、ほとんどの回答者が「正規職員」であった。



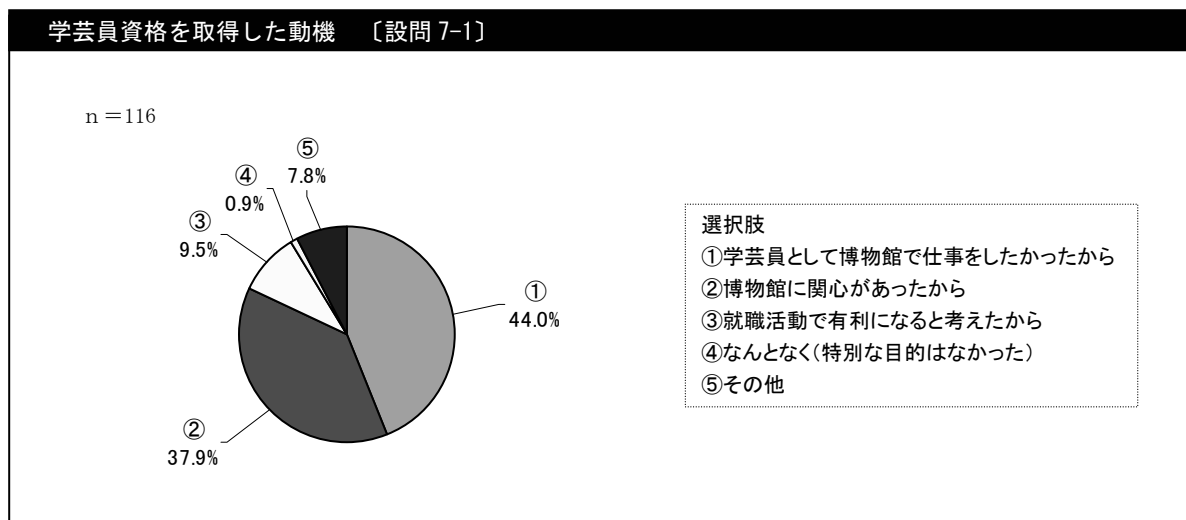
● **現在所属している部署における、博物館及び博物館活動との関係性** 【設問6-4】

- ・ 学芸員資格を持つ自治体職員のうち、現在所属している部署が博物館や博物館活動と関係があると答えた職員は全体の43.6%を示した。
- ・ 現在所属している部署が博物館や博物館活動と関係があると回答した自治体職員に対して、どのような関係か、あらかじめ設けた選択肢から該当するものを全て選んでもらった。最も多い回答は「博物館を所管する」で、全体の7割以上の回答者が選んだ。
- ・ 「その他」には、「教育委員会内の組織」、「博物館内の事務の一部と資料管理を担当」、「展示に関わる文化財の調査、保管遺物の貸し出し」、「文化財の管理(公開を含む)」、「修理に関する行政指導」、「指定管理者制度」、「文化事業などで関係がある」などの回答が見られた。



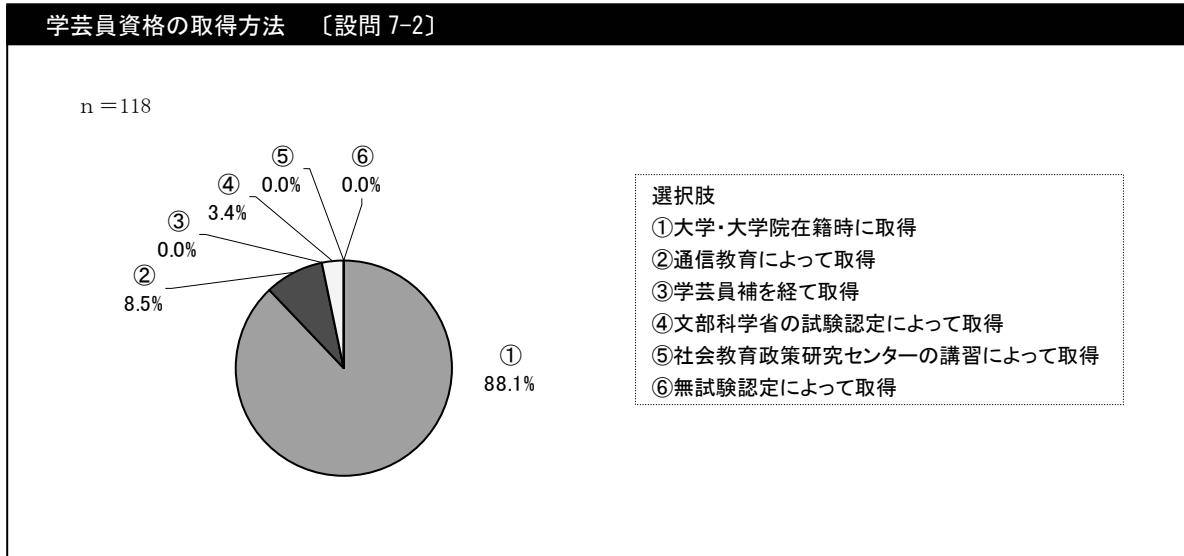
●学芸員として配属された経験の有無 [設問6-5]

- ・学芸員資格を持つ自治体職員のうち、今まで博物館に学芸員として配属されたことがあると答えた職員は全体の約3分の1に該当する。



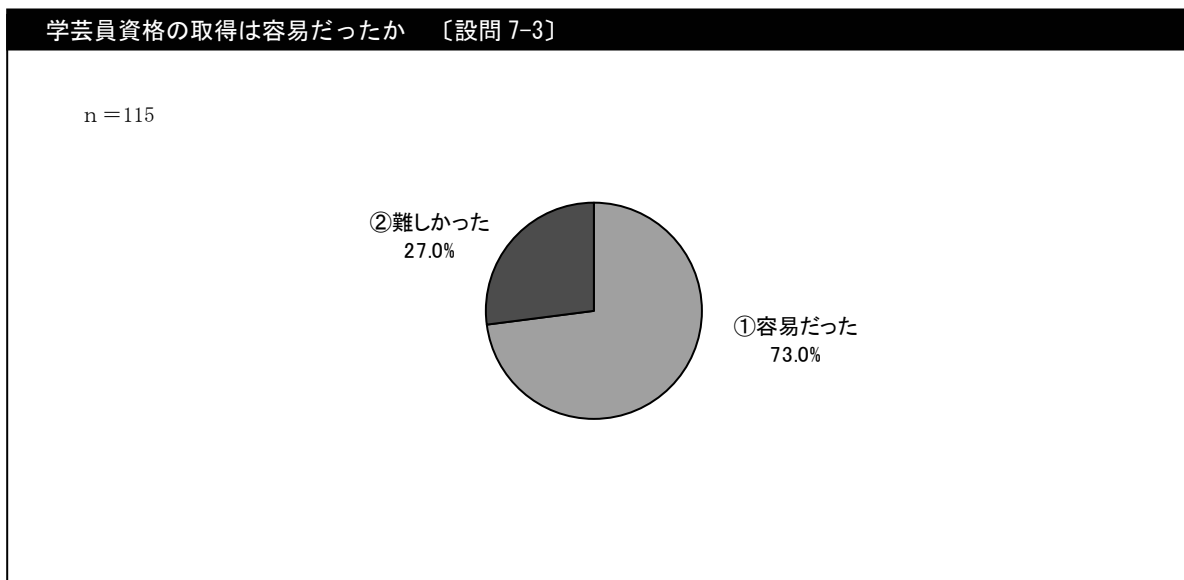
●学芸員資格を取得した動機 [設問7-1]

- ・学芸員資格を持つ自治体職員が、資格を取得した動機として最も多く答えたのは「学芸員として博物館で仕事をしたかったから」で全体の4割以上を占めている。「博物館に関心があったから」(全体の37.9%)という回答がこれに続いた。
- ・「その他」には、「美術に対して関心があった」、「埋蔵文化財発掘調査の仕事をしたかったから」などの回答が見られた。また、「業務に資料の管理や展覧会開催があり、資格と担当業務に関係性が強い」という回答は、業務を遂行する上で必要になったため、大学卒業後に資格を取得したものと推測することができる。



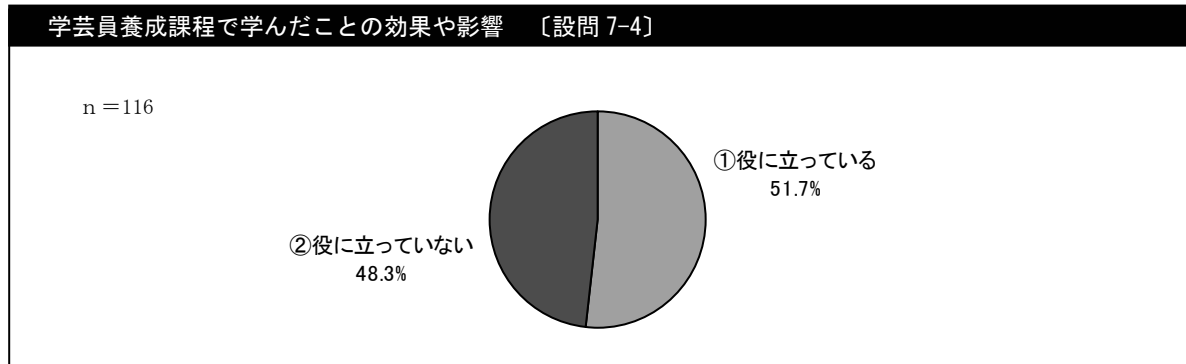
●学芸員資格の取得方法 【設問7-2】

- ・ 回答者の9割近くが、大学・大学院在籍時に学芸員資格を取得している。通信教育によって学芸員資格を取得した回答者は全体の8.5%である。



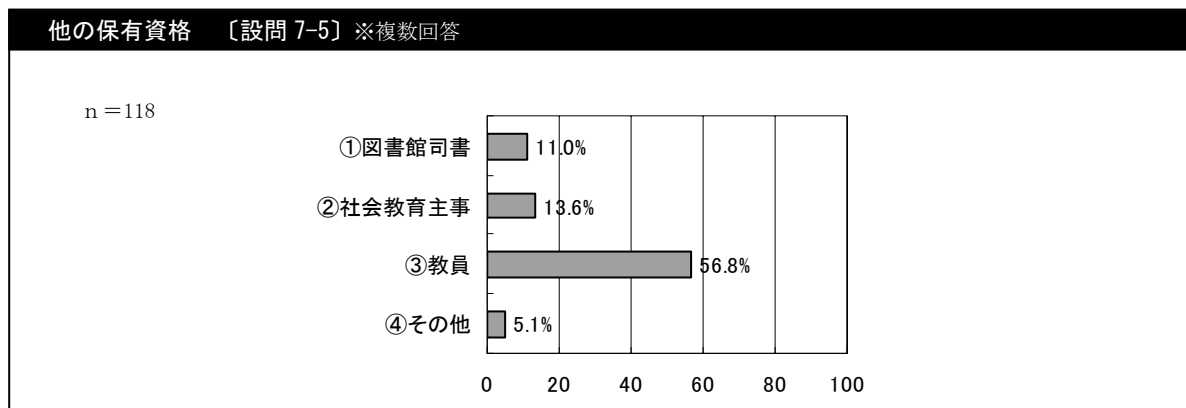
●学芸員資格の取得は容易だったか 【設問 7-3】

- ・ 回答者のうち、約4分の3の職員が学芸員資格の取得が容易だったと回答している。



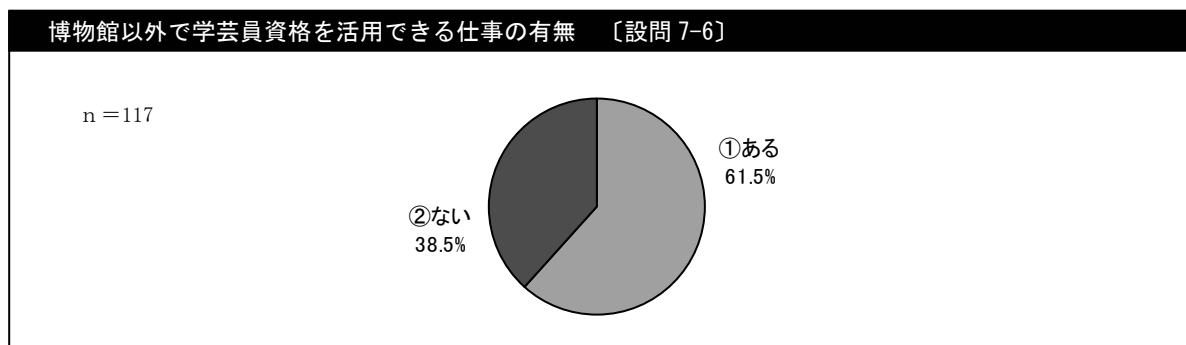
●学芸員養成課程で学んだことの効果や影響 【設問7-4】

- ・学芸員養成課程で学んだことが現在の業務に役に立っている、もしくは役に立っていないと回答した職員はほぼ半々の割合で分かれた(「役に立っている」と回答した職員が若干多い)。
- ・それぞれ役に立っている理由と役に立っていない理由について、自由に回答してもらった。役に立っている主な理由としては「業務への応用が利くこと」などが挙げられ、また、役に立っていない主な理由には「現在担当している業務に関連がないこと」などが挙げられた。



●他の保有資格 【設問7-5】

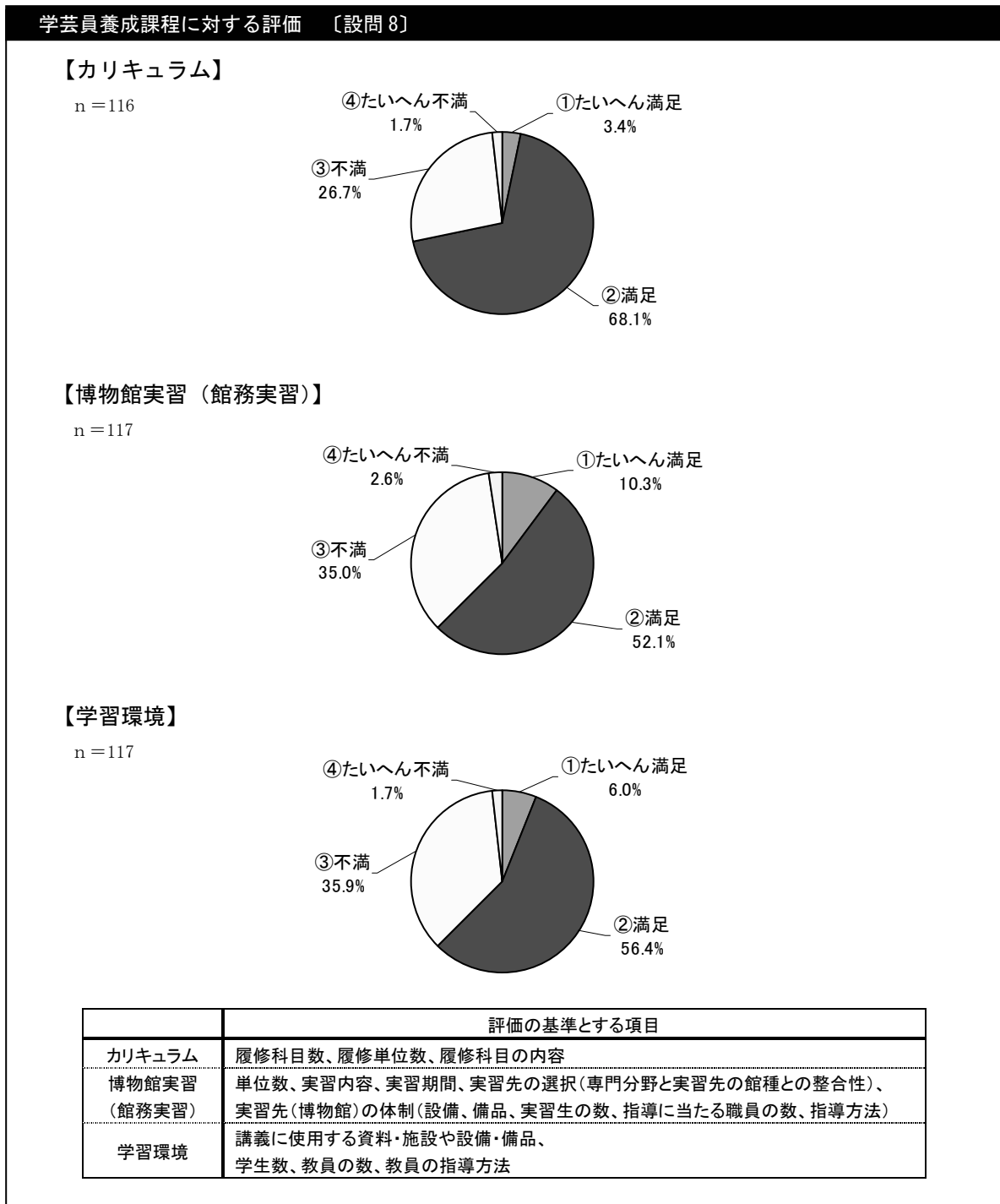
- ・回答者が、学芸員以外に取得した資格を全て選んでもらった。この設問では、対象となる118人の回答者のうち、78人の回答を得ることができた。最も多く見られた資格は「教員」であり、全体の半数以上の回答者が保有していることがわかった。



●博物館以外で学芸員資格を活用できる仕事の有無 【設問7-6】

- ・博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事があると回答した職員は、全体の6割強を示した。
- ・学芸員資格を活用できる仕事があると回答した者に、仕事の内容とその理由を答えてもらった。文化振興・文化財関係、地域振興関係、観光関係など、様々な業務や職種が挙げられた。

(3) 学芸員養成課程に関する事項



●学芸員養成課程に対する評価 [設問8]

- ・ 回答者が学んだ学芸員養成課程について、3つの項目を評価の基準に据えて、それぞれ「たいへん満足」、「満足」、「不満」、「たいへん不満」のいずれか1つを選んでもらった。
- ・ カリキュラムに対する評価は、満足度が高いものの、「たいへん満足」という回答は少なかった。
- ・ 博物館実習(館務実習)については、「たいへん満足」という回答の割合が、カリキュラムや学習環境よりも高く見られた。

5. 調査 E 会社員・団体職員を対象にした調査

(1) 会社・団体に関する事項

建設業(総合建設:博物館あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

製造業(展示・収蔵用什器製造)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

製造業(博物館あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視している
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	ギャラリー、アートセンターなどの展示企画の立案・推進

製造業(精密機器、映像機器、文化施設の管理運営:博物館の指定管理者実績あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	社会教育施設の運営

情報通信業(通信社、情報サービス)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

商業(販売、文化施設の管理運営: 指定管理者実績あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

教育・学習支援業(博物館の指定管理者実績あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	展示案内

サービス業(文化施設の管理運営・サービス: 博物館の指定管理者実績あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

サービス業(博物館展示)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視している
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	博物館の調査・研究、企画・デザイン・施工、展示の企画・設計・施工など

サービス業(学術・研究機関: 博物館あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視している
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	博物館における資料の整理・展示、問い合わせ対応など

その他(博物館関連団体:博物館の指定管理者実績あり)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ある
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	展示物の収集計画、展示計画、教育普及活動計画の策定

その他(国際文化交流機関)		
人事関連の業務に携わっている社員や職員による回答		
学芸員資格への対応	採用する場合、学芸員資格の保有を重要視するか	重要視していない
	学芸員資格を保有する社員・職員への特別な待遇の有無	—
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の有無	ない
	学芸員資格を保有する社員・職員がその知識や技能を活用できる業務の内容	—

●会社・団体に関する事項

- 会社・団体の人事関連の業務に携わっている社員や職員を対象に、学芸員資格への対応について調査を行った結果、12社・団体から回答を得ることができた。会社や団体が社員や職員を採用する場合に学芸員資格を持っていることを重要視しているかについて尋ねたところ、3社・団体が重要視していると回答した。さらに学芸員資格を持っていることを重要視していると回答した3社・団体に対して、学芸員資格を持つ社員や職員への特別な待遇はあるかについても尋ねたところ、3社・団体とも特別な待遇は行っていないとの回答を得た。また、学芸員資格を持っている社員や職員が、その知識や技能を活用できる業務があるかについて尋ねたところ、6社・団体が活用できる業務があると回答している。

(2) 学芸員資格を保有する会社員・団体職員に関する事項

建設業(総合建設:博物館あり)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:18年)		
業務内容	現在の業務内容	ギャラリーの展覧会企画運営、会社所蔵の美術品の管理
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	ギャラリーに関わる業務全般
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	美術館に勤務
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	設計業務、広報宣伝業務
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 疑問点などについて、学芸員に問い合わせや相談をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

製造業(展示・収蔵用什器製造)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:17年)		
業務内容	現在の業務内容	次世代のソリューションをどのように構築していくかを様々な角度から考察中
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	インテリアデザイン(家具デザインなど)
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	空間デザイン
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—

学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	たいへん満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

製造業(博物館あり)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:25年)		
業務内容	現在の業務内容	メセナ受付業務、展示施設の企画立案
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	営業、雑貨の商品開発、輸入衣料の仕入れ、ギャラリーの企画立案
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	業務上の必要性から(ギャラリーの企画担当者として)
	学芸員資格取得方法	文部科学省の試験認定によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	民間企業や財団、NPOでのアートマネジメント
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 疑問点などについて、学芸員に問い合わせや相談をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

製造業(文化財保管・展示設備)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:4年)		
業務内容	現在の業務内容	営業
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	文化財保存設備の設計・販売

博物館との 関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

製造業(精密機器、映像機器、文化施設の管理運営:博物館の指定管理者実績あり)

学芸員資格保有者による回答(勤務年数:2年)

業務内容	現在の業務内容	映像番組の制作進行及び海外作品の国内配給業務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	コンテンツ営業、コンテンツ企画、制作フォロー、制作進行、海外配給業務、ディレクター担当
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	—
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	広く一般を対象としたときの番組制作(テレビとは違う)、学校教育に外部から携わる仕事(教材制作や課外活動機会の提供など)
博物館との 関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 番組企画のアイデア探し
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	たいへん満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:3年)		
業務内容	現在の業務内容	副施設長、運営マネジャー(兼任)
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	運営マネジャー
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	教員、学芸指導主事
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	無試験認定によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との 関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	友の会に入会している

学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	—
	博物館実習(館務実習)に対する評価	—
	学習環境に対する評価	—
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	—
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:4年)		
業務内容	現在の業務内容	番組制作、据え付け作業
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	—
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との 関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っていない
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:16年)		
業務内容	現在の業務内容	映像番組の企画、シナリオ、制作や講座、観察会の講師など
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	その他
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	社会教育関連の民間会社(企画、展示、コンテンツ、構成)、放送・マスコミ関係
博物館との 関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

学芸員資格保有者による回答（勤務年数：22年）		
業務内容	現在の業務内容	企画営業、広報、施設運営計画策定、工事管理部門の統括
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	企画営業、工事監理、広報、施設運営計画策定など
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	その他
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	サービス業全般、企画業務
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答（勤務年数：20年）		
業務内容	現在の業務内容	博物館、科学館の運営管理
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	開発、製造、維持管理、国内販売、海外販売、社会教育施設の管理・運営
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	登録博物館以外の類似施設での同様の活動
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	業務
	博物館活動への参画	管理業務
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない
学芸員資格保有者による回答（勤務年数：7年）		
業務内容	現在の業務内容	施設運営のサポート
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	映像施設の運営、映像解説、映像番組制作
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	映像施設の運営、映像解説、映像番組制作

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	文部科学省の試験認定によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:1年未満)		
業務内容	現在の業務内容	映像施設の制作、展示解説、観察会、移動教室、質問への対応など
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	映像施設の制作、展示解説、観察会、移動教室、質問や取材への対応など
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	展覧会などの企画、展示品・商品のディスプレイ、接客
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	大学時代に大阪市立科学館の科学館大好きクラブに所属し、展示解説のボランティアを行っていた
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:23年)		
業務内容	現在の業務内容	営業事務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	営業、コンテンツ制作、ハードウェア保守・修理、博物館運営委託業務(現場)
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	学芸員(公立博物館)

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	教育委員会下の施設(埋蔵文化財センターなど)、建設会社、画廊・骨董品店
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:1年)		
業務内容	現在の業務内容	映像公開、展示案内、観察会案内
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	映像公開、展示案内、観察会案内、軽微な機器保守
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	映像公開、観察会案内、イベント企画・実施、ボランティア育成、ネットワーク管理、広報資料作成、機器保守、備品管理
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	デパートなどでの販売
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:1年)		
業務内容	現在の業務内容	展示、企画展、イベント運営、解説
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	通信教育によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

情報通信業(全国紙・新聞社)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:32年)		
業務内容	現在の業務内容	美術を主とした文化関連記事の取材執筆
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	書籍編集、新聞記事の取材執筆
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	なんとなく
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 疑問点などについて、学芸員に問い合わせや相談をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	たいへん満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	たいへん満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

情報通信業(通信社、情報サービス)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:7年)		
業務内容	現在の業務内容	クリッピング調査(全国紙担当)
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	主にクリッピング調査(雑誌、工業紙、専門紙)
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	観光イベントの企画、生涯学習施設や歴史、美術などの講座企画など
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:1年未満)		
業務内容	現在の業務内容	クリッピング調査(新聞・雑誌)
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	貿易事務
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	社会教育主事
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	月に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 疑問点などについて、学芸員に問い合わせや相談をする / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない

情報通信業(出版、カタログ制作)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:9年)		
業務内容	現在の業務内容	編集
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	編集、執筆、翻訳、通訳、展覧会コーディネーションなど
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	就職活動で有利になると考えたから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内にあるショップで買い物をする / 取材など現職で必要となる業務のため
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

運輸業(美術品輸送)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:18年)		
業務内容	現在の業務内容	美術品運送・営業事務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	営業事務
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	博物館・美術館に関連する業務には、収蔵品・展示品についての知識が必要なものも多い。特に展示作業・輸送作業・資料調査・環境設定など
博物館との関わり	来館頻度	月に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

商業(販売、文化施設の管理運営: 指定管理者実績あり)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数: 7年)		
業務内容	現在の業務内容	書籍仕入、企画販売
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	書籍仕入、企画販売、カタログ作成、選書リスト作成
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	書籍編集、書籍販売、HP作成、印刷発注
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	たいへん満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数: 6年)		
業務内容	現在の業務内容	経理補助
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	経理
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	オペレーター、プライダルコーディネーター、一般事務、校正
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数: 3年)		
業務内容	現在の業務内容	書籍の通信販売における営業、販促
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	ウェブサイト編集、システム開発
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	出版社の営業

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	ディスプレイ業界、インターネット、コンピュータ他のユーザビリティ向上
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	たいへん満足
	学習環境に対する評価	たいへん満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:7年)		
業務内容	現在の業務内容	営業事務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	営業事務、簡単なプログラミング
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	システム開発
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:14年)		
業務内容	現在の業務内容	書誌データ作成
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	博物館(学)、学芸員に関連する書籍や雑誌の編集、関連分野の仕事全般(資料整理、関連グッズの制作、美術品の輸送、保険、美術館建築、歴史的建築物の保存など)、博物館行政、関連分野での海外との交流
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:16年)		
業務内容	現在の業務内容	目録作成業務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	資料保存の考え方や、展示についての知識などは、博物館以外でも応用できるのではないかと考える。アーカイブ事業・郷土資料の保存なども注目されつつある中、様々な場面で役立てられる可能性はあると思う(学校などの教育にも/ただし、有資格者にその学習内容がちゃんと身に付いていればのこと)。資格の活用というより、学習内容が役立つのではないかと考える
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない

学芸員資格保有者による回答（勤務年数：21年）		
業務内容	現在の業務内容	特注データ作成
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	データ作成
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない

教育・学習支援業(博物館の指定管理者実績あり)		
学芸員資格保有者による回答（勤務年数：2年）		
業務内容	現在の業務内容	案内、観覧券の販売、展示室の監視
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	添乗員、バスガイドなど
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(文化施設の管理運営・サービス:博物館の指定管理者実績あり)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:4年)		
業務内容	現在の業務内容	美術館現場(受付、監視業務)責任者、イベント担当
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	通信教育によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	ギャラリー経営
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(博物館展示)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:2年)		
業務内容	現在の業務内容	ミュージアム系施設のプランニング
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	展示企画、コンセプト立案、グラフィックデザイン
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	なんとなく
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	月に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内にあるショップで買い物をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っていない

学芸員資格保有者による回答（勤務年数：17年）		
業務内容	現在の業務内容	全社経営企画の一環として、事業部制の組織を超えて、営業とデザインを強化する為の仕掛けを作ること
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	営業、開発営業、営業企画
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	教員
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	博物館、美術館、ショールームなどの企画、計画を含めた施設づくりとその運営、公共の社会教育をミッションに含んだ施設の企画、計画、施設づくりとその運営
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	友の会に入会している
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(学術・研究機関:博物館あり)		
学芸員資格保有者による回答（勤務年数：3年）		
業務内容	現在の業務内容	資料の整理作業、研究者への資料提供、照会への対応、論集の編集、資料紹介の執筆、資料の展示作業
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしなかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	社会教育主事
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	郷土資料館・文書館・図書館等、資料を収集・活用している施設における整理作業や展示など
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—

学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	不満
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(博物館展示)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:—)		
業務内容	現在の業務内容	営業職
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	特に文化行政や、様々なテーマの教育普及活動に携わる公務員
博物館との関わり	来館頻度	月に1回
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る
	博物館活動への参画	友の会に入会している
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っていない

サービス業(博物館展示)		
学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:18年)		
業務内容	現在の業務内容	ミュージアムに関する調査、研究、企画
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	博物館に関する調査・企画、設計、情報処理、営業事務、雑誌編集、広報、経理
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	ミュージアムに関わる民間企業全般
博物館との関わり	来館頻度	ほとんど行かない
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—

学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	不満
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(博物館展示)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:18年)		
業務内容	現在の業務内容	博物館運営管理
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	ディスプレイ(展示)企画設計制作施工に関する営業開発・事業推進
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	—
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	大学・大学院在籍時に取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	その他
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	画廊、倉庫業、美術輸送、ディスプレイ業、社史編集や企業史料に関する仕事
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	業務
	博物館活動への参画	業務
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

サービス業(文化関連団体:博物館あり)		
学芸員資格保有者による回答(勤務年数:2年)		
業務内容	現在の業務内容	図書のデジタル化、及びそれを利用した情報発信
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	司書業務、特に書籍のデジタル化(計画立案・プロジェクト推進・情報処理)、記事執筆(ブログ、会報)など
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	古文書デジタル化(プロジェクト推進・著作権処理)、学芸員業務(資料整理・展示・保存措置・原稿執筆など)、司書業務(図書整理・レファレンス・検索ツール作成)、社会保険業務(データエントリー)、銀行業務(データエントリー)、販売業務
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	博物館に関心があったから
	学芸員資格取得方法	通信教育によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった(内容ではなく、時間の確保が困難であった)
	学芸員資格以外に取得した資格	図書館司書、その他
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	資格取得から得られた知識のみを前提として、1. ファイリング(一般事務)、2. ショーイング関連業務(物販店など)、3. コンテンツ作成、編集業務、文献、映像など、4. 古物取り扱い業

博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / イベント(コンサート、映画上映会等)に参加する / 博物館内の図書・資料コーナー等で調べ物をする / 疑問点などについて、学芸員に問い合わせや相談をする / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	不満
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

その他(博物館関連団体:博物館の指定管理者実績あり)

学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:1年)

業務内容	現在の業務内容	管理運営施設の調整事務
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	企画提案・営業、運営施設管理全般
学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	就職活動で有利になると考えたから
	学芸員資格取得方法	通信教育によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	容易だった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ある
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	博物館から委託・依頼を受けて行う業務(施設・設備設計、展示・イベント企画、マーケティングなど)
博物館との関わり	来館頻度	1年に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内にあるショップで買い物をする / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響 (現在の業務に役立っているか)	役に立っている

その他(国際文化交流機関)

学芸員資格保有者による回答 (勤務年数:3年)

業務内容	現在の業務内容	芸術を紹介する様々なプロジェクトの企画・運営
	現在勤務している会社・団体において、今まで担当したことのある業務内容	—
	現在勤務している会社・団体以外で担当したことのある業務内容	美術館での広報、教育普及プログラムの運営サポートなど

学芸員資格の取得	学芸員資格取得動機	学芸員として博物館で仕事をしたかったから
	学芸員資格取得方法	通信教育によって取得
	学芸員資格を取得した印象(容易かどうか)	難しかった
	学芸員資格以外に取得した資格	—
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の有無	ない
	博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事の内容	—
博物館との関わり	来館頻度	月に何回も
	利用内容	展示(常設展、特別展)を見る / 教育普及活動(ガイドツアー、講義・講座、ワークショップ等)に参加する / 博物館内にあるカフェやレストランで食事をする
	博物館活動への参画	—
学芸員養成課程	カリキュラムに対する評価	満足
	博物館実習(館務実習)に対する評価	満足
	学習環境に対する評価	満足
	学芸員養成課程の効果・影響(現在の業務に役立っているか)	役に立っている

●学芸員資格を保有する会社員・団体職員に関する事項

- ・会社・団体で学芸員資格を持っている社員や職員に、学芸員資格の取得や博物館との関わり、学芸員養成課程などについて調査を行い、20社・団体(38人)から回答を得ることができた。
- ・学芸員資格を取得した動機について尋ねたところ、半数以上の20人は「学芸員として博物館で仕事をしたかったから」と回答を寄せた。次に「博物館に関心があったから」(13人)という意見が多く寄せられた。
- ・学芸員資格の取得方法について尋ねたところ、約8割の人が大学・大学院在籍時に取得していることがわかった。
- ・学芸員資格を取得した印象を尋ねたところ、半数以上の22人が容易だったと答えた。
- ・学芸員資格以外に取得した資格について尋ねたところ、最も多かったのは「教員」(14人)であり、次いで「図書館司書」(6人)、「社会教育主事」(2人)という結果になった。
- ・博物館以外に学芸員資格を活用できる仕事があるかについて尋ねたところ、全体の7割以上の方から活用できる仕事はあるとの回答を得た。
- ・博物館への来館頻度についても尋ねたところ、全体の6割の回答者が1年に何回も訪れていることがわかった。また、約2割の回答者からは月に何回も訪れているとの回答を得た。
- ・回答者が学んだ学芸員養成課程のカリキュラム、博物館実習(館務実習)、学習環境について、「たいへん満足」、「満足」、「不満」、「たいへん不満」のいずれか一つを選ぶことで、それぞれ評価してもらった。3つの項目全てにおいて「たいへん不満」という評価は聞かれなかった。カリキュラムに対する評価では、29人が「満足」、6人が「不満」、2人が「たいへん満足」と評価し、「満足」と「たいへん満足」を合わせると全体の8割以上の方が満足と評価している。博物館実習(館務実習)については、17人が「満足」と答え、「たいへん満足」、「不満」と評価した方はそれぞれ10人であった。学習環境については、19人が「満足」、14人が「不満」、4人が「たいへん満足」と評価し、3つの項目の中では最も多く「不満」の声が聞かれた。
- ・学芸員養成課程で学んだことが現在の業務で役立っているかについて尋ねたところ、7割以上の方から役に立っているという回答を得た。